2025年度 文芸学部 履修の手引　変更履歴

更新日	頁	変更前	変更後	備考
2025/03/31	4	—	歴史文化論演習a･b	休講科目の追加
2025/09/17	4	—	マスコミ特殊講義Ⅰ	休講科目の追加

Seijo University

2025 ACADEMIC GUIDE

Faculty of Arts and Literature

履修の手引

文芸学部

国文学科 文化史学科
英文学科 マスコミュニケーション学科
芸術学科 ヨーロッパ文化学科

※「電子ブックの使い方」はこちらを参照すること。
※やむを得ない事情により、記載内容が変更される場合がある。
その場合、記載内容を修正するとともに、
LiveCampusU等で周知するので、必ず確認すること。

成城大学

文芸学部　履修登録等に関する日程一覧

■ 学年暦

日程等		行事
前期	４月２日(水)	入学式
	４月８日(火)	前期開講
	４月29日(火)【昭和の日】	**授業実施**
	５月10日(土)	**振替授業実施（月曜日の授業を行う）**
	６月27日(金) ※５時限のみ休講	全学総会
	７月21日(月)【海の日】	**授業実施**
	７月22日(火)	前期授業終了
	７月23日(水)～７月30日(水)	学期末定期試験期間
	８月１日(金)～９月21日(日)	夏季休業
後期	９月22日(月)	後期開講
	９月23日(火)【秋分の日】	**授業実施**
	10月13日(月)【スポーツの日】	**授業実施**
	10月17日(金)～10月19日(日) ※17日(金)、18日(土)は休講	四大学運動競技大会
	10月25日(土)	**振替授業実施（金曜日の授業を行う）**
	11月１日(土)	文化祭準備（休講）
	11月２日(日)～11月３日(月)	文化祭
	11月４日(火)	文化祭後片付け（休講）
	11月８日(土)	**振替授業実施（月曜日の授業を行う）**
	11月24日(月)【振替休日】	**授業実施**
	12月25日(木)～2026年１月７日(水)	冬季休業
	１月８日(木)	授業開始
	１月20日(火)	後期授業終了
	１月21日(水)～１月30日(金)	学年末定期試験期間
	２月６日(金)～３月14日(土)	春季休業
	３月23日(月)	学位記授与式（卒業式）

■ 卒業論文

行事	日程等
卒業論文提出期間	12月10日(水)～12月20日(土) 13:00 【秋卒業対象者】6月20日(金)～6月30日(月) 16:30

■履　修

行　　事		日 程 等
抽選登録期間		４月２日(水)　9:00～４月４日(金) 16:00 ※抽選登録期間中は何度でも登録内容を変更可能。
抽選結果発表（自動登録）日時		４月５日(土)　12:00（予定）
履修登録期間開始 ※ ４月14日(月) 13：00までに一旦履修登録を行い、15日(火)以降に再検討を行うことが望ましい。		４月５日(土)　12:00～ ※履修登録期間中は何度でも登録内容を変更可能。
受講者数調整のための履修登録中断期間 (中断前に登録されていた受講者を対象に受講者数調整)		４月14日(月) 13:00～４月15日(火) 9:00
履修登録期間終了	3・4年次	～４月17日(木) 13:00
	1・2年次	～４月18日(金) 13:00
後期に抽選を行う科目の抽選登録期間		９月16日(火)　9:00～９月18日(木) 13:00
後期に抽選を行う科目の抽選結果発表		９月19日(金)　9:00（予定）
後期開講科目の履修削除および追加履修登録期間		９月19日(金)　9:00～９月26日(金) 13:00
他学部聴講申請書提出期間	前　　期	４月５日(土)　12:00～４月18日(金) 13:00
	後　　期	９月19日(金)　9:00～９月26日(金) 13:00
文芸学部英文学科早期卒業制度出願手続		３年次開講日～4月11日(金) 16:30
成城大学大学院文学研究科への進学を希望する成城大学文芸学部在学生のための科目等履修生制度		
出願期間		４月１日(火)～４月７日(月) 16:30
審査結果発表日		４月14日(月) 10:00（LiveCampusU）
受講手続期限		５月16日(金)

■教職課程

行　　事	日 程 等
教職課程ガイダンス（１年次）	日程等はLiveCampusUにて周知する
教職課程登録説明会（１年次）	2026年３月開催予定
教育実習校開拓ガイダンス（２年次）	12月頃開催予定
教育実習事前ガイダンス（３年次）	11月頃開催予定
教育実習直前ガイダンス（４年次）	４月８日(火) 18:00～
介護等体験登録説明会	10月頃開催予定
介護等体験事前ガイダンス	オンラインで実施予定。詳細はLiveCampusUにて周知する。
介護等体験直前ガイダンス	７月頃開催予定

■学芸員課程

行　　事	日 程 等
学芸員課程登録説明会（１年次）	2026年３月開催予定
博物館実習先開拓ガイダンス（２年次）	11月頃開催予定
博物館実習直前ガイダンス（３年次）	５月頃開催予定

文芸学部　2025年度休講科目一覧

■ 共通科目

授業科目	区　分
総合講座Ⅰ・Ⅳ	共通科目　選択科目　教養科目
特別講座Ⅰ・Ⅱ	
成城学Ⅱ・Ⅴ	
現代社会論Va・Vb・Ⅵa・Ⅵb・Ⅷa・Ⅷb	
情報社会論入門a・b	
社会構造論Ⅲa・Ⅲb	
宗教学入門a・b	
思想・人間論Ⅲa・Ⅲb	
文学入門a・b	
表象文化論入門a・b	
表現文化論Ⅰa・Ⅰb	
歴史文化論Ⅳa・Ⅳb・Va・Vb	
歴史文化論演習a・b（3/31 更新）	
文化人類学入門a・b	
空間システム論入門a・b	
地域空間論Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Va・Vb	
物理の世界a・b	
科学史a・b	
自然科学Ⅳa・Ⅳb・Va・Vb	
数理・自然科学演習a・b	
心身論Va・Vb	

授業科目	区　分
Academic Skills VA・VB	共通科目　選択科目　教養科目
European Studies A・B	
North American Studies A・B	
Japan Studies ⅠA・ⅠB・ⅡA	
海外短期語学研修（英語・就業体験準備）	
海外短期研修（マレーシア･就業体験研修）	
日本語（中級）Ⅱ	
日本語（上級）ⅣA・ⅣB	
データアナリティクス応用	
数理科学応用a・b	
図書館活用法	
テニス（C）	
サイクル・スポーツ（C）	
アクアエクササイズ（A）・(B)	
フィットネス（A）・(B)	
政治経済論入門Ⅰ・Ⅱ	
短期学外演習	
英文多読a・b	
データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2022年度以降入学者 共通科目　選択科目　教養科目
データサイエンス特殊講義Ⅰ・Ⅳ	
機械学習応用	

■ 学科科目

授業科目	区　分
古代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	国文学科
国語国文学講義Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ・Ⅷ	
芸術学特殊講義Ⅱ	芸術学科

授業科目	区　分
マスコミ講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	マスコミュニケーション学科
コミュニケーション講義Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ	
マスコミ特殊講義Ⅰ（9/17 更新）	

オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が週のある曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生はその時間帯に自由に教員を訪ね、質問・相談できる制度である。なお、オフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談ができるが、その際は予約を取っておくとよい。
なお、メールアドレス等が不明な場合は、文芸学部共用研究室に問い合わせること。

〈オフィスアワー URL〉
https://www.seijo.ac.jp/students/univ-system/officehour/falit.html

※LiveCampusUログイン後のページ上部、「関連リンク」からも確認可能です。

目　次

授業に関すること

Ⅰ 単位制度と履修 …… 8
Ⅱ 授　業 …… 9
Ⅲ 科目番号（科目ナンバリング）…… 10
Ⅳ 履修登録 …… 14
Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目 …… 15
Ⅵ 試験・レポート …… 20
Ⅶ 成　績 …… 22
Ⅷ GPA制度 …… 23
Ⅸ 卒業論文 …… 24
Ⅹ 他学部聴講制度 …… 25
Ⅺ 成城大学大学院文学研究科への進学を希望する成城大学文芸学部在学生のための科目等履修生制度 …… 26
Ⅻ 転学部・転学科 …… 29
XIII 秋卒業制度 …… 29
XIV 卒業延期制度 …… 30

人材育成の目的と3つの方針およびカリキュラムツリー

…… 31

文芸学部履修規定

Ⅰ 卒業要件単位数 …… 48
Ⅱ 主専攻・副専攻について …… 50
Ⅲ-1 共通科目履修方法 …… 51
Ⅲ-2 学科科目履修方法 …… 68
Ⅲ-3 文芸学部共通ゼミナール …… 86

全学共通教育科目

Ⅰ 全学共通教育の理念 …… 88
Ⅱ 全学共通教育科目における各種プログラム認定・修了要件 …… 91

教職課程

Ⅰ 教職課程 …… 94
Ⅱ 教職課程科目の履修 …… 97
Ⅲ 教職課程の説明会・ガイダンス …… 105
Ⅳ 教育職員免許状の申請等 …… 106

学芸員課程

Ⅰ 学芸員資格 …… 108
Ⅱ 学芸員課程の説明会・ガイダンス …… 109
Ⅲ 学芸員課程科目の履修 …… 110

社会調査士資格

…… 114

学則・その他

…… 115

成城大学学則
成城大学学位規則
キャンパスマップ

授業に関すること

Ⅰ 単位制度と履修 …… 8
Ⅱ 授　業 …… 9
Ⅲ 科目番号（科目ナンバリング） …… 10
Ⅳ 履修登録 …… 14
Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目 …… 15
Ⅵ 試験・レポート …… 20
Ⅶ 成　績 …… 22
Ⅷ GPA制度 …… 23
Ⅸ 卒業論文 …… 24
Ⅹ 他学部聴講制度 …… 25
Ⅺ 成城大学大学院文学研究科への進学を希望する
成城大学文芸学部在学生のための科目等履修生制度 …… 26
Ⅻ 転学部・転学科 …… 29
XIII 秋卒業制度 …… 29
XIV 卒業延期制度 …… 30

I 単位制度と履修

A 単位制度

1 単位制度

本学における学修は単位制度によって行われる。単位制度とは、所定の授業科目を履修することによって、４年以上の在学期間中に卒業に必要な総単位数を修得する制度である。

2 単位数

① 学年の学修期間は定期試験等の日を含めて35週であるが、これを２期に分ける（大学学則第11条・第13条参照）。授業科目は１か年35週または半期をもって完結する。
② 授業の単位は、45時間の学修（教室における授業時間と予習・復習等の教室外における学修時間とを含む）を必要とする内容をもって１単位とすることを標準とする。
③ 単位数はそれぞれの科目によって異なり、授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して計算される。

授業科目	授業期間	週回数	単位数	説明
講義科目・演習科目（ゼミナール）	半期	１回	２	週１回、半期の科目を２単位とする。
		２回	４	週２回、半期の科目を４単位とする。
	通年	１回	４	週１回、通年の科目を４単位とする。
外国語科目	半期	１回	１	週１回、半期の科目を１単位とする。
		２回	２	週２回、半期の科目を２単位とする。
	通年	１回	２	週１回、通年の科目を２単位とする。
		２回	４	週２回、通年の科目を４単位とする。
		３回	６	週３回、通年の科目を６単位とする。
スポーツ・ウエルネス実技科目・実習科目	半期	１回	１	週１回、半期の科目を１単位とする。
	集中	－	１	週１回、半期に相応する授業時間数によって編成される科目を１単位とする。
卒業論文	－	－	８	「卒業論文」を８単位とする。

※1回の授業時間（90分）は2時間に換算され、必要な学修時間から授業時間の合計を除いた時間が、予習・復習等授業時間外の学修時間の目安となる。
- 半期週1回2単位が付与される授業の場合
  45時間×2単位÷15週（半期）＝6時間（週当たり）―2時間（授業時間）＝毎週授業外に4時間の学修。

3 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）は、【履修規定の**第１表**　卒業要件科目および単位数】を参照のこと。

4 余剰単位

卒業要件単位数を超えて修得した単位は余剰単位とも称される。なお、その単位・成績も付与され、LiveCampusU（ライブキャンパスユー）の成績情報および成績証明書に記載される。

B 履修

1 年次配当

授業科目には配当年次が指定されている。**在学年次よりも上の年次に配当されている授業科目は原則として履修することができない。**

2 再履修

単位が修得できなかった授業科目を再び履修することを再履修と呼ぶ。**必修科目が不合格となった場合は、必ず再履修しなければならない。**

3 反復履修・重複履修の禁止

すでに単位を修得した授業科目を再び履修することを**反復履修**、４月開講時からの１年間に同一名称の授業科目を複数履修することを**重複履修**と呼ぶ。いずれも、特に認められた場合を除いて禁止されている。
※授業科目の名称にはシラバスや授業時間割表などに記載されている副題（〈　〉で囲まれている部分）は含まれない。
（授業科目名称の例）
- 「ABC演習〈XXX〉」と「ABC演習〈YYY〉」は同一名称の授業科目として扱う。
- 「英語A＆B（初級）a」と「英語A＆B（中級）a」は別の名称の授業科目として扱う。

4 成績評価の前提条件

当該授業科目について、出席すべき時間数の３分の１以上欠席した者は、当該授業科目修了の認定を受けることができない（大学学則第23条第１項）。

Ⅱ 授　業

A 学期と授業期間

本学の授業は１年を前期・後期の２学期に分けて行われ、授業期間は下記の３つに分かれる。

通　　年	前期及び後期
半　　期	前期または後期
集　　中	夏季、冬季、春季休業中等の一定期間

B 時限と授業時間

１時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限※
9:00 ～ 10:30	10:40 ～ 12:10	13:00 ～ 14:30	14:40 ～ 16:10	16:20 ～ 17:50	18:00 ～ 19:30

※６時限は補講時間帯（通常授業は行われない。）
　なお、土曜日は通常授業は行われない。（一部、資格科目等を除く。）

C 休　講

大学行事が行われたり、各授業科目担当者にやむを得ない事情が発生した場合に、授業を休講することがある。

D 補　講

休講により、授業の進行が予定より遅れた際に、臨時の授業を行うことがある。これを補講という。
補講は、原則として月～金曜日の６時限に行う。

E 講義室変更

都合により、講義室を変更する場合がある。

履修中科目の休講・補講・講義室変更等は、LiveCampusU（ライブキャンパスユー）で確認ができる。なお、電話での問い合わせは受け付けていないため、適宜LiveCampusUにログインして、最新の情報を確認すること。
※ LiveCampusUでは、教員から届出があり次第、随時情報を更新している。
急病等事前に告知ができないときは、授業当日の掲載になる場合がある。

【LiveCampusU】
LiveCampusUは、学生生活に必要な情報等をインターネットから閲覧・登録できるシステムで、大学ホームページよりアクセスできる。「ユーザ名・パスワード」を忘れてしまった場合などは、メディアネットワークセンターの窓口まで申し出ること。

大学ホームページ　https://www.seijo.ac.jp　　LiveCampusU　https://lc.seijo.ac.jp

Ⅲ 科目番号（科目ナンバリング）

概　　要

科目番号は、各授業科目に対して、体系的に編成された教育課程（カリキュラム）におけるその位置付け（学修の段階等も含む。）を表すために、各桁に示す分類に基づく数字又は英字を当てて用いることにより付されている。（これを「科目ナンバリング」という。）
この科目番号によって、当該授業科目がどのようなレベルの、どのような領域のものであるかがわかるようになっており、学習計画を検討する一助としても活用することができる。なお、科目番号は、シラバスに表示される。

［例］　文芸学部 国文学科における「近代文入門」

LJA _ C 1 1 _ 1 _ 0 1 5 1

①教育課程　②分野・区分・領域　③配当年次　④科目の性質　⑤科目の区別　⑥レベル

国文学科の学生が受講する科目であること、カリキュラム上は学科科目のうち必修の科目で、１年次配当と定められていること、学科による科目の位置づけでは、入門・基礎科目とされていること、国文学-近代に関する科目で、初級前半のレベルとされている、ということを示している。なお、他の分野・区分・領域等については以下分類表を参照のこと。

①教育課程

L J A	国文学科
L E N	英文学科
L A R	芸術学科
L C U	文化史学科
L M A	マスコミュニケーション学科
L E U	ヨーロッパ文化学科

②分野・区分・領域

分野		区分		領域	
A	共通科目－必修科目	1	WRD	1	－
		2	文芸講座	1	－
B	共通科目－選択科目	1	教養科目	1	全学共通教養科目群
				2	国際交流科目群
				3	データサイエンス科目群
				4	リテラシー科目群（IT科目）
				5	スポーツ・ウエルネス実技科目群
				6	西洋古典科目群
				7	他学部開設科目
		2	外国語科目	1	学部共通外国語
				2	特選外国語
		3	キャリア科目	1	－
C	学科科目－必修科目	1	－	1	－
D	学科科目－選択科目	1	演習科目	1	－
		2	実習科目	1	－
		3	講義科目	1	－
		4	特殊講義科目	1	－
E	学科科目－自由科目	1	自由科目	1	－
F	自由選択	1	他学科科目	1	国文学科開設科目
				2	英文学科開設科目
				3	芸術学科開設科目
				4	文化史学科開設科目
				5	マスコミュニケーション学科開設科目
				6	ヨーロッパ文化学科開設科目
G	教職関連随意科目	0	－	0	－

③配当年次

1	1年次から履修できる科目
2	2年次から履修できる科目
3	3年次から履修できる科目
4	4年次から履修できる科目

④科目の性質・⑤科目の区別

科目の分野・区分・領域、学科毎に異なる。以下の番号体系表を参照のこと。

⑥レベル＊全学共通教育科目を除く

1	初級前半	6	上級後半
2	初級後半	7	最上級前半
3	中級前半	8	最上級後半
4	中級後半	9	卒業論文
5	上級前半	0	区分なし

④科目の性質・⑤科目の区別の番号体系表

＊全学共通教育科目はこの通りではない。全学共通教育科目の番号体系表を参照のこと。

（共通科目　全学科共通）

科目の性質		科目の区別			
0	入門・基礎	X	学部共通科目	0	文芸講座
1	実習			1	WRD
2	外国語			2	西洋古典・ギリシャ
				3	西洋古典・ローマ
				9	統計学
		Y	他学部開設科目	0	区分なし
		E	学部共通外国語（英語） 特選外国語（英語） ※全学共通教育科目を除く	それぞれの外国語で各科目に適宜固有の番号を連番で割り当てている。特段の意味を有しない。	
		C	学部共通外国語（中国語）		
		G	学部共通外国語（ドイツ語）		
		F	学部共通外国語（フランス語）		
		i	学部共通外国語（イタリア語）		

（学科科目　全学科共通）

科目の性質		科目の区別			
9	発展	1	ゼミナール	0	区分なし
		9	卒業論文	9	卒業論文

（自由選択-他学科科目）※全学科共通

科目の性質	科目の区別
各学科の番号体系に従う	

（学科科目（国文学科））

科目の性質		科目の区別			
0	入門・基礎	1	国文学	1	上代
1	実習	2	漢文学	2	中古
2	外国語	3	国語学	3	中世
3	展開	4	国文学／漢文学	4	近世
		5	書道	5	近代
		6	上記カテゴリ全て	6	全ての時代

（学科科目（英文学科））

科目の性質		科目の区別		
0	入門・基礎	1	英語学	言語・文学・文化内で各科目に適宜固有の番号を連番で割り当てている。特段の意味を有しない。
1	実習	2	文学	
2	外国語	3	文化	
3	展開			

（学科科目（芸術学科））

科目の性質		科目の区別			
0	入門・基礎	1	美学・芸術学	1	入門
		2	美術史	2	基礎演習
1	実習	1	美学	0	美学
2	外国語	2	芸術学	0	芸術学
3	展開／講義・演習			1	音楽学
				2	演劇学
				3	映画学
		3	美術史	0	美術史
				1	日本美術史
				2	東洋美術史
				3	西洋美術史Ⅰ
				4	西洋美術史Ⅱ
		4	総合	0	総合
4	展開／特殊講義	1	美学	1	特殊講義
		2	芸術学		
		3	美術史		

（学科科目（文化史学科））

科目の性質		科目の区別		
0	入門・基礎	1	概論	ぞれぞれの区別の中で各科目に適宜固有の番号を連番で割り当てている。特段の意味を有しない。
		2	基礎演習	
1	実習	1	文化史実習	
3	展開	1	文化史演習	
		2	特殊講義・文化史	
		3	特殊講義・歴史学	
		4	特殊講義・民俗学	
		5	特殊講義・文化人類学	
		6	講義	
8	教職関連随意科目	1	教職関連随意科目	

（学科科目（マスコミュニケーション学科））

科目の性質		科目の区別			
0	入門・基礎	1	基幹科目＊	0	区分なし
1	実習			1	マスコミ原論
2	外国語			2	マスコミ史
3	展開			3	ジャーナリズム論
				4	リスクコミュニケーション論
				5	社会心理学
				6	広告心理学
				7	マスコミ研究法
		2	調査科目＊	ぞれぞれの区別の中で各科目に適宜固有の番号を連番で割り当てている。特段の意味を有しない。	
		3	横断科目＊		
		4	実践科目＊		

＊基幹科目：マスコミュニケーション学科の学問を構成する主要な研究分野の科目
＊調査科目：社会調査と社会心理学実験の技法を習得する科目
＊横断科目：基幹科目に隣接する領域について、総合的・学際的に学修する科目
＊実践科目：マスコミュニケーション学科の学問に関わる実践について学修する科目

（学科科目（ヨーロッパ文化学科））

科目の性質		科目の区別			
0	入門・基礎	1	ヨーロッパの文化	0	区分なし
1	実習	1	文化実習		
2	外国語	1	文法実習	1	独語
		2	コミュニケーション科目	2	仏語
3	展開	0	ヨーロッパの文化	0	区分なし
		1	西洋古典	1	独語・独語圏
		2	言語学	2	仏語・仏語圏
		3	思想		
		4	歴史		
		5	文学		
		6	比較文化		
		7	事情		
		8	広域芸術論		
4	展開つづき	1	哲学		
		2	宗教学		
		3	倫理学		
		4	哲学史		

全学共通教育科目の番号体系

（④科目の性質に対応）		（⑤科目の区別以降 3 桁に対応）						下4桁
科目群		分野		系列		基幹／展開		
A	リテラシー科目群	1	WRD	0	―	0	―	A100
		2	外国語科目					A200
		3	外国語科目（ディプロム・コース）					A300
		4	IT科目					A400
B	教養科目群	1	総合科目	0	―	0	―	B100
		2	成城学					B200
		3	系列科目	1	現代社会論系列	1	基幹	B311
						2	展開	B312
				2	社会構造論系列	1	基幹	B321
						2	展開	B322
				3	思想・人間論系列	1	基幹	B331
						2	展開	B332
				4	表現文化論系列	1	基幹	B341
						2	展開	B342
				5	歴史文化論系列	1	基幹	B351
						2	展開	B352
				6	地域空間論系列	1	基幹	B361
						2	展開	B362
				7	数理・自然科学系列	1	基幹	B371
						2	展開	B372
				8	心身論系列	1	基幹	B381
						2	展開	B382
C	キャリアデザイン科目群	0	―	0	―	0	―	C000
D	国際交流科目群	1	留学対策科目	0	―	0	―	D100
		2	英語等による地域研究科目					D200
		3	英語等による日本事情関係科目					D300
		4	英語等による特定のテーマを扱った科目					D400
		5	海外短期語学研修					D500
		6	受け入れ留学生科目					D600
		7	留学準備演習					D700
E	データサイエンス科目群	1	リテラシー科目	0	―	0	―	E100
		2	応用基礎科目					E200
		3	アドバンスド科目					E300
		4	選択科目					E400
F	スポーツ・ウエルネス教育科目	1	スポーツ・ウエルネス講義・演習科目	1	スポーツ文化	0	―	F110
				2	ウエルネス文化			F120
				3	身体表現文化			F130
		2	スポーツ・ウエルネス実技科目	0	―	0	―	F200

Ⅳ 履修登録

1 履修登録とは

履修登録は、自分が履修しようとする授業科目を登録する手続きである。この手続きがなされていなければ授業科目の履修はできず、また単位も授与されない。
原則として4月に、前期・通年科目とあわせて後期科目についても登録する必要があるが、一部、特定の方法・期間にしか登録できない授業科目もあるため、1年間の履修計画を立てた上で、所定の時期に適切に履修登録を行う必要がある。（p.17　Ⅾその他の手続きを必要とする授業科目）

2 履修登録

LiveCampusUを利用した履修登録方法の詳細については、履修登録マニュアル（大学ホームページ、または、LiveCampusUよりダウンロード可）を参照すること。

3 登録期間

巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

4 登録時の注意点

① 履修の手引、シラバス等をよく読み、履修する授業科目を決定した後に履修登録をすること。
② 教務部が予め登録している授業科目は原則として取り消すことができない。
③ 登録の締切日時を厳守すること。登録締切後は、授業科目の追加や、登録した授業科目の訂正・削除を行うことはできない。なお、履修方法上の誤り等により教務部から訂正を指示する場合があるが、この場合はその指示に従うこと。
④ 病気等、やむを得ない理由により締切日時までに登録を完了できない場合は、事前に教務部に相談し、手続きに関する指示を受けること。

【前期開講１週目の授業について】
- 教務部が予め登録している授業科目、抽選で受講が決定した授業科目については、１週目の授業から出席すること。
- 選択科目は、原則として１週目の授業では、授業概要の説明が行われる。いろいろな授業に出席し、本年度履修する授業科目を計画的に選択すること。この期間中は、授業途中に教室の出入りをしても構わない。

5 履修登録の注意点

① 履修登録のできない授業科目
- 在学年次よりも上の年次に配当された授業科目
- 教務部が予め登録している授業科目で自分のクラス以外の授業科目
- **すでに単位を修得した科目**（例外もあるので、詳細は【履修規定】を参照のこと）
- 履修するための前提条件（所定科目の履修・修得等）を満たしていない科目

② 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目
履修登録の前に特別な履修登録手続きを必要とする授業科目がある。詳細については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

③ 履修科目登録上限単位数
履修登録することのできる単位数には上限が定められているので、上限の単位数を超えないよう十分留意して登録すること。詳細については、各学科の【履修規定 Ⅲ-2 学科科目履修方法　１履修科目登録上限単位数】を参照すること。

④ 本年度履修登録する授業科目がない場合
本年度履修登録する授業科目がない場合でも、必ずLiveCampusUの履修登録メニューに表示される学籍情報を確認のうえ、「登録して履修登録へ進む」ボタンをクリックすること。

V 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目

A 抽選登録を必要とする授業科目

1 抽選登録

授業の性質や使用する機材の台数の関係上、受講者数に定員を設ける授業科目がある。これらについては、履修登録期間の前に抽選登録が必要である。
抽選登録の要領は以下のとおりだが、登録方法の詳細については、履修登録マニュアル（大学ホームページ、または、LiveCampusUよりダウンロード可）を参照すること。
なお、抽選登録期間中は、登録した授業科目を何度でも変更・削除することができる。

2 抽選登録期間・抽選結果の発表

抽選登録期間および発表日時は巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
抽選登録を行った授業科目で、抽選により履修が許可されたものは、自動的に履修登録が行われ、不許可となったものは登録されない。抽選結果については、LiveCampusUの履修登録画面で確認すること。

3 抽選登録を必要とする科目

抽選登録を必要とする授業科目は、以下のとおりである。

分野・区分	授　業　科　目	
共通科目	WRDⅡ（注１） （マスコミュニケーション学科以外の新入生）	
共通科目 外国語科目	学部共通外国語（注２） （英語・独語・仏語・中国語・イタリア語）	独語選択（初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級ａ・ｂ）
	ディプロム・コース （英語・独語・仏語・スペイン語・韓国語）	仏会話選択ａ・ｂ
	英語エクステンシヴ・リーディングA・B	仏語選択（初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級ａ・ｂ）
	英語リスニング＆スピーキング （初級ａ・ｂ、中級ａ・ｂ、上級ａ・ｂ）	スペイン語選択（初級ａ・ｂ）
	英語リーディング＆ライティング （初級ａ・ｂ、中級ａ・ｂ、上級ａ・ｂ）	中国語選択（初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級ａ・ｂ）
	英会話選択ａ・ｂ	韓国語会話選択ａ・ｂ
	英文多読ａ・ｂ	韓国語選択（初級ａ・ｂ）
	独会話選択ａ・ｂ	
共通科目 教　養　科　目	現代社会論演習a・b	ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ
	社会構造論演習a・b	身体表現・スタディーズⅠ～Ⅳ
	思想・人間論演習a・b	データサイエンス概論
	表現文化論演習a・b	データサイエンス基礎
	歴史文化論演習a・b	データアナリティクス基礎
	地域空間論演習a・b	機械学習基礎
	生命科学の世界a・b	コンピュータ・リテラシー A1、A2、B～E
	数理・自然科学演習a・b	図書館活用法
	心身論演習a・b	スポーツ・ウエルネス実技科目群
	スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ	
共通科目 キャリア科目	キャリア・ベーシックⅠ～Ⅲ	キャリア・プラクティスⅠ～Ⅵ
国文学科 学　科　科　目	国語国文学実習Ⅰ～Ⅷ	
英文学科 学　科　科　目	アカデミック・ベイシックス科目	アカデミック・プラクティス科目
	クリエイティヴ・プラクティス科目	
マスコミ学科 学　科　科　目	マスコミ実習Ⅰ～Ⅳ	マスコミ特殊講義Ⅱ・Ⅵ
ヨーロッパ文化学科 学　科　科　目	独語コミュニケーションⅠ～Ⅳ	仏語コミュニケーションⅠ～Ⅳ
学芸員課程	博物館資料論	博物館実習（美術史） 博物館実習（民俗学） 博物館実習（考古学）
	博物館資料保存論	

【注意事項】

注1）WRDⅡ（マスコミュニケーション学科以外の新入生）の申請は後期に行う。
WRDⅡの単位未修得者は、教務部が事前登録を行う。

注2）学部共通外国語のうち、後期開講科目の申請は後期に行う。

注3）本年度休講科目は「文芸学部　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

4　登録上の注意

①「コンピュータ・リテラシーＡ１」と「コンピュータ・リテラシーＡ２」はセットで履修することになっている。抽選登録をする際は、Ａ１のみ登録する。抽選の結果、履修が許可された場合、セットとなるＡ２のクラスが自動的に履修登録される。
②「博物館資料論」と「博物館資料保存論」はセットで履修することになっている。抽選登録をする際は、「博物館資料論」のみ登録する。抽選の結果、履修が許可された場合、セットとなる「博物館資料保存論」のクラスが自動的に履修登録される。

5　定員に余裕がある授業科目の履修登録

抽選の結果、定員に余裕がある授業科目については、履修登録期間において先着順で登録を受け付ける。日程の詳細は巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

B　履修登録期間中に受講者数の調整を行う授業科目

1　対象科目

全学共通教育科目（p.88 ～ p.92）
（「抽選登録を必要とする授業科目（p.15）」、「その他の手続きを必要とする授業科目（p.17）」を除く）

2　受講者調整対象科目の決定と調整結果の発表

履修登録期間中に登録者数が多数にのぼり、教室の収容定員を超えるなどの理由により授業環境が整わないと大学が判断した授業科目は、受講者数の調整を行い、受講者及び定員を決定する。
日程の詳細は巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
調整結果については、LiveCampusUの履修登録画面で確認すること。

なお、調整の対象となった科目、ならなかった科目、いずれも履修登録期間中は定員の範囲内で自由に削除・登録することが可能である。

C　その他の手続きを必要とする授業科目

1　選考を行う授業科目

下記の授業科目は、受講者数に定員を設けているため、開講前または開講１週目の授業等で選考を行う（後期開講科目は後期に行う）。詳細については掲示を確認すること。

- 「映像コミュニケーション」
- 「ビジネス英語ａ・ｂ」
- 「マスコミ実習Ⅴ」
- 「マスコミ実習Ⅵ」

なお、履修が許可された者は、教務部が履修登録を行う。**登録された授業科目は取り消すことができない。**

2 海外短期語学研修・海外短期研修

4月（夏季）および10～11月（春季）に研修内容および申込方法に関する説明会を行うので、参加希望者は出席すること。説明会の予定はLiveCampusUの連絡通知等で周知する。また、研修参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。
やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。

海外短期語学研修（英語・夏季）	2単位	【研 修 先】アルバータ大学（カナダ） 【期　　間】8月〔約4週間〕 【単　　位】本年度後期科目として単位を授与する。
	2単位	【研 修 先】オタゴ大学（ニュージーランド） 【期　　間】8月～9月〔約4週間〕 【単　　位】本年度後期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修（英語・春季）	2単位	【研 修 先】ニューカッスル大学（オーストラリア） 【期　　間】2月～3月〔約4週間〕 【単　　位】翌年度前期科目として単位を授与する。
	2単位	【研 修 先】コロラド大学ボルダー校（アメリカ） 【期　　間】2月～3月〔約3週間〕 【単　　位】翌年度前期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修（独語・春季）	2単位	【研 修 先】ドレスデン工科大学（ドイツ） 【期　　間】2月～3月〔約4週間〕 【単　　位】翌年度前期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修（仏語・春季）	2単位	【研 修 先】西部カトリック大学（フランス） 【期　　間】2月～3月〔約3週間〕 【単　　位】翌年度前期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修（中国語・夏季）	2単位	【研 修 先】北京大学（中国） 【期　　間】8月～9月〔約4週間〕 【単　　位】本年度後期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修（スペイン語・夏季）	2単位	【研 修 先】アルカラ大学 【期　　間】8月～9月〔約3週間〕 【単　　位】本年度後期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修（スペイン語・春季）	2単位	【研 修 先】アルカラ大学 【期　　間】2月～3月〔約3週間〕 【単　　位】翌年度前期科目として単位を授与する。

2021年度以降入学者のみ履修可

海外短期語学研修（英語・夏季）	1単位	【研 修 先】マレーシア工科大学（マレーシア） 【期　　間】8月〔約2週間〕 【単　　位】本年度後期科目として単位を授与する。

履修上の注意については、p.54 第3表の注意事項③～⑥を併せて参照すること。

3 キャリア・エクスペリエンス

「キャリア・エクスペリエンス」（後期開講）を履修登録すると、前期同一曜日時限に開講される「キャリア・エクスペリエンス事前講義」（前期開講）も自動的に登録される。従って、本科目は前期の履修登録期間中に登録をしなければならない。
第１回の授業で詳細についてガイダンスを行うので、必ず出席すること。

4 スポーツ・ウエルネス実技科目［集中コース］

スポーツ・ウエルネス実技科目のうち、集中コースの科目は、**履修登録をする前に必ずスポーツ・ウエルネス科で履修申し込みの手続きを行い、申し込み手続き完了後に履修登録を行わなければならない。**授業内容を参照の上、以下に示すとおり履修手続きを行うこと。
なお、やむを得ない理由によりコースが中止となる場合があることを考慮し、卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。

申し込み日

スキー：９月中旬
※申し込み日、および申し込み方法の詳細については、シラバス、LiveCampusUの連絡通知等を確認すること。

［定員に空きがある場合の追加］

9号館3階の共通教育研究センターで手続きを行うこと。

スポーツ・ウエルネス科での申し込み手続き完了後、LiveCampusU にて履修登録を行う。

Ⅵ 試験・レポート

A 試　験

1 試験と単位授与

履修登録をしている授業科目の成績は、学期末、学年末に実施される定期試験および授業への参加度等も総合した成績により評価され、授業科目担当者により合格と判定された者は、単位が授与される。

2 試験の種類

① **定期試験**
- 学期末定期試験…前期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験
- 学年末定期試験…後期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験

② **定期試験に代わるレポート**…定期試験の代わりに、レポートで実施される試験
提出日・提出先は授業科目担当者により異なる。

③ **追試験**…病気その他やむを得ない事由により、定期試験を受験できなかった場合に授業科目担当者の判断により実施される試験（要手続）

※ 授業期間中に実施される試験や「定期試験に代わるレポート」は、追試験の対象にはならない。

3 試験についての連絡

定期試験および定期試験に代わるレポートの詳細は、LiveCampusUにて発表する。その他、授業内で課される課題（小テスト等）については、授業科目担当者より直接指示がなされる。

B 定期試験

1 注意事項

① 履修登録がなされていない授業科目の受験は認めない。
② 不正行為は学則に基づき処分される。

2 試験期間

巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

3 試験時間

原則60分とする。

4 試験時間割の発表

試験時間割は、原則として定期試験期間の約１週間前にLiveCampusUにて発表する。

5 持ち込みを許可する参照物等

試験の際に持ち込みを許可する参照物等がある場合には、LiveCampusUにて発表する。

6 受験心得

① **学生証を必ず持参**すること。
※ 学生証を忘れた場合は、事前に学生課で受験許可証の交付を受けること。
② 試験場には、**定刻までに入室**すること。ただし、試験開始後20分までは遅刻者の入室を認める。
③ 試験開始後30分以内は退室できない。
④ 答案の氏名欄（学籍番号、氏名）と出席カードは、**ペン（鉛筆以外）**で記入すること。
⑤ **答案用紙を試験場から持ち出すことは一切認めない**。また、**無記名答案は無効**となる場合があるので注意すること。

7 試験開始時間の変更および中止

小田急線の新宿から相模大野までの全区間が運行を停止した場合、気象庁から東京23区西部に暴風警報等が発令された場合および大規模地震の警戒宣言が発令された場合、定期試験開始時刻の変更（繰下実施等）あるいは定期試験を中止する場合がある。

C 定期試験に代わるレポート

レポートは原則として本人が提出し、**提出期限を厳守**すること。
また、提出先によって提出要領が異なるので、以下の指示に従って提出すること。

1 教務部に提出する場合

表　紙
① 教務部で配付する**「指定の表紙」**を使用する。
② 表紙には必ず**「整理番号」**（LiveCampusUを参照すること）を記入する。

提出書式
〈パソコンを使用する場合〉
横書き（A４判）
〈手書きの場合〉
提出するレポートは必ずペン（鉛筆以外）書きとすること。
① 原稿用紙指定の場合
横書き（A４判400字詰め）　縦書き（B４判400字詰め）
② レポート用紙の場合
横書き（A４判）
※ 授業科目担当者から指示がある場合はそれに従うこと。

2 教務部以外に提出する場合

提出要領
用紙等提出要領は、授業科目担当者の指示に従うこと。

D 追試験

病気その他のやむを得ない理由により定期試験期間中に実施される「定期試験」を受験できなかった場合、「追試験受験願」を提出することができる**（「定期試験に代わるレポート」は除く）**。ただし、以下の理由によるもの以外は「追試験受験願」の提出は認められない。また、提出に係る締切日時等の注意事項はLiveCampusUにて発表する。

1 「追試験受験願」の提出資格および受付時間

① 病気およびケガ
（医療機関が発行した診断書（原本）、または、これに準ずるものを添付　＊当日受験できないことが確認できること。また、医療機関への受診日、病名および加療（療養）期間等が明記されていること。）

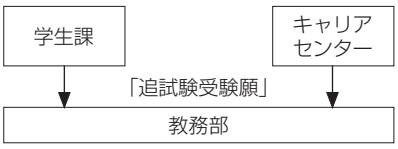
② 忌引
（会葬礼状（原本）または死亡診断書（写し）添付　※原則として、適用日数は死亡日（または通夜・葬儀）当日を1日目と数え、血族および配偶者の場合、以下の通りとする。
父母・配偶者・子　連続7日間、祖父母・おじ・おば・兄弟姉妹　連続5日間、曾祖父母　連続3日間、甥姪・いとこ　連続2日間。いずれも土日を含めて連続した日数。）

③ 交通機関の遅れ
（遅延証明書添付　＊試験日当日に提出すること。遠距離通学など当日の来校が難しい場合は、当日中に学生課に電話にて仮申請し、翌日、手続きをすること。）

④ 就職試験当日
（就職にかかわる資格試験、教育実習期間および館園実習期間との重複を含む。出席証明書添付。）

⑤ その他、教務委員会および厚生補導委員会の審議で正当と認められた事項

2 提出要領



① 学生課またはキャリアセンターから「追試験受験願」の用紙を受け取る。
② 必要事項を記入後、学生課またはキャリアセンターに提出し、承認印を受ける。
③ 教務部に「追試験受験願」を提出する。

※ 教務部から授業科目担当者に追試験実施有無を問い合わせ、実施の回答のあった授業科目についてのみ試験を実施する。なお、追試験がレポートに代わる場合もある。また、追試験受験願提出の理由が正当なものであっても、授業科目担当者の判断により、追試験を実施しないことがある。

Ⅶ 成　績

1 成績評価

成績評価は、前期･後期に実施される定期試験等の他、授業への参加度等も総合して行われる。成績評価基準は授業科目によって異なるので詳細はシラバスを参照すること。なお、成績評価は以下のように表示される。

	合格				不合格	
素　点	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価 成績証明書	秀	優	良	可	不可	／
英文成績証明書	E	V	G	S	F	／

※／（スラッシュ）は、評価不能な場合、即ち出席不良・定期試験等未受験・レポート未提出等で評価できない場合に表示される。

2 成績評価の開示

成績評価は、前期成績を９月上旬頃、学年（後期）成績を３月上旬頃にLiveCampusUにて開示し、学生の学修状況把握のため、保証人に対しても開示する。
開示日や保証人に対する成績開示不同意申し出についての詳細については、LiveCampusUにて周知する。

3 成績評価問い合わせ制度

本制度は、本人の成績評価に疑問がある場合、授業科目担当者に問い合わせの申請をすることができ、その回答および結果を申請者本人に開示する制度である。
なお、申請条件・手続き等は以下のとおりである。

■ **申請受付窓口**
教務部

■ **申請の条件**
① 当該科目の授業に３分の１以上欠席していないこと（大学学則第23条第１項）。
② 当該科目の定期試験、定期試験に代わるレポートを全て受験・提出していること。
③ 成績評価の基準（授業科目担当者がシラバスの「成績評価の方法」に記載している条件）を満たしていること。

■ **申請の手続きおよび受付期間**
必ず申請者本人が申請すること。
- 当該年度前期成績：詳細は７月にLiveCampusU等で発表する。
- 当該年度学年（後期）成績：詳細は１月にLiveCampusU等で発表する。

■ **回答および結果の開示方法**
教務部にて授業科目担当者からの回答を受領後、申請者へLiveCampusU等で開示する。

Ⅷ GPA制度

1 制度の概要と目的

成績評価の方法として、GPA（grade point average）制度を実施している。
GPAは、単なる成績評価の平均ではなく、授業科目ごとの単位数の違い（＝学修に要した時間の差異）が反映された、単位修得に向けた努力や学修計画の的確さ等を映し出す総合的な成績評価の指標である。この制度を通じて、学生自身が、自分にとって必要とする授業科目が何であるかを考え、履修を自己管理し、学修成果がどのレベルに位置するかを把握し、さらなる勉学意欲を高めるための指標とすることが重要である。なお、今後、GPAは、学修状況に関する総合的な判断等にも活用される見込みである。

2 GPと成績評価との対応およびGPA値の算定方法

GPA値は、以下のとおり、履修した個々の授業科目の成績評価に対応したGP（grade point）に基づいて算定する。

	合　格				不合格	
素　点	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価	秀	優	良	可	不可	／
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	

$$\text{GPA値} = \frac{\text{4.0×「秀」の総修得単位数＋3.0×「優」の総修得単位数＋2.0×「良」の総修得単位数＋1.0×「可」の総修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「不可」および「／」の単位数を含む。）}}$$

※GPA値は、小数第3位を四捨五入し、小数第2位まで表示する。
※GP（grade point）は「成績評定点」を、GPA（grade point average）は「成績評定点平均」をそれぞれ意味する。

3 GPA値算定から除外する授業科目

① **カリキュラム上卒業要件単位として認められていない授業科目**
② 成績評価を合否によって行う授業科目。ただし、この授業科目が不合格の場合、その単位数は総履修登録単位数に含まれる。
③ 認定によって単位修得が認められた授業科目

4 GPA値の表示

各年度および通算のGPA値をLiveCampusUの成績ダッシュボードに表示し、成績通知書および成績証明書に記載する。

5 留 意 事 項

不合格科目の履修登録単位数はGPA値の算定に含まれる。従って、履修している授業科目を途中で放棄するなど不合格科目が増えるとGPA値は低くなる。よって、履修登録に当たっては、むやみに行うことなく、よく考えた上で履修する授業科目を決めることが肝要である。

Ⅸ 卒業論文

卒業論文提出要領

文芸学部の卒業論文提出要領は、国文学科と、英文・芸術・文化史・マスコミュニケーション・ヨーロッパ文化学科で異なる。手引の記載内容と併せて、大学ホームページやLiveCampusUに掲載される卒業論文提出に関する案内も必ず確認すること。

【国文学科】

1 提出期間

巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
※ 卒業論文は必ず本人が提出し、提出期限を厳守すること（郵送不可）。

2 提出先

１号館１階　教務部

3 提出内容

論文：正本1部、副本（正本をコピーしたもの）1部
副本も正本と同様の体裁に整え、提出すること。

4 口頭試問

期日、時間等、詳細については、１月中旬に別途掲示する。
（秋卒業対象者）７月下旬に口頭試問を行う。期日、時間等、詳細については、各学科より掲示する。

5 原稿用紙

- 縦書きの場合はB４判400字詰、横書きの場合はA４判400字詰の原稿用紙を使用すること。
- 使用する筆記具は、黒または青のペンまたは万年筆とする。

※ 規定の書式があるので、大学ホームページを確認すること。

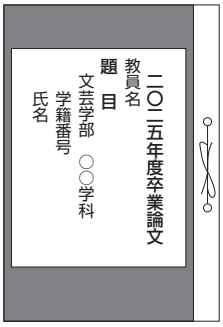
6 表紙

厚紙総クロスの黒表紙をつけ、その黒表紙上に「必要事項」を記入した用紙（15cm×10cm程度）を貼付すること。

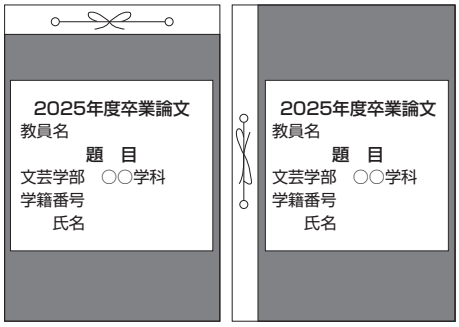
【表紙の書き方】

【必要事項】
① 2025年度卒業論文（正本／副本）
② 所属ゼミナール（担当教員名）
③ 題目
④ 学部・学科
⑤ 学籍番号
⑥ 氏名

（縦書の場合）



（横書の場合）



※原稿用紙、黒表紙、とじひもは大学食堂棟売店等で販売している。
※規定の書式があるので、大学ホームページを確認すること。

7 とびら（中表紙）

とびら（中表紙）にも表紙と同じ事項を記入する。

【英文学科・芸術学科・文化史学科・マスコミュニケーション学科・ヨーロッパ文化学科】

1 提出期間	巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。 ※ 卒業論文は必ず本人が提出し、提出期限を厳守すること。
2 提出先	WebClassによる**オンライン提出**
3 口頭試問	期日、時間等、詳細については、１月中旬に別途掲示する。 （秋卒業対象者）７月下旬に口頭試問を行う。期日、時間等、詳細については、各学科より掲示する。
4 提出方法	• WebClassを用いたオンライン提出とする。 • 卒業論文の提出形式はPDFファイルとし、ファイル名に「指導教員名」「学籍番号」「学生氏名」を空白を入れず明記すること。（例：成城花子先生21L7777成城太郎） • WebClassで1回に送信できるPDFファイルの容量の上限は40MB。 • 40MBを超える場合は、教務部に12月19日（金）16時30分までに提出方法の相談をすること。 • WebClass上に学科毎に「2025年度【●●学科】卒業論文提出用」コースが設置されている。コース内のテスト/アンケートに「2025年度【●●学科】卒業論文提出」が設置されているので、そちらに提出すること。 • 提出者にはWebClassより「レポート受け取りました」のタイトルの自動応答メールが送信されるので、必ず確認し、メールが届かない場合は、卒業論文を再度提出すること。 • 提出期間内であれば、何度でも提出できるが、提出のたびに新しい提出ファイルに上書きされるので注意すること。
5 書式	学科毎に規定の書式があるので、大学ホームページを確認すること。指導教員の指示がある場合はその指示に従うこと。
6 その他	その他の提出物については、各学科から配信される掲示を必ず確認すること。

X 他学部聴講制度

1 制度の概要	所定の手続きを行うことにより、他学部の授業科目を聴講することができる。 ただし、試験等は受けることができない。また、単位は授与しない。 聴講科目は、履修科目登録上限単位数には含まれない。
2 聴講可能科目	LiveCampusU等にて発表する。
3 聴講可能科目数	**年間２科目まで**
4 手続き方法および手続き期間	「他学部聴講願」に、必要事項を記入の上、教務部に提出すること。 巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
5 注意事項	① 聴講可能な科目であっても、受講者数が教室の収容人数を超えている場合は申込みを受け付けないので、教務部で確認すること。 ② 他学部聴講は教授会での審議によっては、認められない場合がある。

XI 成城大学大学院文学研究科への進学を希望する成城大学文芸学部在学生のための科目等履修生制度

A 制度の趣旨

成城大学文芸学部に在籍する学生で、本学大学院文学研究科への進学を志望する優秀な学生に、「科目等履修生制度」を援用して大学院の授業科目を履修することを認める制度である。この制度で修得した単位は、大学院進学後に審査の上、大学院博士課程前期の単位として認定される。これは優秀な、問題発見能力を持つ学部学生の学習・研究意欲を高め、高度な専門的知識を獲得し、大学院進学後、レベルの高い研究を推進させることを目的としている。なお、この制度へ出願するに当たっては、卒業論文の作成など学部の授業の履修に影響を及ぼさないよう、十分に留意すること。

B 実施要項

1 出願資格

国文学専攻

以下の①～②の全ての要件を満たす者。

① 本年４月１日現在において、本学国文学科４年次に在籍し、翌年３月に卒業見込みであり、本学大学院文学研究科国文学専攻博士課程前期に進学を希望する者で、３年次までに、卒業要件単位（124単位）の４分の３以上（93単位以上）を修得している者。

※ ３年次に交換留学、または認定留学した者の本年３月31日までに修得した単位は算入可能な場合もあるので、事前に国文学専攻主任に相談すること。

② 出願の前年度までの国文学科授業科目のうち会読・講義・ゼミナールの成績が７科目以上「秀」または「優」であること。

英文学専攻

以下の①～③の全ての要件を満たす者（ただし、①はａまたはｂ）。

① ａ．本年４月１日現在において、本学英文学科４年次に在籍し、翌年３月に卒業見込みであり、本学大学院文学研究科英文学専攻博士課程前期に進学を希望する者で、３年次までに、卒業要件単位（126単位）の４分の３以上（94単位以上）を修得している者。

ｂ．本年４月１日現在において、本学英文学科３年次に在籍し、本学科の早期卒業制度に応募しており、本学大学院文学研究科英文学専攻博士課程前期に進学を希望する者。

※ ３年次に交換留学、または認定留学した者の本年３月31日までに修得した単位は算入可能な場合もあるので、事前に英文学専攻主任に相談すること。

② 出願の前年度までに修得した全科目（教職に関する科目および学芸員課程の必修科目を除く）で、「秀」と「優」（80点以上）の科目数が全体の80%以上である者。

③ TOEIC試験の成績が、550点以上である者（学内試験、学外試験ともに対象とする）。

日本常民文化専攻

以下の①～②の全ての要件を満たす者。

① 本年４月１日現在において、本学文化史学科４年次に在籍し、翌年３月に卒業見込みであり、本学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程前期に進学を希望する者で、３年次までに、卒業要件単位（128単位）の４分の３以上（96単位以上）を修得している者。

※ ３年次に交換留学、または認定留学した者の本年３月31日までに修得した単位は算入可能な場合もあるので、事前に日本常民文化専攻主任に相談すること。

② 出願の前年度までの累計GPAが2.5以上の者。

美学・美術史専攻

以下の①～②の全ての要件を満たす者。

① 本年４月１日現在において、本学芸術学科４年次に在籍し、翌年３月に卒業見込みであり、本学大学院文学研究科美学・美術史専攻博士課程前期に進学を希望する者で、３年次までに、卒業要件単位（124単位）の４分の３以上（93単位以上）を修得している者。

※ ３年次に交換留学、または認定留学した者の本年３月31日までに修得した単位は算入可能な場合もあるので、事前に美学・美術史専攻主任に相談すること。

② 出願の前年度までの累計GPAが2.5以上の者。

コミュニケーション学専攻

以下の①～②の全ての要件を満たす者。

① 本年４月１日現在において、本学マスコミュニケーション学科４年次に在籍し、翌年３月に卒業見込みであり、本学大学院文学研究科コミュニケーション学専攻博士課程前期に進学を希望する者で、３年次までに、卒業要件単位（128単位）の４分の３以上（96単位以上）を修得している者。

※ ３年次に交換留学、または認定留学した者の本年３月31日までに修得した単位は算入可能な場合もあるので、事前にコミュニケーション学専攻主任に相談すること。

② 所属する学科ゼミの指導教員による推薦があること。

ヨーロッパ文化専攻

次の①～③の全ての要件を満たす者。

① 本年４月１日現在において、本学ヨーロッパ文化学科４年次に在籍し、翌年３月に卒業見込みであり、本学大学院文学研究科ヨーロッパ文化専攻博士課程前期に進学を希望する者で、３年次までに、卒業要件単位（124単位）の４分の３以上（93単位以上）を修得している者。

※ ３年次に交換留学、または認定留学した者の本年３月31日までに修得した単位は算入可能な場合もあるので、事前にヨーロッパ文化専攻主任に相談すること。

② 所属する学科ゼミの指導教員による推薦があること。

③ 出願の前年度までの累計GPAが2.5以上の者。

2 履修単位数等

① 科目等履修生として履修可能な単位数は、8単位以内であり、かつ、学部生として当該年度に履修登録をする単位数と合算して、学部生としての履修科目登録上限単位数を超えない単位数以内とする。

②（国文学専攻、日本常民文化専攻、美学・美術史専攻、コミュニケーション学専攻のみ）
履修可能科目は、進学を希望する専攻の授業科目のうち、大学院進学後に研究指導を希望する教員、または専攻する分野に近い教員が担当する授業科目（研究指導は除く）とする。

③（英文学専攻、ヨーロッパ文化専攻のみ）
履修可能科目は、進学を希望する専攻の科目のうち、大学院進学後に研究指導を希望する教員、または専攻する分野に近い教員の担当する授業科目および研究指導とする。

④（英文学専攻のみ）
英文学科早期卒業制度の応募者（P.26の１①ｂ.）が早期卒業できなかった場合には、４年次在籍中に、再度、本科目等履修生制度に応募することができる。ただし、４年次に科目等履修生として履修できるのは、３年次に科目等履修生として修得した単位数と合算して８単位までとする。

3 出願手続

出願を希望する者は、本学ホームページより必要な書類をダウンロードし、所定の期間内に出願手続きを済ませること。

① **出願期間**　**巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。**

② **出願書類**

1）願書（本学所定用紙）
2）志願理由書（本学所定用紙）
3）前年度までの成績通知書
4）（ヨーロッパ文化専攻のみ）所属する学科ゼミの指導教員による推薦書

※ **なお、出願に当たっては、大学院進学後に研究指導を希望する教員に相談するとともに、大学院進学後に受講を希望する授業科目担当教員の許可を得ること。**

※ 希望指導教員、授業科目の担当教員と連絡をとることが困難である等の事情がある場合、早めに文学研究科（bunken@seijo.jp）にメールで相談すること。

③ **出願場所**

1号館1階　教務部
受付時間：月曜日～金曜日　8：30～18：00（授業実施期間外及び出願締切日は16：30まで）
土曜日　8：30～13：00

4 審査・決定

① 履修可否の審査は、原則として書類審査によって行う。

※（ヨーロッパ文化専攻のみ）
「筆記試験」が実施される場合があり、審査の対象となる。実施の有無は、掲示により周知する。

② 履修の可否は、研究科教授会で決定する。なお、やむを得ない事情により本履修生の希望する科目が開講されない場合がある。

5 面接試験日・審査結果の発表

巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

6 審査料・受講料

審査は無料。受講料は1単位につき、10,000円。
（ただし、受講料は全額減免の対象とする。）

7 受講手続

① 履修を許可された者には、科目等履修生証を交付する。
② 履修登録完了後に教務部から連絡するので、LiveCampusUで受講科目を確認すること。

8 修得単位の取扱い

① 科目等履修を出願した専攻に入学した場合、本制度により修得した単位は、申請により、研究科教授会で審査の上、8単位を限度に、大学院博士課程前期の修了に必要な単位として認定する。

※（ヨーロッパ文化専攻のみ）
研究指導の修得単位が認定された場合においても、研究指導は在学期間を通じて履修しなければならない。

② 学部の修得単位とはならない。

9 その他

① 許可された授業科目以外の授業の受講は認めない。
② 本履修生には、本学大学院の諸規則を準用する。
③ 授業科目を履修し、その試験に合格したときは、所定の単位を認定し、申請により、成績証明書を発行する。
④ 出願方法や審査方法・スケジュール等は変更になる場合がある。変更の場合は、LiveCampusU等で周知する。
⑤（英文学専攻のみ）
大学院に進学後、早期修了制度の利用を希望する場合は、本科目等履修生制度を利用して、単位を修得しておく必要がある。
なお、早期修了制度については、「2025年度 大学院 履修の手引」p.57を参照すること。

XII 転学部・転学科

他学部・他学科への転入は、各学部学科にて実施される「転学部・転学科審査」（筆記試験、外国語試験、面接試験等）を受け、転入が許可された場合に限り認められる。ただし、転学部・転学科が認められ、他学部・他学科に編入された場合は、在学期間4年で卒業できない場合がある。
なお、「転学部・転学科審査」は毎年実施されるとは限らない。各学部学科において「転学部・転学科審査」が実施される場合は、LiveCampusUにて案内するので、各自確認すること。
また、転学部・転学科を希望する者は、転入希望先の「履修の手引」等を読み、教育課程を理解しておくことが望ましい。

XIII 秋卒業制度

1 制度の概要・対象者

前年度以前に卒業年次に在籍し、3月に行われた卒業判定の結果、大学学則第18条に規定する卒業要件をみたすことができず、再び同年次に原級留置（留年）となった者が前期末に卒業要件を満たした場合は、秋（9月）に卒業となる。*

＊ 1年間の卒業延期制度の適用を受けた者が、前期末をもって卒業することを希望する場合については、繰上卒業願の提出が必要となる。詳しくは、【XIV 卒業延期制度】を参照すること。

2 制度の注意点

①秋（9月）で自動的に卒業となる。
本制度の対象者（留年者）が前期末に卒業要件を満たした場合、**秋（詳細はLiveCampusU等で発表する。）で自動的に卒業となるので十分注意すること。**
※履修科目登録上限単位数、卒業論文に係る提出期限、卒業確定者発表日等は別途案内する。

②年度末（3月）まで在学を希望する場合、卒業延期制度適用申請を行う必要がある。
本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、秋（9月）に卒業せず、**今年度の3月まで在学を希望する場合は、7月末日までに卒業延期制度適用申請を行う必要がある。**申請を行わない場合は自動的に秋卒業となるので注意すること。

③「卒業見込証明書」には「9月卒業見込」と記載される。
本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、「卒業見込証明書」を発行した場合、証明書には「9月卒業見込」と記載される。また、「教職課程」「学芸員課程」履修者の「免許（資格）取得見込証明書」についても通常と記載内容が異なる。

④秋卒業者を対象とした「学位記授与式」は実施しない。
「学位記」等の交付方法については別途案内する。なお、年度末（3月）に実施される「学位記授与式」に参加することは可能である。

⑤「教育職員免許状」は卒業と同時に交付されない。
秋（9月）卒業する場合は、卒業後、自身で免許交付申請手続きを行うことになる。ただし、上記②により卒業延期制度の適用を受け、年度末（3月）まで在学する場合は、大学で免許交付申請手続きを行う。詳細は教務部教職課程担当まで問い合わせること。

⑥校納金納付方法は前期・後期2回「分納」となり、1年間分「全納」はできない。
また、秋（9月）卒業した者は後期の校納金が不要となる。
※本制度における校納金の詳細については学生課まで問い合わせること。

⑦秋卒業は就職（活動）に重大な影響を及ぼす可能性がある。
就職内定者および就職活動中の者が本制度の対象者となった場合は、必ずキャリアセンターに相談すること。

その他、不明点については1号館1階教務部まで問い合わせること。

XIV 卒業延期制度

1 制度の概要（目的）

卒業の要件を満たす学生で、国家試験や資格試験の受験、または、就職活動等の理由により、自らの学修計画に沿って勉学を継続する目的で本学に引き続き在学することを希望する場合、卒業を延期し在学を認める制度である。
卒業を延期することができる期間は、１年（※）ないし半年とする。ただし、卒業延期制度の適用を受けた学生（以下､｢卒業延期適用者｣）が引き続き当該制度の適用を希望する場合は、１回を限度に、再度卒業の延期を申請することができる。
※ １年の卒業延期を許可された卒業延期適用者は、所定の手続きを経た上で、当該年度の前期末をもって繰り上げて卒業（以下「繰上卒業」）することができる。

2 対象者（資格要件）

卒業延期制度を希望する学生は、次の各号に全て該当しなければならない。
① 大学学則第27条に規定する卒業の要件を満たすこと。
② 引き続き在学することにより、在学期間が大学学則第５条第２項に規定する年数（８年）を超えないこと。
③ 当該年度において授業料等の納付金を滞納していないこと。

3 申請手続き

① 制度の適用を希望する学生は、本来卒業すべき年度（卒業延期適用者にあっては、延期後の在学期間が終了する年度。以下同じ）の以下の期日（当該日が休日の場合はその前日）までに卒業延期願を提出し、２月下旬ないし９月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。
- 学年末をもって卒業要件を満たす者　　２月15日
- 前期末をもって卒業要件を満たす者　　７月末日

② 前項により卒業の延期を許可された学生（以下「卒業延期者」）に対しては、卒業延期許可通知を本人および保証人に交付する。
③ 卒業延期者が、事情変更により、本来卒業すべき年度での卒業を希望する場合は、３月10日（当該日が休日の場合はその前日）までに卒業延期許可取消願を提出した場合に限り、教授会で審議の上、認められる。ただし、前期末をもって卒業要件を満たす卒業延期者は、取消しはできない。
④ 卒業延期者が、延期期間に係る授業料等の納付金を、以下の期日（当該日が休日又は土曜日に当たるときは、その前日）までに納入しなかった場合は、卒業延期の許可を取り消し、当該年度末、または前期末での卒業とする。
- 学年末をもって卒業要件を満たす者　　３月20日
- 前期末をもって卒業要件を満たす者　　９月13日

⑤ 繰上卒業を希望する学生は、７月末日までに繰上卒業願を提出し、９月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。許可が得られた場合、後述する納付金の後期分を返還する。

4 申請窓口および提出先

１号館１階　教務部

5 申請期間

申請期間等の詳細はLiveCampusU等で発表する。

6 その他

- 卒業延期者は、履修科目登録上限単位数の範囲内で授業科目を履修することができる。
- 卒業延期期間中は、病気の理由を除き、休学は認められない。なお、休学が認められた場合であっても、休学期間中の学費の減額は認められない。
- 卒業延期者の延期期間に係る授業料等の納付金については、以下のとおりとする。
  学年末をもって卒業要件を満たした者
  　授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の７割
  前期末をもって卒業要件を満たした者
  　授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の３割５分

※ その他の納付金である父母の会費、学友会費については、減額の対象とはならない。

人材育成の目的と3つの方針
およびカリキュラムツリー

文芸学部の人材育成の目的と3つの方針 …… 32

文芸学部 国文学科の
人材育成の目的と3つの方針・カリキュラムツリー …… 34

文芸学部 英文学科の
人材育成の目的と3つの方針・カリキュラムツリー …… 36

文芸学部 芸術学科の
人材育成の目的と3つの方針・カリキュラムツリー …… 38

文芸学部 文化史学科の
人材育成の目的と3つの方針・カリキュラムツリー …… 40

文芸学部 マスコミュニケーション学科の
人材育成の目的と3つの方針・カリキュラムツリー …… 42

文芸学部 ヨーロッパ文化学科の
人材育成の目的と3つの方針・カリキュラムツリー …… 44

文芸学部の人材育成の目的と3つの方針

Ⅰ 人材育成の目的

文芸学部は、人間の文化的営為に関する多角的な研究・考察を通じて、豊かな教養、柔軟な思考力、広い視野を修得させ、かつ、それらを基盤にした知的創造性に富み、それをもって社会に貢献しうる人を育てることを目的とする。

Ⅱ 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

文芸学部では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. 人間と文化はもちろん、自然や社会の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2. 文化事象について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3. 言語（日本語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4. 専門分野の学問について、基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5. 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

Ⅲ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

文芸学部は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 文芸学部の学問に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. 文芸学部の学問に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するために外国語科目を設け、二つの外国語の履修を必修とし、その効果的な運用のためにグレード制を敷きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. 専門分野に関する知識および方法論を修得し得るよう、学科科目は、初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。
7. 文芸学部の学問について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、必要に応じて体験的実践的な授業（実習・研修旅行など）を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. 文芸学部において各自の専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

Ⅳ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

文芸学部は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

1. 文芸学部の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. 文芸学部の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、３つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

教育目的と授業科目

文芸学部の教育目的は、１．創造的な思考力の養成、２．広範な知識と視野の獲得、３．思考力と知識の深化である。それらを達成するために用意された授業科目は、共通科目と学科科目に大別される。共通科目は必修科目（WRD、文芸講座）、選択科目（教養科目、外国語科目、キャリア科目）に分かれ、学科科目は各学科の必修科目、選択科目、自由科目および教職関連随意科目に分かれる。なお、共通科目と学科科目の規定単位数の総計と卒業に必要な総単位数（卒業要件単位数）との間にある差は、WRD（共通科目）とゼミナール（学科科目）を除く文芸学部の全ての授業科目から、学生が任意に選択履修することによって埋めることになっているので、自由選択と呼ばれる。

- 授業科目
  - 共通科目
    - 必修科目
      - WRD
      - 文芸講座
    - 選択科目
      - 教養科目
      - 外国語科目（学部共通外国語・特選外国語）
      - キャリア科目
  - 学科科目
    - 必修科目
    - 選択科目
      - 演習科目
      - 講義科目
    - 自由科目
    - 教職関連随意科目

自由選択 ―― 〔卒業要件単位数－（共通科目の計＋学科科目の計）〕

文芸学部 国文学科の人材育成の目的と3つの方針

Ⅰ 人材育成の目的

国文学科では、国の文（あや）の学という名のもとに、文学作品のみならず、あらゆる日本語の表現を対象として広く、かつ深く学ぶ。古代から現代までの国語・国文学および漢文学という国文学の基本を、言葉に対する知的・感覚的習練とともに修めることで、わが国の言語・文学、さらには文化全体を的確に理解し、その識見を生かして社会に貢献しうる人を育てることを目的とする。

Ⅱ 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

国文学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. 人間と文化はもちろん、自然や社会の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2. 文化事象について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3. 言語（国語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4. 国文学についての基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5. 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

Ⅲ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

国文学科は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 国文学に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. 国文学の研究に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するために外国語科目を設け、二つの外国語の履修を必修とし、その効果的な運用のためにグレード制を敷きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. 古典を基軸とする国文学の知識および方法論を修得し得るよう、学科科目は国文学・漢文学・国語学の三分野にわたり、初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。
7. 国文学について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、必要に応じて体験的実践的な授業を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. 国文学科において専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

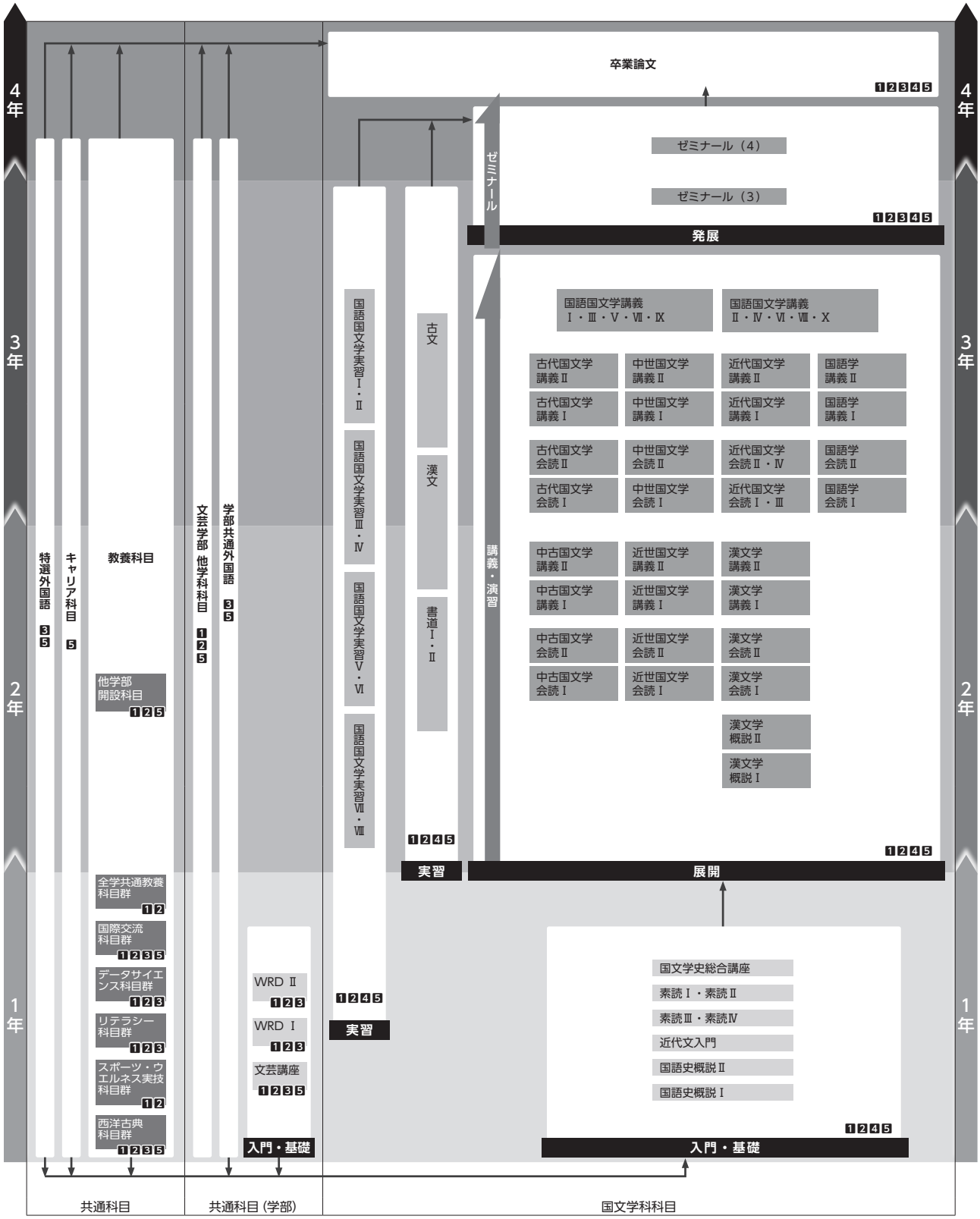
Ⅳ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

国文学科は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

1. 国文学科の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. 国文学科の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、３つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

国文学科 カリキュラムツリー



卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

国文学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1 人間と文化はもちろん、自然や社会の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2 文化事象について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3 言語（国語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4 国文学についての基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

文芸学部 英文学科の人材育成の目的と3つの方針

Ⅰ 人材育成の目的

英文学科は、英語文学、英語学、英語文化に関する理論的・実証的研究を通して、専門的知識、分析力、高いコミュニケーション能力を身につけることにより、英語を用いて多様化する現代社会の発展に貢献しうる、国際的教養および視野をもった人を育てることを目的とする。

Ⅱ 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

英文学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. 人間と文化はもちろん、自然や社会の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2. 英語学・英語文学・英語文化について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3. 言語（日本語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4. 英語学・英語文学・英語文化について、基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5. 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

Ⅲ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

英文学科は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 英語学・英語文学・英語文化に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. 英語学・英語文学・英語文化の研究に必要な英語に習熟するとともに、異文化を理解するために副外国語科目を設け、英語と合せて二つの外国語の履修を必修とし、その効果的な運用のためにグレード制を敷きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. 英語学・英語文学・英語文化に関する知識および方法論を修得し得るよう、学科科目は、初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。
7. 英語学・英語文学・英語文化について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、必要に応じて体験的実践的な授業を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. 英文学科において専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

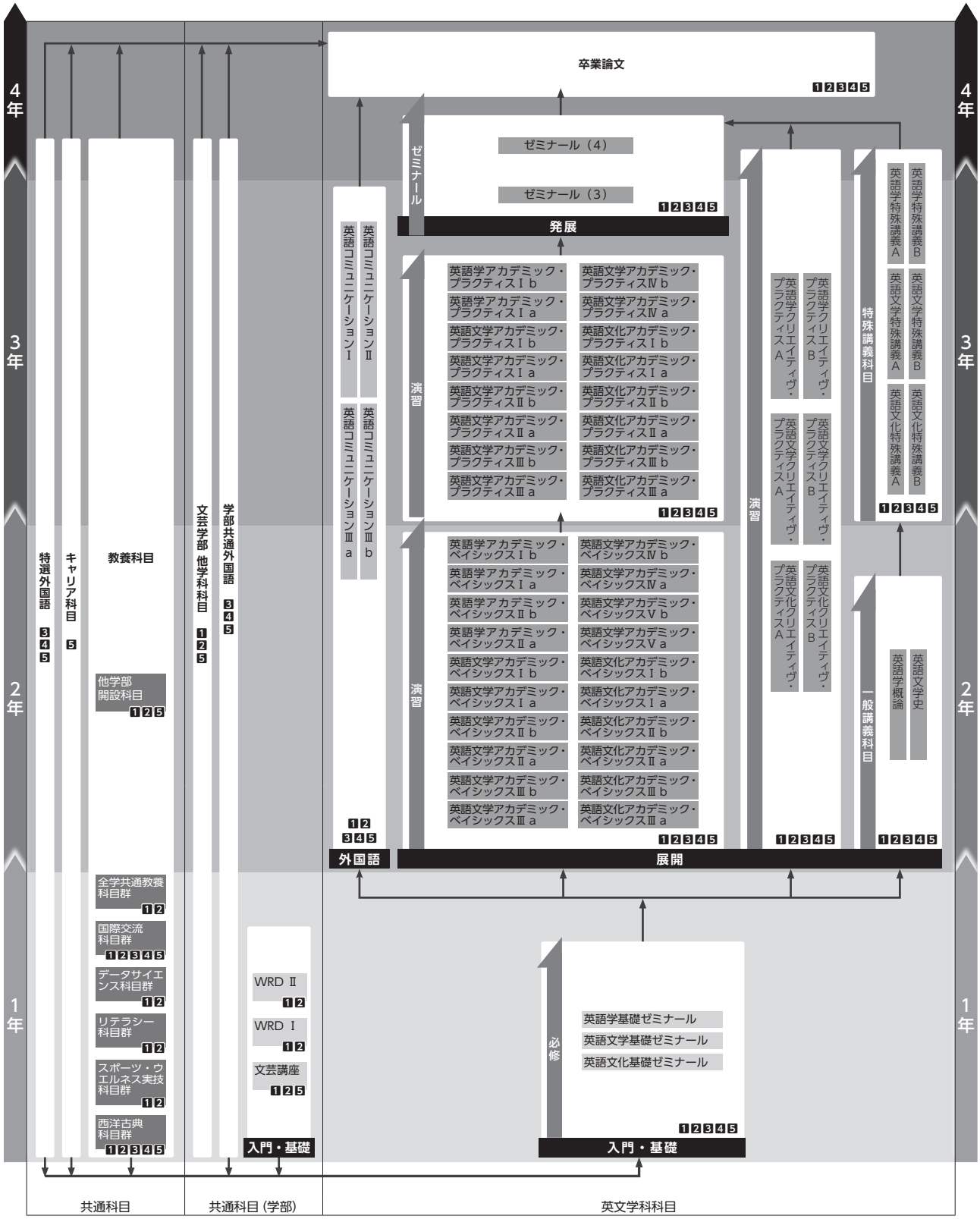
Ⅳ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

英文学科は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

1. 英文学科の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. 英文学科の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、３つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

英文学科 カリキュラムツリー



卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

英文学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1 人間と文化はもちろん、自然や社会の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2 英語学・英語文学・英語文化について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3 言語（日本語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4 英語学・英語文学・英語文化について、基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

文芸学部 芸術学科の人材育成の目的と3つの方針

Ⅰ 人材育成の目的

芸術学科は、芸術各分野と美に関する理論的・歴史的研究を通して、豊かな感性と優れた知性を育み、芸術的創造や研究・啓発活動、文化財の保存・公開事業等に参画しうる人、あるいは芸術と美への深い共感と理解によって、社会や文化の発展に貢献しうる人を育てることを目的とする。

Ⅱ 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

芸術学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. 人間と文化はもちろん、自然や社会の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2. 文化事象について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3. 言語（日本語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4. 芸術学の基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5. 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

Ⅲ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

芸術学科は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 芸術学に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. 芸術学に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するために外国語科目を設け、二つの外国語の履修を必修とし、その効果的な運用のためにグレード制を敷きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. 芸術学に関する知識および方法論を修得し得るよう、学科科目は、初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。
7. 芸術学について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、体験的実践的な授業（研修旅行など）を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. 芸術学科において専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

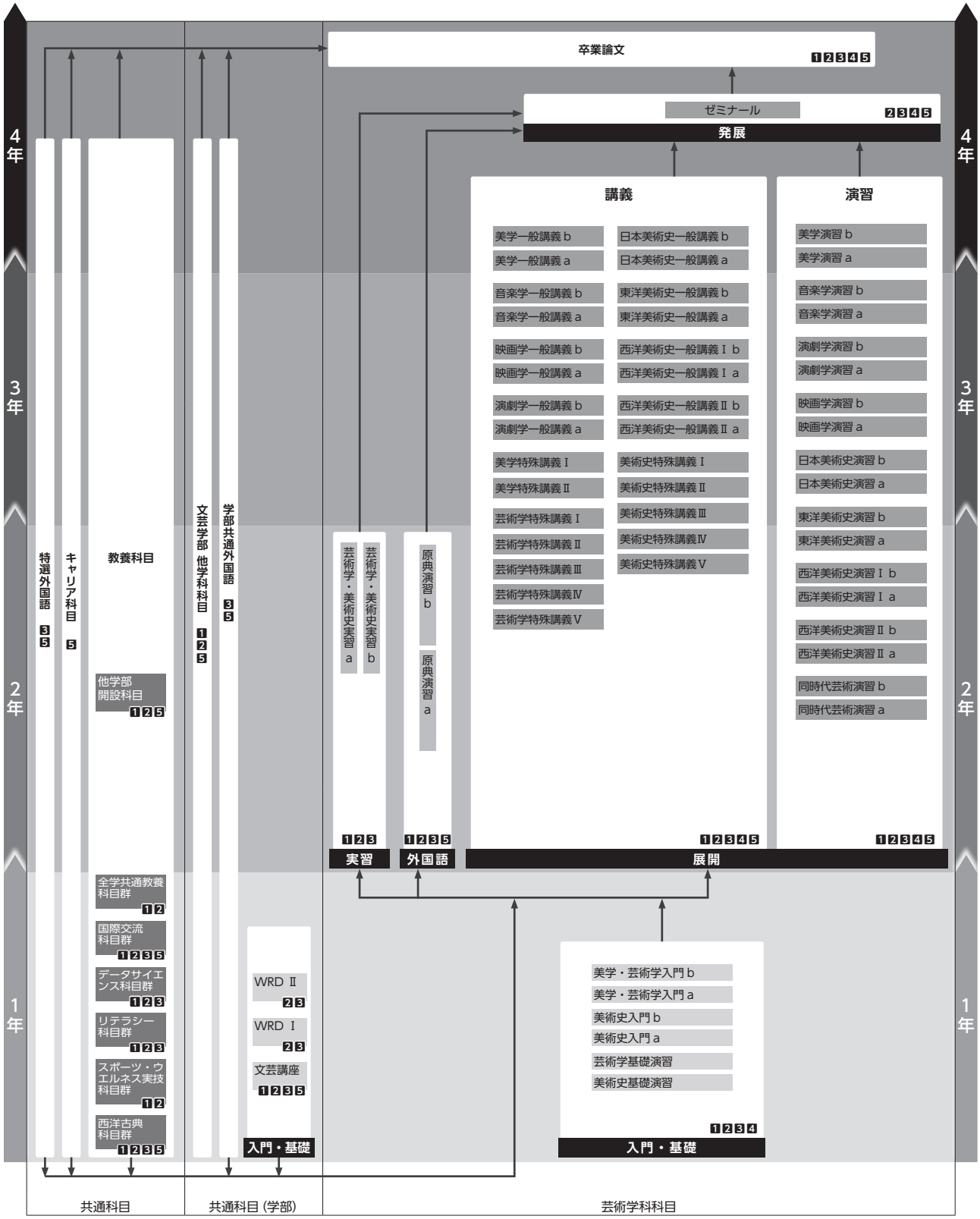
Ⅳ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

芸術学科は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

1. 芸術学科の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. 芸術学科の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、３つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

芸術学科 カリキュラムツリー



卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

芸術学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1 人間と文化はもちろん、自然や社会の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2 文化事象について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3 言語（日本語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4 芸術学の基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

文芸学部 文化史学科の人材育成の目的と3つの方針

Ⅰ 人材育成の目的

文化史学科は、日本内外の社会・文化事象の成り立ちを、歴史学・民俗学・文化人類学を中心として理論的かつ実証的に研究するとともに、実践的な活動を通して、創造的な社会や文化を構想・提起する能力を持つ有為の人を育てることを目的とする。

Ⅱ 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

文化史学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. 人間と文化・社会・歴史の関係はもちろん、自然との関係についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2. 文化事象について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3. 言語（日本語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4. 歴史学・民俗学・文化人類学について、基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5. 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

Ⅲ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

文化史学科は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 歴史学・民俗学・文化人類学に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. 歴史学・民俗学・文化人類学に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するために外国語科目を設け、二つの外国語の履修を必修とし、その効果的な運用のためにグレード制を敷きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. 歴史学・民俗学・文化人類学に関する知識および方法論を修得し得るよう、学科科目は、初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。
7. 歴史学・民俗学・文化人類学について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、体験的実践的な授業（実習など）を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. 文化史学科において専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

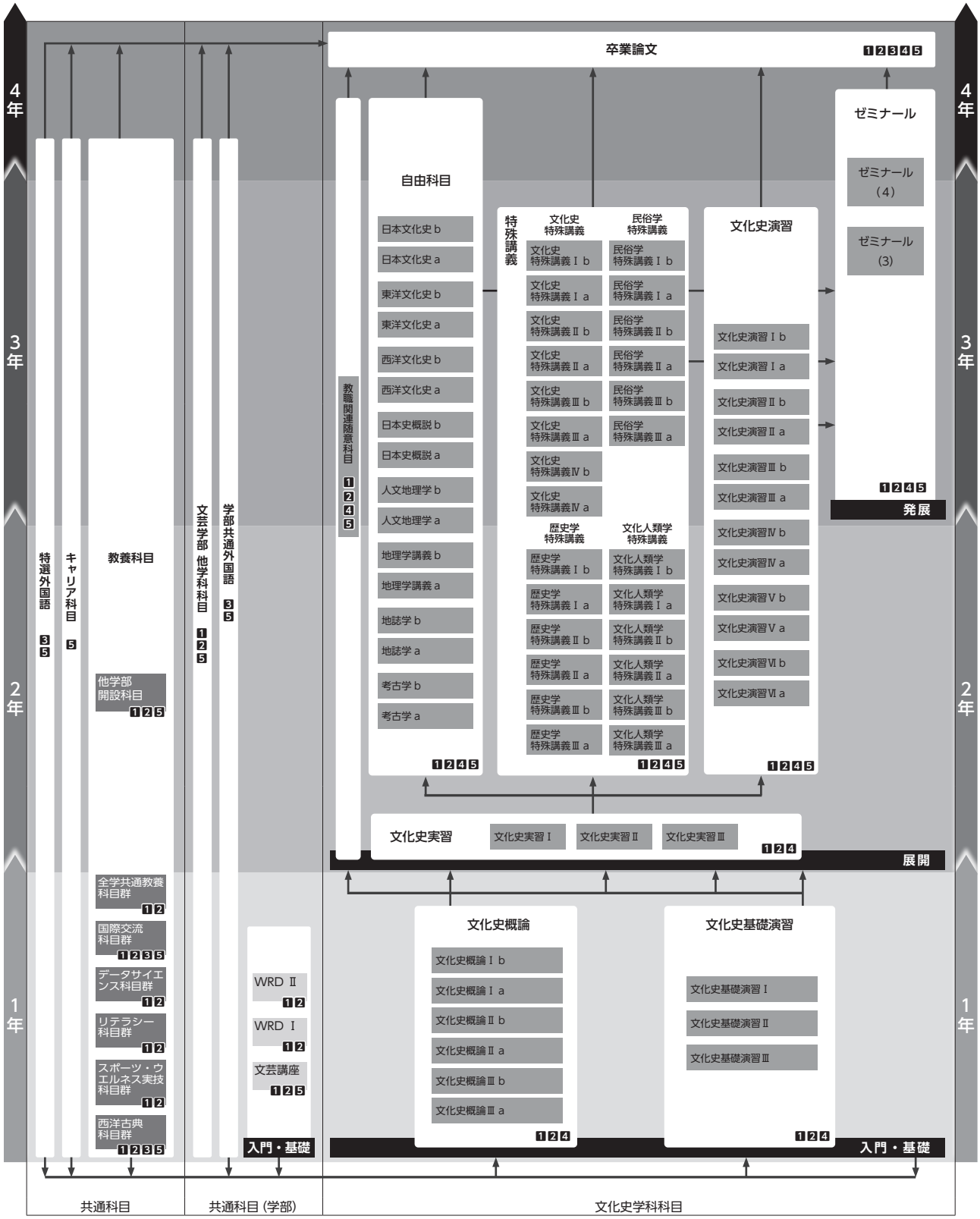
Ⅳ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

文化史学科は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

1. 文化史学科の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. 文化史学科の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、３つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

文化史学科 カリキュラムツリー



卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

文芸学部では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1 人間と文化はもちろん、自然や社会の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2 文化事象について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3 言語 (日本語・外国語) の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4 専門分野の学問について、基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

文芸学部 マスコミュニケーション学科の 人材育成の目的と3つの方針

Ⅰ 人材育成の目的

マスコミュニケーション学科は、現代のメディアとコミュニケーションに関する理論的・経験的研究を通して、科学的で批判的な知性を育み、現代社会への洞察力に満ちた理解によって市民社会の発展に貢献しうる人を育てることを目的とする。とくに、報道・広告・広報活動、情報機器を介したコミュニケーション活動、社会調査、さらに、ヒューマンサービスのコミュニケーション的側面からの支援活動などにおいて活躍しうる人を育てる。

Ⅱ 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

マスコミュニケーション学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. 人間と社会はもちろん、自然や文化の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2. 社会・文化事象について、必要な調査・分析・考察によって科学的・論理的に問題を解決し得ること。
3. 言語（日本語・外国語）と統計解析の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4. マスコミュニケーション学科の学問について、基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5. 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

Ⅲ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

マスコミュニケーション学科は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. マスコミュニケーション学科の学問に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. マスコミュニケーション学科の学問に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するために外国語科目を設け、二つの外国語の履修を必修とし、その効果的な運用のためにグレード制を敷きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. マスコミュニケーション学科の学問に関する知識および方法論を修得し得るよう、学科科目は初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。とくに、社会調査と社会心理学実験の技法の習得ができるように実習科目を配置します。
7. マスコミュニケーション学科の学問について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、体験的実践的な授業（実習・研修旅行など）を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. マスコミュニケーション学科において専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

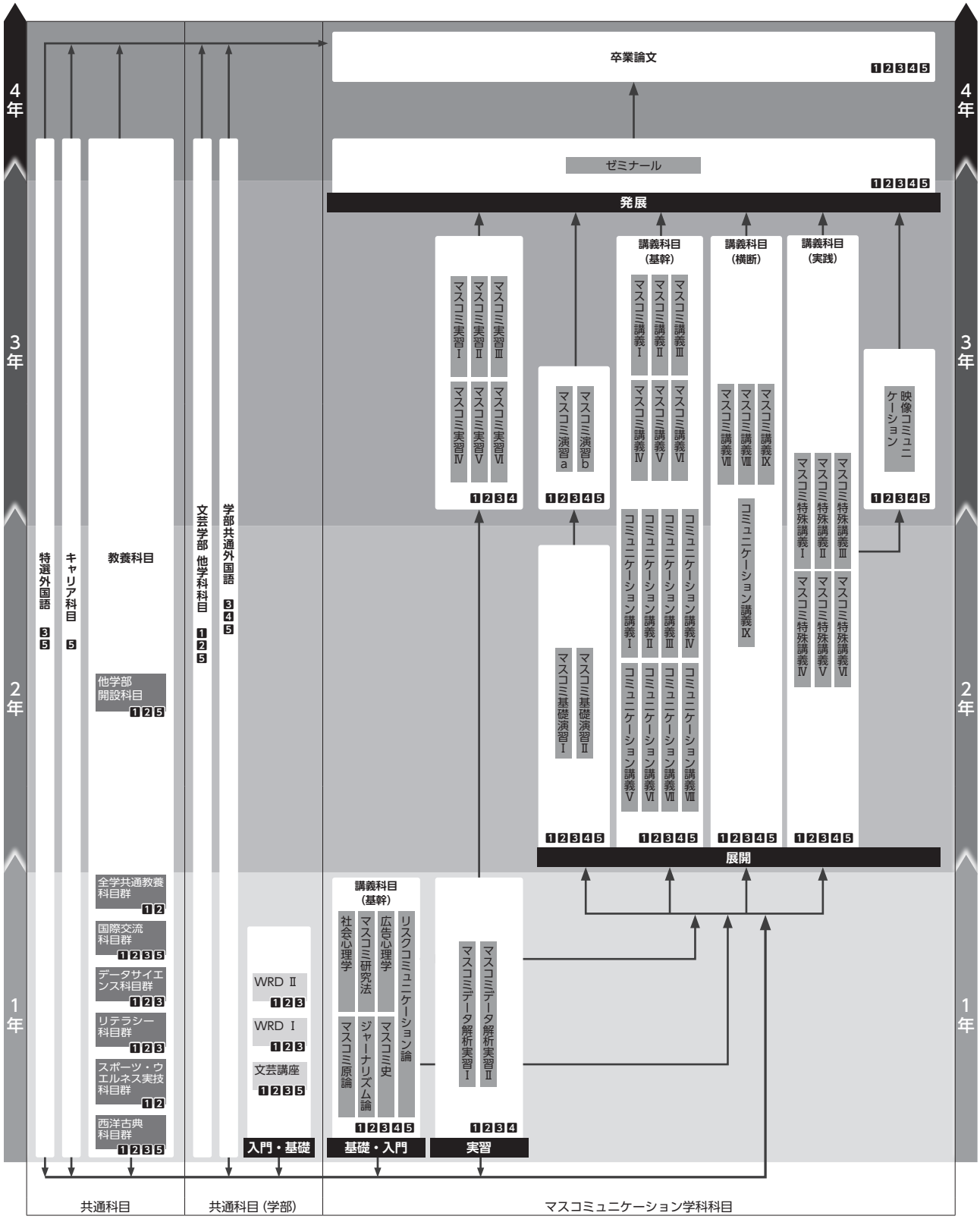
Ⅳ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

マスコミュニケーション学科は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

1. マスコミュニケーション学科の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. マスコミュニケーション学科の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、３つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

マスコミュニケーション学科 カリキュラムツリー



卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

マスコミュニケーション学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1 人間と社会はもちろん、自然や文化の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2 社会・文化事象について、必要な調査・分析・考察によって科学的・論理的に問題を解決し得ること。
3 言語（日本語・外国語）と統計解析の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4 マスコミュニケーション学科の学問について、基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

文芸学部 ヨーロッパ文化学科の人材育成の目的と3つの方針

Ⅰ 人材育成の目的

ヨーロッパ文化学科では、ヨーロッパの言語、とりわけドイツ語･フランス語を基礎に、哲学･歴史・文学・芸術など多分野にわたるヨーロッパの文化に関する理論的・実証的研究を通して、広い視野をもち、国際化の時代を生きるために不可欠な教養と高邁な理念とを備えた、有為な人を育てることを目的とする。

Ⅱ 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

ヨーロッパ文化学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. ヨーロッパの学問の伝統をふまえて、人間のあり方・生き方について適切に判断ができること。
2. 人間がこれまで蓄積してきた諸種の文化的遺産について、真摯な態度で取り組み、主体的な解釈を加えられること。
3. 言語（日本語・外国語）、とりわけドイツ語またはフランス語を十分に修得し、自身の思考を伝達し他者の思考を受容できること。
4. ヨーロッパの文化を、ドイツ語またはフランス語の知識を通じて深く理解し、自国の文化について反省的に思考できること。
5. 一人の人間として、異文化や他地域に所属する多種多様な人々に対して興味を持ち、共感を養い、それらの人々と共に未来を築く強い意志を持つこと。

Ⅲ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

ヨーロッパ文化学科は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. ヨーロッパ文化学科の学問に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. ヨーロッパ文化学科の学問に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するために外国語科目を設け、ドイツ語またはフランス語を必修として最低二つの外国語の履修を課し、その効果的な遂行のためにグレード制を敷き、学科科目にもドイツ語およびフランス語外国語科目を置きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. 歴史・哲学・言語学・西洋古典学・芸術・比較文化に関する知識および方法論を修得し得るよう、またヨーロッパの現在について探究心が刺激されるよう、学科科目は初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。
7. ヨーロッパ文化学科の学問について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、必要に応じて体験的実践的な授業を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. ヨーロッパ文化学科において専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

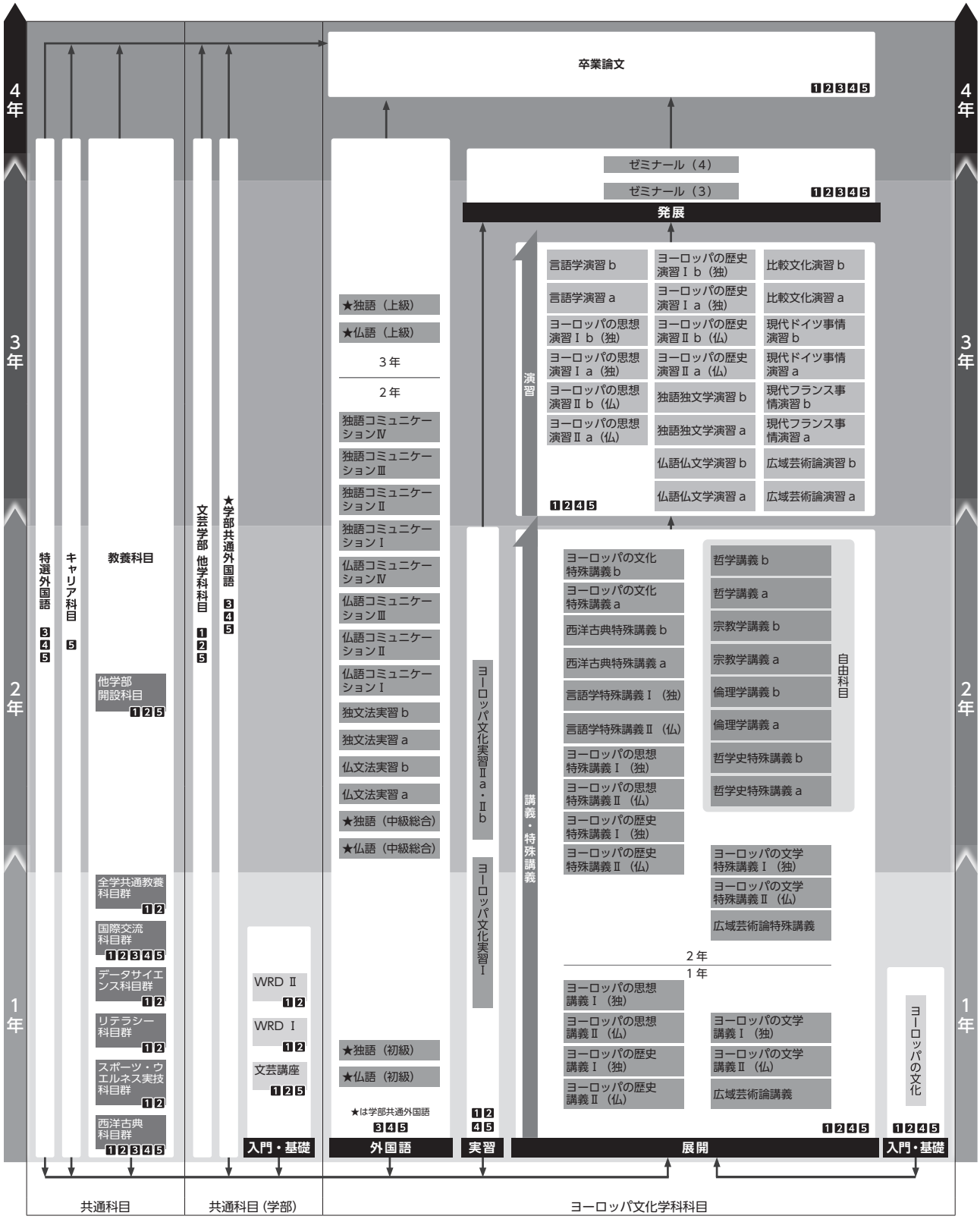
Ⅳ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

ヨーロッパ文化学科は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

1. ヨーロッパ文化学科の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. ヨーロッパ文化学科の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、３つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

ヨーロッパ文化学科 カリキュラムツリー



卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

ヨーロッパ文化学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1 ヨーロッパの学問の伝統をふまえて、人間のあり方・生き方について適切に判断ができること。
2 人間がこれまで蓄積してきた諸種の文化的遺産について、真摯な態度で取り組み、主体的な解釈を加えられること。
3 言語（日本語・外国語）、とりわけドイツ語またはフランス語を十分に修得し、自身の思考を伝達し他者の思考を受容できること。
4 ヨーロッパの文化を、ドイツ語またはフランス語の知識を通じて深く理解し、自国の文化について反省的に思考できること。
5 一人の人間として、異文化や他地域に所属する多種多様な人々に対して興味を持ち、共感を養い、それらの人々と共に未来を築く強い意志を持つこと。

履修規定

Ⅰ 卒業要件単位数 …… 48

Ⅱ 主専攻・副専攻について …… 50

Ⅲ —1　共通科目履修方法 …… 51

1 WRD …… 51
1）目的
2）履修上の注意事項
3）再履修について

2 文芸講座 …… 51
1）目的
2）履修上の注意事項
3）再履修について

3 教養科目 …… 52
1）全学共通教養科目群
2）国際交流科目群
3）データサイエンス科目群
4）リテラシー科目群（IT 科目）
5）スポーツ・ウエルネス実技科目群
6）西洋古典科目群
7）他学部開設科目

4 外国語科目 …… 59
a．学部共通外国語
1）学部共通外国語
2）卒業に必要な学部共通外国語の規定単位数
3）グレード制・セメスター制
4）グレードの認定
5）グレードの種類
6）英語 SEE－A・B の受講クラスについて
7）英語の飛び級について
8）クラス名称と開講曜限
b．特選外国語
1）全学共通外国語
2）ディプロム・コース
3）エクステンシヴ・リーディング

5 キャリア科目 …… 66
1）キャリアデザイン科目群
2）社会調査士資格科目群

Ⅲ —2　学科科目履修方法 …… 68

A．国文学科 …… 68
B．英文学科 …… 72
C．芸術学科 …… 76
D．文化史学科 …… 78
E．マスコミュニケーション学科 …… 80
F．ヨーロッパ文化学科 …… 82

Ⅲ —3　文芸学部共通ゼミナール … 86

I 卒業要件単位数

1 卒業要件単位数 各学科における卒業要件単位数、および各分野における規定単位数は、**第1表**のとおりである。

第１表 卒業要件科目および単位数

分野・区分				国文学科 区分別必要単位数（A）	国文学科 Aを超えて修得した場合の自由選択算入上限単位数	英文学科 区分別必要単位数（A）	英文学科 Aを超えて修得した場合の自由選択算入上限単位数	芸術学科 区分別必要単位数（A）	芸術学科 Aを超えて修得した場合の自由選択算入上限単位数
共通科目	必修科目	WRD		34	4	36	4	34	4
共通科目	必修科目	文芸講座		34	2	36	2	34	2
共通科目	選択科目	教養科目		34	16 → 18	36	16 → 18	34	16 → 18
共通科目	選択科目	外国語科目	学部共通外国語	34	12 ＊英語4単位を含む → 12	36	14 ＊英語8単位を含む → 12	34	12 ＊英語4単位を含む → 12
共通科目	選択科目	外国語科目	特選外国語	34	0 → 18	36	0 → 18	34	0 → 18
共通科目	選択科目	キャリア科目		34	0 → 4	36	0 → 4	34	0 → 4
学科科目	必修科目			60	36	60	28	58	26
学科科目	選択科目	演習科目		60	12 ＊会読12 → 16	60	20 注）AB12、AP8 → 16	58	12 → 16
学科科目	選択科目	実習科目		60	– → 16	60	– → 16	58	– → 16
学科科目	選択科目	講義科目		60	12 → 16	60	8 注）CP4、一般講義4 → 16	58	16 → 16
学科科目	選択科目	特殊講義科目		60	– → 16	60	4 → 16	58	4 → 16
学科科目	自由科目			60	0 → 8	60	0 → 6	58	– → 16
自由選択	文芸学部の他学科科目			30	◀	30	◀	32	◀
自由選択	他の各区分からの算入単位			30	◀	30	◀	32	◀
合計				124		126		124	

注）英文学科（選択科目）：「AB」は、アカデミック・ベイシックス科目の略。「AP」は、アカデミック・プラクティス科目の略。「CP」は、クリエイティヴ・プラクティス科目の略。

分野・区分				文化史学科 区分別必要単位数（A）	文化史学科 Aを超えて修得した場合の自由選択算入上限単位数		マスコミュニケーション学科 区分別必要単位数（A）	マスコミュニケーション学科 Aを超えて修得した場合の自由選択算入上限単位数		ヨーロッパ文化学科 区分別必要単位数（A）	ヨーロッパ文化学科 Aを超えて修得した場合の自由選択算入上限単位数	
共通科目	必修科目	WRD		34	4		34	4		38	4	
		文芸講座			2			2			2	
	選択科目	教養科目			16	→ 18		16	→ 18		16	→ 18
		外国語科目	学部共通外国語		12 ＊英語4単位を含む	→ 12		12 ＊英語4単位を含む	→ 12		16 ＊独語または仏語12単位を含む	→ 12
			特選外国語		0	→ 18		0	→ 18		0	→ 18
		キャリア科目			0	→ 4		0	→ 4		0	→ 4
学科科目	必修科目			62	16		62	24		57	25	
	選択科目	演習科目			16 ＊基礎演習8、演習8	→ 16		–	→ 16		16	→ 16
		実習科目			2			2			4	
		講義科目			28 ＊概論4、講義24			36 ＊Ⅰ群10、Ⅱ群26			4	
		特殊講義科目			–			–			8	
	自由科目				0	→ 8		0	→ 2		0	→ 8
自由選択	文芸学部の他学科科目			32	◀		32	◀		29	◀	
	他の各区分からの算入単位											
合計				128			128			124		

2 自由選択

自由選択とは、卒業要件単位数のうち、必修科目（「WRD」、「文芸講座」、「ゼミナール」および「自学科必修科目」）を除く文芸学部の全授業科目（他学科科目を含む）の中から、自由な選択によって単位を修得することをいう。

自由選択の修得単位として取り扱われる単位は以下の通り。

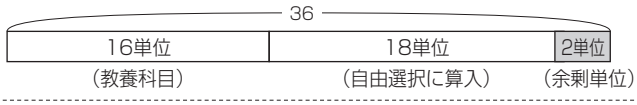
① 他学科の科目（ゼミナールを除く）の修得単位。履修に当たっては、各学科の【履修規定】が適用されるので、確認のうえ、履修すること。

② 必修科目を除く各区分で、規定単位数を超えて修得した単位。点線内の数字は、それぞれの区分において自由選択の卒業要件単位として算入することのできる単位数の上限である。これを超えて修得した単位は余剰単位として取り扱う。

※自由選択の卒業要件単位数を満たすための、①と②の内訳は問わない（①のみ、または②のみで卒業要件単位数を充足することも可能）。

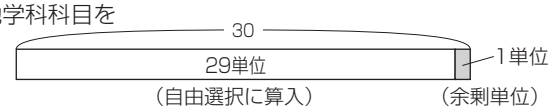
【修得単位の取り扱い例】 ※余剰単位…卒業要件に入らない単位

●教養科目を「36」単位修得した場合



●特選外国語を「6」単位修得した場合

●ヨーロッパ文化学科生が他学科科目を「30」単位修得した場合



Ⅱ 主専攻・副専攻について

1 主　専　攻

自分が所属する学科のことを主専攻と呼ぶ。なお、文芸学部を卒業するためには、**第1表**に記載された、自分が所属する学科の規定単位数を修得しなければならない。

2 副　専　攻

副専攻とは、所属学科以外の学科が規定する副専攻修了要件単位数を修得した場合に、修了が認定されるものである。例えば、文化史学科の学生が、自分の所属する学科の規定単位数を満たし、さらに、芸術学科の副専攻修了のための規定単位数を満たした場合、卒業時に2学科にまたがった専門領域の学業を修め、修了したことを認定することになる。

3 副専攻修了要件単位数

各学科で定める副専攻修了要件単位数は次のとおりである。

① **国文学科** 36単位
「素読Ⅰ～Ⅳ」の8単位、「漢文学会読Ⅰ・Ⅱ」と「国語学会読Ⅰ・Ⅱ」の8単位の計16単位を含む。

② **英文学科** 32単位
「英語学基礎ゼミナール」、「英語文学基礎ゼミナール」、「英語文化基礎ゼミナール」のうちの1科目4単位を含む。自由科目は修了要件単位に含むことができない。なお、副専攻修了要件単位数の32単位とは別に、卒業時までに英語の「SEE－A·B」4単位、「中級総合」4単位の計8単位を修得していること。また、3年次終了時までにTOEICを4回以上受験しなければならない※。
※TOEIC 730点以上を取得した場合、残りの受験回数は免除となる。
※やむを得ない理由により、学内試験を受験できない者は、学外試験を受験しなければならない。4回以上受験していない者は必ず共用研究室で指示を受けること。
※4年次4月の本申請時に、4回分の「成績表」（Score Report）のコピーを教務部に提出すること。

③ **芸術学科** 28単位
「美学・芸術学入門a・b」、「美術史入門a・b」のどちらか（a・bセット）4単位、演習科目4単位および一般講義科目8単位の計16単位を含む。

④ **文化史学科** 28単位
概論科目4単位、演習科目4単位（文化史基礎演習Ⅰ～Ⅲを除く）、および講義科目20単位。なお、自由科目は修了要件単位に含むことができない。

⑤ **マスコミュニケーション学科** 28単位
講義科目Ⅰ群10単位以上を含む講義科目28単位。

⑥ **ヨーロッパ文化学科** 24単位
「ヨーロッパの文化」（4単位）、「ヨーロッパ文化実習Ⅰ」（1単位）のどちらか1科目を含む。自由科目は修了要件単位に含むことができない。なお、副専攻修了要件単位数の24単位とは別に、卒業時までに「独語」または「仏語」のいずれか10単位を修得していること。

4 副専攻申請手続き

副専攻の申請を希望する学生は、以下の手続きをとること。

① 2年次の4月に「第一次仮申請」を行う。
② 3年次の4月に「第二次仮申請」を行う。
③ 3年次終了時、卒業までに各学科が定める副専攻修了要件単位数の修得が可能だと見込まれる場合、4年次の4月に「本申請」を行う（この段階で単位修得が不可能である等の理由により、副専攻の申請を取り下げることができる）。

※申請方法および申請期間の詳細は、4月にLiveCampusUで周知する。

5 副専攻修了の認定

副専攻の申請手続きを行った学生が副専攻修了に必要な単位を修得していると文芸学部教授会が認めたとき、その学生の副専攻の修了を認定し、そのことを認定書および成績証明書に記すことになる。

6 履修上の注意

① 副専攻に必要な単位は、「自由選択」の単位として認められる。
② 時間割の都合等の理由により、副専攻の修了に必要な科目と必修科目が同曜限になる場合も考えられるので、1年次の時点から履修計画を立てること。
③ 副専攻の学科科目において、その科目を履修するにあたり、あらかじめ修得しておかなければならない科目などの条件が規定されている場合、副専攻として履修する者にもその条件が適用されるので注意すること。

7 副専攻の相談

副専攻についての履修相談は、副専攻相談教員が担当する。

Ⅲ-1 共通科目履修方法

1 WRD

1 目 的

高等学校までの勉学は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉学は自分でその所在を明らかにした問題について、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。
「WRD」（ワードと読む）とは、「Write　書く、Read　読む、Debate　議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近は、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。
上記を踏まえて、前期に「WRDⅠ」、後期に「WRDⅡ」を設置している。
前期の「WRDⅠ」では、「自ら問いをたてる」（問題意識を持つ）という学問的思考の修得と「論文（研究レポート）を一人で書くことができるようになる」ことを到達目標とする。
これを達成するために、講義と実践的トレーニングを行う。
後期の「WRDⅡ」では、「WRDⅠ」で学修した内容を深化させるために、以下の4コースを設置する。
Wコース：「書く」ことに特化する。レベルに応じたクラスを設置する。（書くことが得意な人向けのクラスから、書くことが苦手な人向けのクラスまであるので、シラバスを参照のこと。）
Rコース：「読む」ことに特化する。（読むことを中心とするが、クラスごとに方法や内容が異なるので、シラバスを参照のこと。）
REコース：「観察する（みる・きく）」ことに特化する。（観察する（インタビュー）ことを通して、リサーチのおもしろさを実感する。シラバスを参照のこと。）
Dコース：「議論する」に特化する。プレゼンテーションコンテスト（12月開催予定）で成果を発表する。
なお、上記のコースのうち、REコースとDコースはプロジェクト型アクティブ･ラーニングで、このうちDコースはグループ学習が中心となる。

2 履修上の注意事項

【WRDⅠ】
① 上記の成果を高めるために1クラス当たりの受講者数を25名前後に限定する。
② 受講クラスは教務部が指定し、事前登録を行う。指定クラスはLiveCampusUの履修登録画面で確認すること。
③ 科目名末尾の数字はクラス名を表し、科目名には含まれない。
【WRDⅡ】
① マスコミュニケーション学科の学生はREコースが必修のため、受講クラスは教務部が指定し、事前登録を行う。
② マスコミュニケーション学科以外の学生は後期に抽選登録を行うこと。第5希望まで申請可能で、抽選の結果、いずれか1つのクラスに登録される。なお、希望した全てのクラスに抽選漏れした場合や期間中に申請しなかった場合は、任意のクラスに割り当てられる。登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

3 再履修について

単位未修得者は、教務部が事前登録を行う。

2 文芸講座

1 目 的

「文芸講座」は文芸学部での学びの基礎となる科目である。文芸学部では多種多様な分野を学ぶことができるが、「文芸講座」はそのような広がりを持つ文芸学部の学びの全体像を学生の皆さんに理解してもらうことを目的に開設された科目である。そのためこの科目は文芸学部生全員が必ず受講することになっている。授業は、あらかじめ設定したテーマについて、複数の教員が自らの研究分野から論じることで進められる。

2 履修上の注意事項

「文芸講座」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば、「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

3 再履修について

単位未修得者は、教務部が事前登録を行う。

3 教養科目

専門領域を超えて柔軟に思考することは勉学に不可欠である。専門領域におさまらない問題を、テーマ別に整理・統合したのが教養科目である。

① 教養科目は、1．全学共通教養科目群、2．国際交流科目群、3．データサイエンス科目群、4．リテラシー科目群、5．スポーツ・ウエルネス実技科目群、6．西洋古典科目群、7．他学部開設科目からなる。
1.～5.は全学共通教育カリキュラムで用意された科目である。1.～5.の各分野の設置に当たっての理念は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。
② **卒業要件単位数は16単位である。**
③ 卒業要件単位数を超えて修得した単位のうち、18単位までを「自由選択」に算入できる。
④ 教養科目には、特別な履修登録手続きが必要な科目がある。登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
⑤ 本年度休講科目は「文芸学部　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 全学共通教養科目群

第2表のとおり、全学共通教養科目を開講する。

第2表　教養科目（全学共通教養科目群）配当表

分野			授業科目	配当年次	単位
総合科目			総合講座Ⅰ	1～4	2
			総合講座Ⅱ	1～4	2
			総合講座Ⅲ	1～4	2
			総合講座Ⅳ	1～4	2
			総合講座Ⅴ	1～4	2
			総合講座Ⅵ	1～4	2
			特別講座Ⅰ	1～4	2
			特別講座Ⅱ	1～4	2
成城学			成城学園を知る	1～4	2
			成城学Ⅰ	1～4	2
			成城学Ⅱ	1～4	2
			成城学Ⅲ	1～4	2
			成城学Ⅳ	1～4	2
			成城学Ⅴ	1～4	2
系列科目	現代社会論系列	基幹	社会学入門 a	1～4	2
			社会学入門 b	1～4	2
			メディア論入門 a	1～4	2
			メディア論入門 b	1～4	2
		展開	現代社会論Ⅰa	1～4	2
			現代社会論Ⅰb	1～4	2
			現代社会論Ⅱa	1～4	2
			現代社会論Ⅱb	1～4	2
			現代社会論Ⅲa	1～4	2
			現代社会論Ⅲb	1～4	2
			現代社会論Ⅳa	1～4	2
			現代社会論Ⅳb	1～4	2
			現代社会論Ⅴa	1～4	2
			現代社会論Ⅴb	1～4	2
			現代社会論Ⅵa	1～4	2
			現代社会論Ⅵb	1～4	2
			現代社会論Ⅶa	1～4	2
			現代社会論Ⅶb	1～4	2
			現代社会論Ⅷa	1～4	2
			現代社会論Ⅷb	1～4	2
			現代社会論演習 a	1～4	2
			現代社会論演習 b	1～4	2
	社会構造論系列	基幹	国際関係論入門 a	1～4	2
			国際関係論入門 b	1～4	2
			経済学入門 a	1～4	2
			経済学入門 b	1～4	2
			政治学入門 a	1～4	2
			政治学入門 b	1～4	2
			情報社会論入門 a	1～4	2
			情報社会論入門 b	1～4	2
			法学（含む日本国憲法）a	1～4	2
			法学（含む日本国憲法）b	1～4	2

分野			授業科目	配当年次	単位
系列科目	社会構造論系列	展開	社会構造論Ⅰa	1～4	2
			社会構造論Ⅰb	1～4	2
			社会構造論Ⅱa	1～4	2
			社会構造論Ⅱb	1～4	2
			社会構造論Ⅲa	1～4	2
			社会構造論Ⅲb	1～4	2
			社会構造論Ⅳa	1～4	2
			社会構造論Ⅳb	1～4	2
			社会構造論Ⅴa	1～4	2
			社会構造論Ⅴb	1～4	2
			社会構造論Ⅵa	1～4	2
			社会構造論Ⅵb	1～4	2
			社会構造論演習 a	1～4	2
			社会構造論演習 b	1～4	2
	思想・人間論系列	基幹	哲学入門 a	1～4	2
			哲学入門 b	1～4	2
			宗教学入門 a	1～4	2
			宗教学入門 b	1～4	2
			倫理学入門 a	1～4	2
			倫理学入門 b	1～4	2
			西洋思想入門 a	1～4	2
			西洋思想入門 b	1～4	2
			東洋思想入門 a	1～4	2
			東洋思想入門 b	1～4	2
			日本思想入門 a	1～4	2
			日本思想入門 b	1～4	2
		展開	思想・人間論Ⅰa	1～4	2
			思想・人間論Ⅰb	1～4	2
			思想・人間論Ⅱa	1～4	2
			思想・人間論Ⅱb	1～4	2
			思想・人間論Ⅲa	1～4	2
			思想・人間論Ⅲb	1～4	2
			思想・人間論演習 a	1～4	2
			思想・人間論演習 b	1～4	2
	表現文化論系列	基幹	文学入門 a	1～4	2
			文学入門 b	1～4	2
			言語学入門 a	1～4	2
			言語学入門 b	1～4	2
			音楽入門 a	1～4	2
			音楽入門 b	1～4	2
			表象文化論入門 a	1～4	2
			表象文化論入門 b	1～4	2
		展開	表現文化論Ⅰa	1～4	2
			表現文化論Ⅰb	1～4	2
			表現文化論Ⅱa	1～4	2
			表現文化論Ⅱb	1～4	2
			表現文化論Ⅲa	1～4	2
			表現文化論Ⅲb	1～4	2

第2表　教養科目（全学共通教養科目群）配当表（つづき）

分野			授業科目	配当年次	単位
系列科目	表現文化論系列	展開	表現文化論Ⅳa	1～4	2
			表現文化論Ⅳb	1～4	2
			表現文化論Ⅴa	1～4	2
			表現文化論Ⅴb	1～4	2
			表現文化論Ⅵa	1～4	2
			表現文化論Ⅵb	1～4	2
			表現文化論演習 a	1～4	2
			表現文化論演習 b	1～4	2
	歴史文化論系列	基幹	歴史学入門 a	1～4	2
			歴史学入門 b	1～4	2
			日本近現代史 a	1～4	2
			日本近現代史 b	1～4	2
			ヨーロッパ近現代史 a	1～4	2
			ヨーロッパ近現代史 b	1～4	2
			アジア近現代史 a	1～4	2
			アジア近現代史 b	1～4	2
			アメリカ近現代史 a	1～4	2
			アメリカ近現代史 b	1～4	2
		展開	歴史文化論Ⅰa	1～4	2
			歴史文化論Ⅰb	1～4	2
			歴史文化論Ⅱa	1～4	2
			歴史文化論Ⅱb	1～4	2
			歴史文化論Ⅲa	1～4	2
			歴史文化論Ⅲb	1～4	2
			歴史文化論Ⅳa	1～4	2
			歴史文化論Ⅳb	1～4	2
			歴史文化論Ⅴa	1～4	2
			歴史文化論Ⅴb	1～4	2
			歴史文化論演習 a	1～4	2
			歴史文化論演習 b	1～4	2
	地域空間論系列	基幹	文化人類学入門 a	1～4	2
			文化人類学入門 b	1～4	2
			空間システム論入門 a	1～4	2
			空間システム論入門 b	1～4	2
		展開	地域空間論Ⅰa	1～4	2
			地域空間論Ⅰb	1～4	2
			地域空間論Ⅱa	1～4	2
			地域空間論Ⅱb	1～4	2
			地域空間論Ⅲa	1～4	2
			地域空間論Ⅲb	1～4	2
			地域空間論Ⅳa	1～4	2
			地域空間論Ⅳb	1～4	2
			地域空間論Ⅴa	1～4	2
			地域空間論Ⅴb	1～4	2
			地域空間論Ⅵa	1～4	2
			地域空間論Ⅵb	1～4	2
			地域空間論Ⅶa	1～4	2
			地域空間論Ⅶb	1～4	2
			地域空間論Ⅷa	1～4	2
			地域空間論Ⅷb	1～4	2
			地域空間論演習 a	1～4	2
			地域空間論演習 b	1～4	2

分野			授業科目	配当年次	単位
系列科目	数理・自然科学系列	基幹	数理の世界 a	1～4	2
			数理の世界 b	1～4	2
			物理の世界 a	1～4	2
			物理の世界 b	1～4	2
			化学の世界 a	1～4	2
			化学の世界 b	1～4	2
			生命科学の世界 a	1～4	2
			生命科学の世界 b	1～4	2
			科学史 a	1～4	2
			科学史 b	1～4	2
		展開	自然科学Ⅰa	1～4	2
			自然科学Ⅰb	1～4	2
			自然科学Ⅱa	1～4	2
			自然科学Ⅱb	1～4	2
			自然科学Ⅲa	1～4	2
			自然科学Ⅲb	1～4	2
			自然科学Ⅳa	1～4	2
			自然科学Ⅳb	1～4	2
			自然科学Ⅴa	1～4	2
			自然科学Ⅴb	1～4	2
			数理・自然科学演習 a	1～4	2
			数理・自然科学演習 b	1～4	2
	心身論系列	基幹	こころと身体 a	1～4	2
			こころと身体 b	1～4	2
			身体と運動・スポーツ a	1～4	2
			身体と運動・スポーツ b	1～4	2
		展開	心身論Ⅰa	1～4	2
			心身論Ⅰb	1～4	2
			心身論Ⅱa	1～4	2
			心身論Ⅱb	1～4	2
			心身論Ⅲa	1～4	2
			心身論Ⅲb	1～4	2
			心身論Ⅳa	1～4	2
			心身論Ⅳb	1～4	2
			心身論Ⅴa	1～4	2
			心身論Ⅴb	1～4	2
			心身論演習 a	1～4	2
			心身論演習 b	1～4	2
スポーツ・ウエルネス教育科目	スポーツ・ウエルネス講義・演習科目	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ	1～4	2
			スポーツ・スタディーズⅡ	1～4	2
			スポーツ・スタディーズⅢ	1～4	2
			スポーツ・スタディーズⅣ	1～4	2
		ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ	1～4	2
			ウエルネス・スタディーズⅡ	1～4	2
			ウエルネス・スタディーズⅢ	1～4	2
			ウエルネス・スタディーズⅣ	1～4	2
		身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ	1～4	2
			身体表現・スタディーズⅡ	1～4	2
			身体表現・スタディーズⅢ	1～4	2
			身体表現・スタディーズⅣ	1～4	2

〔第2表の注意事項〕

① 世田谷6大学コンソーシアム連携授業科目である「総合講座Ⅴ」および「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できる。ただし、**反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することができない。**

② 2021・2022年度開講の「特別講座Ⅱ」を修得した場合のみ、成績評価は他の科目と異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

③ **「スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ」「ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ」「身体表現・スタディーズⅠ～Ⅳ」の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室、または指定された教室でガイダンスを行う。**

④ 2021年度をもって、「数理科学Ⅰa・b」、「数理科学Ⅱa・b」は廃講となった。修得済みの単位は教養科目の単位として認められる。

2 国際交流科目群

第3表のとおり、国際交流科目群を開講する。

第3表　教養科目（国際交流科目群）配当表

区分	授業科目	配当年次	単位
留学対策科目	Academic Skills ⅠA	1～4	1
	Academic Skills ⅠB	1～4	1
	Academic Skills ⅡA	1～4	1
	Academic Skills ⅡB	1～4	1
	Academic Skills ⅢA	1～4	1
	Academic Skills ⅢB	1～4	1
	Academic Skills ⅣA	1～4	1
	Academic Skills ⅣB	1～4	1
	Academic Skills ⅤA	2～4	1
	Academic Skills ⅤB	2～4	1
英語等による地域研究科目	European Studies A	1～4	2
	European Studies B	1～4	2
	North American Studies A	1～4	2
	North American Studies B	1～4	2
	Asian Studies A	1～4	2
	Asian Studies B	1～4	2
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies ⅠA	1～4	2
	Japan Studies ⅠB	1～4	2
	Japan Studies ⅡA	1～4	2
	Japan Studies ⅡB	1～4	2
	Japan Studies ⅢA	1～4	2
	Japan Studies ⅢB	1～4	2
	Japan Studies ⅣA	1～4	2
	Japan Studies ⅣB	1～4	2
	Japan Studies ⅤA	1～4	2
	Japan Studies ⅤB	1～4	2
	Japan Studies ⅥA	1～4	2
	Japan Studies ⅥB	1～4	2
	Japan Studies ⅦA	1～4	2
	Japan Studies ⅦB	1～4	2
	Japan Studies ⅧA	1～4	2
	Japan Studies ⅧB	1～4	2
	Japan Studies ⅨA	1～4	2
	Japan Studies ⅨB	1～4	2
英語等による特定のテーマを扱った科目	Special Topics ⅠA	1～4	2
	Special Topics ⅠB	1～4	2
	Special Topics ⅡA	1～4	2
	Special Topics ⅡB	1～4	2
	Special Topics ⅢA	1～4	2
	Special Topics ⅢB	1～4	2
	Special Topics ⅣA	1～4	2
	Special Topics ⅣB	1～4	2
	Special Topics ⅤA	1～4	2
	Special Topics ⅤB	1～4	2

区分	授業科目	配当年次	単位
海外短期語学研修	海外短期語学研修（英語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（独語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（仏語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（スペイン語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（スペイン語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）【2021年度以降入学者のみ履修可】	1～4	1
	海外短期語学研修（英語・就業体験準備）【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	1
海外短期研修	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	2
受け入れ留学生科目	日本語（初級1）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（初級1）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅲ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅲ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅳ	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅠA	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅠB	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅡA	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅡB	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅢA	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅢB	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅣA	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅣB	交換留学生等	2
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第３表の注意事項〕

① **「留学対策科目」および「留学準備演習」の科目は卒業要件単位に算入することができない。**

② 卒業要件単位に算入できない授業科目の履修については、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が設けられている。【履修規定 Ⅲ -2学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数】を参照すること。

③「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は**履修科目登録上限単位数には算入されない。**詳細については、各学科の【履修規定 Ⅲ -2学科科目履修方法 1履修科目登録上限単位数】を参照すること。

④ 海外短期語学研修のうち、配当年次が＊印になっているものは、１～３年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位授与がされる科目である。
研修参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の有無にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。

⑤「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は、一度単位の授与を受けた科目も再履修することができ、同一年度に複数の科目を履修することもできる。ただし、授与された単位のうち**卒業要件単位に算入できるのはあわせて2単位まで**である。

⑥「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

⑦ 受け入れ留学生科目は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者、または外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。外国人留学生が当該科目の履修を希望する場合は、教務部に申し出ること。

⑧ 2022年度をもって、「Academic SkillsⅥA・B」は廃講となった。

⑨ 2023年度に「Special TopicsⅤA・B」が新設された。

⑩ 2023年度をもって、「Oceanian StudiesA・B」は廃講となった。修得済みの単位は教養科目の単位として認められる。

⑪ 2024年度に「Japan StudiesⅨA・B」、「海外短期語学研修（スペイン語・春季）・（スペイン語・夏季）」が新設された。

3 データサイエンス科目群

第４表のとおり、データサイエンス科目群を開講する。

第4表　教養科目（データサイエンス科目群）配当表【2022年度以降入学者用】

区分	授　業　科　目	配当年次	単位
リテラシー科目	データサイエンス概論	1～4	2
	データサイエンス基礎	1～4	2
応用基礎科目	データアナリティクス基礎	2～4	2
	機械学習基礎	2～4	2
アドバンスド科目	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2
	データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅰ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅱ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅲ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅳ	2～4	2
選択科目	データアナリティクス応用	2～4	2
	機械学習応用	2～4	2
	数理科学基礎ａ	1～4	2
	数理科学基礎ｂ	1～4	2
	数理科学応用ａ	1～4	2
	数理科学応用ｂ	1～4	2

注）灰色に色付けされた科目は卒業要件外科目である。

第4表　教養科目（データサイエンス科目群）配当表【2021年度以前入学者用】

区分	授　業　科　目	配当年次	単位
基礎科目	データサイエンス概論	1～4	2
	データサイエンス基礎	1～4	2
	データアナリティクス基礎	2～4	2
	データアナリティクス応用	2～4	2
発展科目	機械学習基礎	2～4	2
	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2
選択科目	数理科学基礎ａ	1～4	2
	数理科学基礎ｂ	1～4	2
	数理科学応用ａ	1～4	2
	数理科学応用ｂ	1～4	2

注）灰色に色付けされた科目は卒業要件外科目である。

〔第４表の注意事項〕

① データサイエンス科目群のうち、卒業要件単位に算入できない授業科目の履修については、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が設けられている。【履修規定Ⅲ-2学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数】を参照すること。

② 2022年度に以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
データサイエンス基礎	データサイエンス入門Ⅰ
データアナリティクス基礎	データサイエンス入門Ⅱ
データアナリティクス応用	データサイエンス応用
機械学習基礎	データサイエンス・スキルアップ・プログラム

③「データアナリティクス基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。

④「機械学習基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- 「データアナリティクス基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。

⑤「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- 「データアナリティクス基礎」、「機械学習基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。

⑥ 2022年度に「数理科学基礎a・b」、「数理科学応用a・b」が新設された。

4 リテラシー科目群（IT科目）

第５表のとおり、リテラシー科目群を開講する。

第5表　教養科目（リテラシー科目群）配当表

授　業　科　目	配当年次	単位	授　業　科　目	配当年次	単位
コンピュータ・リテラシー A1	1～4	2	コンピュータ・リテラシー D	1～4	2
コンピュータ・リテラシー A2	1～4	2	コンピュータ・リテラシー E	1～4	2
コンピュータ・リテラシー B	1～4	2	図書館活用法	1～4	2
コンピュータ・リテラシー C	1～4	2			

〔第5表の注意事項〕

① **4単位までを卒業要件単位に算入することができる。**

② **マスコミュニケーション学科を除き、1年次に「コンピュータ・リテラシー A1・A2」を履修することが望ましい。**

③「コンピュータ・リテラシー A1」と「コンピュータ・リテラシー A2」は、セットで履修することになっている。対となるクラスは、同一曜日・時限で開講している。

④ セットで履修した「コンピュータ・リテラシー A1」と「コンピュータ・リテラシー A2」のうち、どちらか1科目のみ単位を修得し、もう一方の科目が不合格となった場合、不合格となった科目のみを再履修することも、両方を再履修することもできない。

5 スポーツ・ウエルネス実技科目群

第６表のとおり、スポーツ・ウエルネス実技科目群を開講する。

第6表　教養科目（スポーツ・ウエルネス実技科目群）種目表

コース	種　　目	系　列	配当年次	単位
定時コース（半期）	オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー＆フットサル ソフトボール 卓球 テニス トレーニング バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル ラグビー	スポーツ文化	1～4	1
集中コース	サイクル・スポーツ スキー			
定時コース（半期）	アクアエクササイズ エアロビクス＆コンディショニング エアロビクス＆ピラティス コンディショニング 水泳 フィットネス ヨガ＆ピラティス レクリエーション・スポーツ	ウエルネス文化		
	剣道（古武道） ダンスパフォーマンス	身体表現文化		

〔第6表の注意事項〕

① **4単位を上限に卒業要件単位に算入することができる。**
特別な履修登録手続きが必要となるので、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

② **第1回目の授業は、前期・後期ともに、トレーニングセンターで行う科目はトレーニングセンターで、それ以外は第1体育館でガイダンスを行う。**なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。

③ **反復履修・重複履修することができる。**

④ 集中コースの科目は「履修科目登録上限単位数」には算入されない。詳細については、各学科の【履修規定 Ⅲ -2学科科目履修方法 1履修科目登録上限単位数】を参照すること。

⑤ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。

6　西洋古典科目群

第７表のとおり、西洋古典科目群を開講する。

第7表　教養科目（西洋古典科目群）配当表

授　業　科　目	配当年次	単位
ギリシャ古典入門	1～4	4
ギリシャ古典講読	1～4	4

授　業　科　目	配当年次	単位
ローマ古典入門	1～4	4
ローマ古典講読	1～4	4

7　他学部開設科目

第８表のとおり、他学部開設科目を開講する。

第8表　教養科目（他学部開設科目）配当表

授　業　科　目	配当年次	単位	開設学部
外国文化Ⅰa	2～4	2	経済
外国文化Ⅰb	2～4	2	
外国文化Ⅱa	2～4	2	
外国文化Ⅱb	2～4	2	
外国文化Ⅲa	2～4	2	
外国文化Ⅲb	2～4	2	
外国文化Ⅳa	2～4	2	
外国文化Ⅳb	2～4	2	
現代社会とスポーツ	2～4	2	
スポーツ産業論	2～4	2	
心理学a	2～4	2	
心理学b	2～4	2	
数学Ⅰa	2～4	2	
数学Ⅰb	2～4	2	
数学Ⅱa	2～4	2	
数学Ⅱb	2～4	2	
政治経済論入門Ⅰ	2～4	2	
政治経済論入門Ⅱ	2～4	2	

授　業　科　目	配当年次	単位	開設学部
ヨーロッパ文化史	2～4	4	法
アメリカ文化史	2～4	4	
日本文学	2～4	4	
外国文学	2～4	4	
エコロジー論	2～4	4	社会イノベーション
文明と社会	2～4	4	
家族と社会の変動	2～4	4	
短期学外演習	2～4	2	

〔第8表の注意事項〕

① 8単位を上限に卒業要件単位に算入することができる。

② 1年間で履修できる単位数は8単位までである。

4 外国語科目

文芸学部で履修できる外国語は、**英語、独語、仏語、中国語、イタリア語、スペイン語、韓国語**であり、授業科目は**第9表**のとおりである。
本年度休講科目は「文芸学部　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第9表　文芸学部で履修できる外国語科目の種類

区分		授業科目			単位の取り扱い
学部共通外国語		初級	英語	SEE－A・B（注）	卒業要件単位数を超えて修得した単位は、12単位を上限に「自由選択」に算入できる。
			独語	初級	
			仏語	初級	
			中国語	初級	
			イタリア語	初級	
		中級	英語	中級総合	
			独語	中級総合	
			仏語	中級総合	
			中国語	中級Ⅰ・Ⅱ	
			イタリア語	中級総合	
		上級	英語	上級	
			独語	上級	
			仏語	上級	
			中国語	上級	
			イタリア語	上級	
特選外国語	全学共通外国語	英語リスニング＆スピーキング		初級a・b、中級a・b、上級a・b	18単位を上限に、「自由選択」に算入できる。
		英語リーディング＆ライティング		初級a・b、中級a・b、上級a・b	
		英会話選択		a・b	
		ビジネス英語		a・b	
		英文多読		a・b	
		独会話選択		a・b	
		独語選択		初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級a・b	
		仏会話選択		a・b	
		仏語選択		初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級a・b	
		スペイン語選択		初級a・b	
		中国語選択		初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級a・b	
		韓国語会話選択		a・b	
		韓国語選択		初級a・b	
	ディプロム・コース	英語		中級a、上級b	
	ディプロム・コース（全学共通外国語）	独語		中級a・b、上級a・b	
		仏語		中級a・b、上級a・b	
		スペイン語		中級a・b	
		韓国語		中級a・b	
	エクステンシヴ・リーディング	英語エクステンシヴ・リーディング		A・B	

注）SEEとは、Seijo Essential Englishの略名である。

a　学部共通外国語

1　学部共通外国語

第10表のとおり、学部共通外国語を開講する。

第10表　学部共通外国語配当表

言語	授業科目	配当年次	単位数	週の授業回数
英語	英語SEE-A（Input）	1	1	1回
	英語SEE-A（Output）	1	1	1回
	英語SEE-B（Input）	1	1	1回
	英語SEE-B（Output）	1	1	1回
	英語（中級総合）	2～4	1	1回
	英語（上級）	3・4	1	1回
独語	独語（初級）	1	6	3回
	独語（中級総合）	2～4	1	1回
	独語（上級）	3・4	1	1回
仏語	仏語（初級）	1	6	3回
	仏語（中級総合）	2～4	1	1回
	仏語（上級）	3・4	1	1回
イタリア語	イタリア語（初級）	1	6	3回
	イタリア語（中級総合）	2～4	1	1回
	イタリア語（上級）	3・4	1	1回
中国語	中国語（初級）	1	6	3回
	中国語（中級Ⅰ）	2～4	2	2回
	中国語（中級Ⅱ）	2～4	1	1回
	中国語（上級）	3・4	1	1回

2　卒業に必要な学部共通外国語の規定単位数

学部共通外国語で開設している授業科目のうち、2種類以上の外国語において、**第11表**に示す規定の単位を修得しなければならない。

第11表　卒業に必要な学部共通外国語科目の規定単位数

●国文、芸術、文化史、マスコミュニケーション学科	規定単位数	
① 必修（英語） ・英語SEE-A（Input）　1単位 ・英語SEE-A（Output）　1単位 ・英語SEE-B（Input）　1単位 ・英語SEE-B（Output）　1単位	4	計12
② 選択（独語・仏語・中国語・イタリア語）	4	
③ ①以外の英語または②（もしくは両方）の超過分	4	

（履修上の注意）

- （例）独語（初級）6単位を修得した場合、②に4単位、③に2単位算入される。続けて独語（中級総合）の単位を修得した場合や、英語（中級総合）、それ以外の言語の単位を修得した場合は③に算入される。

●英文学科	規定単位数	
① 必修（英語） ・英語SEE-A（Input）　1単位 ・英語SEE-A（Output）　1単位 ・英語SEE-B（Input）　1単位 ・英語SEE-B（Output）　1単位 ・英語（中級総合）　1単位×4（＊）　4単位	8	計14
② 選択（独語・仏語・中国語・イタリア語）	4	
③ ①以外の英語または②（もしくは両方）の超過分	2	

（履修上の注意）

- （例）英語（上級）2単位を修得した場合、③に2単位算入される。
- （例）独語（初級）6単位を修得した場合、②に4単位、③に2単位算入される。

＊飛び級（P.63の7参照）した場合は中級総合の代わりに英語（上級）を4単位修得しなければならない。

●ヨーロッパ文化学科

	規定単位数	
① 必修（独語または仏語を自身で選択） • 独語/仏語（初級） 6単位 • 独語/仏語（中級総合） 1単位×4 4単位 • 独語/仏語（上級） 1単位×2 2単位	12	計16
② 選択（独語・仏語・英語・中国語・イタリア語） ※①必修で選択した言語以外の言語から単位を修得しなければならない。	4	

（履修上の注意）

- 既修者で1年次にグレードを超えて履修開始する者は、開始グレード以上で12単位修得しなければならない。
- 外国語科目および学科科目の履修を計画的に進行させるため、独語または仏語は1年次から履修しなければならない。

3 グレード制・セメスター制

学部共通外国語は、一部を除きグレード制・セメスター制をとる。

【グレード制】習熟度に合わせた多様なクラスで学んで、次のステップに進むことができる制度。

【セメスター制】前期または後期の半期で授業が完結する制度。

4 グレードの認定

① 英語以外の外国語の開始段階におけるグレード（学習段階）の認定は、既修外国語については入学試験、あるいは高校の学業成績による。場合によっては、認定テストを実施することがある。

② 1年次後期以降におけるグレードの認定は各セメスター（学期）ごとの試験の結果をもとに行う。**第12表**に示される各グレードの履修条件を満たした者にはそのグレードの履修が認められる**（「英語SEE－A・B」は、グレード制ではない）**。

③ 1年次に一般的な開始段階より上のグレードから開始する者も、規定の単位数を満たさなければならない。

5 グレードの種類

各教科におけるグレードの種類、単位数、週回数等は**第12表**に示す。

第12表　グレードの種類・単位数・履修の条件等

言語	履修時期の目安	該当授業科目	履修の条件	備考	グレードの種類と必要単位
英語	1年次 前期	英語SEE-A（Input）	特になし	• A・B同時履修可 • 前期に不合格になった場合、後期に同じ科目の再履修可 • **ヨーロッパ文化学科を除き必修**	初級（4単位）
		英語SEE-A（Output）			
	1年次 後期	英語SEE-B（Input）			
		英語SEE-B（Output）			
	2年次 前期	英語（中級総合）×2	「英語SEE-A」および「英語SEE-B」の合格者	• 各学期2単位まで履修可 • 反復・重複履修可 • 〈Input〉、〈Output〉、〈Academic Writing〉は任意のものを履修すること • **英文学科は必修**	中級（4単位）
	2年次 後期	英語（中級総合）×2			
	3～4年次	英語（上級）	「英語（中級総合）」4単位を修得した者	• 各学期2単位まで履修可 • 反復・重複履修可 • 〈Input〉、〈Output〉、〈Academic Writing〉、〈映像翻訳入門〉は任意のものを履修すること	上級
独語	1年次	独語（初級）	• 特になし	• 通年科目	初級（6単位）
	2年次 前期	独語（中級総合）×2	「独語（初級）」の合格者	• 各学期2単位まで履修可 • 反復・重複履修可	中級（4単位）
	2年次 後期	独語（中級総合）×2			
	3～4年次	独語（上級）	「独語（中級総合）」4単位を修得した者	• 反復・重複履修可	上級
仏語	1年次 通年	仏語（初級）	• 特になし	• 通年科目	初級（6単位）
	2年次 前期	仏語（中級総合）×2	「仏語（初級）」の合格者	• 各学期2単位まで履修可 • 反復・重複履修可	中級（4単位）
	2年次 後期	仏語（中級総合）×2			
	3～4年次	仏語（上級）	「仏語（中級総合）」4単位を修得した者	• 反復・重複履修可	上級
イタリア語	1年次	イタリア語（初級）	• 特になし	• 通年科目	初級（6単位）
	2年次 前期	イタリア語（中級総合）×2	「イタリア語（初級）」の合格者	• 各学期2単位まで履修可 • 反復・重複履修可	中級（4単位）
	2年次 後期	イタリア語（中級総合）×2			
	3～4年次 前期・後期	イタリア語（上級）	「イタリア語（中級総合）」4単位を修得した者	• 反復・重複履修可	上級
中国語	1年次	中国語（初級）	• 特になし	• 通年科目	初級（6単位）
	2年次 前期	中国語（中級Ⅰ）	「中国語（初級）」の合格者	• 各学期2単位まで履修可 • 前期に不合格になった場合、後期に同じ科目の再履修可	中級Ⅰ（2単位）
	2年次 後期	中国語（中級Ⅱ）×2	「中国語（中級Ⅰ）」の合格者	• 後期開講科目 • 2単位まで履修可	中級Ⅱ（2単位）
	3～4年次	中国語（上級）	「中国語（中級Ⅱ）」2単位を修得した者	• 反復・重複履修可	上級

6 英語SEE－A・Bの受講クラスについて

1年次の「英語SEE－A・B」の受講クラスは教務部が指定するので、登録手続きの必要はない。ただし、「英語SEE－A」および「英語SEE－B」の単位が修得できなかった場合は、再履修者用に開講されているクラスを自身で登録すること。登録方法については【授業に関すること Ⅴ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

7 英語の飛び級について

1年次年度末に受験する到達度テスト「CASEC」の成績とSEEの成績に応じて、成績上位の者は中級グレードを飛ばして、上級グレードに飛び級する。一度、上級グレードに飛び級すると、単位修得･未修得に関わらず上級グレードのままになるため、翌年度以降も中級グレードを履修することはできない。飛び級をした場合も、卒業、進級に必要な単位数が変わることはないので注意すること。

【飛び級により上級に進んだ場合の履修パターン】

年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
1	前期	初級	SEE-A（Input）	1	教務部がクラスを指定し事前登録を行う。
			SEE-A（Output）	1	
	後期	初級	SEE-B（Input）	1	
			SEE-B（Output）	1	

↓

年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
2～4	前期	上級	上級	1	各自が抽選登録を行う。
		上級	上級	1	
	後期	上級	上級	1	各自が抽選登録を行う。
		上級	上級	1	

8 クラス名称と開講曜限

英語・独語・仏語・中国語・イタリア語の初級クラスは、週3回もしくは2回の授業が行われ、開講曜限によりX・Y・Zの3つのグループに分けられ、さらに英語の再履修用クラスとしてN グループを開講している。
また、クラス名は以下のように表される。

例１　英（Ｘ－１），（Ｘ－１１）… 英語で、Ｘグループの第1組
（月３・金２の週２回授業がある）
例２　仏（Ｙ－２）… 仏語で、Ｙグループの第2組（月５・木３・金１の週３回授業がある）

第12表　外国語の開講曜限

	月	火	水	木	金
1			Z		Y
2			X		X
3	X グループ			Y	
4	Z グループ			Z	
5	Y グループ				

b　特選外国語

① 特選外国語として、全学共通外国語、ディプロム・コース、エクステンシヴ・リーディングを開講する。
② 18単位を上限に「自由選択」に算入することができる。
③ これらの科目はグレード制をとらないので、自由に履修することができる。
④ 登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
⑤ 全学共通外国語およびディプロム・コース（独語・仏語・スペイン語・韓国語）は、全学共通教育カリキュラムで用意された科目である。当該分野の設置に当たっての理念は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

1　全学共通外国語

第13表　特選外国語（全学共通外国語）配当表

授業科目	配当年次	単位	授業科目	配当年次	単位
英語リスニング＆スピーキング（初級）a	1～4	1	独語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
英語リスニング＆スピーキング（初級）b	1～4	1	独語選択（中級）a	1～4	1
英語リスニング＆スピーキング（中級）a	1～4	1	独語選択（中級）b	1～4	1
英語リスニング＆スピーキング（中級）b	1～4	1	仏会話選択a	1～4	1
英語リスニング＆スピーキング（上級）a	1～4	1	仏会話選択b	1～4	1
英語リスニング＆スピーキング（上級）b	1～4	1	仏語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
英語リーディング＆ライティング（初級）a	1～4	1	仏語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
英語リーディング＆ライティング（初級）b	1～4	1	仏語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
英語リーディング＆ライティング（中級）a	1～4	1	仏語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
英語リーディング＆ライティング（中級）b	1～4	1	仏語選択（中級）a	1～4	1
英語リーディング＆ライティング（上級）a	1～4	1	仏語選択（中級）b	1～4	1
英語リーディング＆ライティング（上級）b	1～4	1	スペイン語選択（初級）a	1～4	1
英会話選択a	1～4	1	スペイン語選択（初級）b	1～4	1
英会話選択b	1～4	1	中国語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
ビジネス英語a	1～4	1	中国語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
ビジネス英語b	1～4	1	中国語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
英文多読a	1～4	1	中国語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
英文多読b	1～4	1	中国語選択（中級）a	1～4	1
独会話選択a	1～4	1	中国語選択（中級）b	1～4	1
独会話選択b	1～4	1	韓国語会話選択a	1～4	1
独語選択（初級）Ⅰa	1～4	1	韓国語会話選択b	1～4	1
独語選択（初級）Ⅰb	1～4	1	韓国語選択（初級）a	1～4	1
独語選択（初級）Ⅱa	1～4	1	韓国語選択（初級）b	1～4	1

《英語到達目標》
①「英語リスニング＆スピーキング」、「英語リーディング＆ライティング」
　初級：TOEIC　600－700点、英検2級程度
　中級：TOEIC　700－800点、英検準1級程度
　上級：TOEIC　800－990点、英検1級程度
②「英会話選択」― 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。
③「ビジネス英語」― 受講者のレベルや要請に応じて、初級～上級のレベルを目指す。
④「英文多読」― 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。

〔第13表の注意事項〕
① 同一名称の科目の反復履修・重複履修はできない。
② 中級の独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の目安を参考にすること。

授業科目（グレード）	履修の目安	備　考
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	•「選択（初級）Ⅰa～Ⅱb」の計4単位を修得した者 • 文芸学部共通外国語の初級グレード（6単位）を修得した者	a・bどちらかのみの履修も可。

※上記の「履修の目安」を満たさない状態で履修を希望する場合、必ず第１回目の授業に出席し、担当教員に相談すること。

③ 2020年度に「韓国語会話選択a・b」が新設された。

2 ディプロム・コース

第14表　特選外国語（ディプロム・コース）配当表

授　業　科　目	配当年次	単位
ディプロム・コース中級（英語）a	1～4	1
ディプロム・コース上級（英語）b	1～4	1
ディプロム・コース中級（独語）a	1～4	1
ディプロム・コース中級（独語）b	1～4	1
ディプロム・コース上級（独語）a	1～4	1
ディプロム・コース上級（独語）b	1～4	1
ディプロム・コース中級（仏語）a	1～4	1

授　業　科　目	配当年次	単位
ディプロム・コース中級（仏語）b	1～4	1
ディプロム・コース上級（仏語）a	1～4	1
ディプロム・コース上級（仏語）b	1～4	1
ディプロム・コース中級（スペイン語）a	1～4	1
ディプロム・コース中級（スペイン語）b	1～4	1
ディプロム・コース中級（韓国語）a	1～4	1
ディプロム・コース中級（韓国語）b	1～4	1

【到達目標】

ア）中級（英語）：英検準１級の合格、TOEICで６割以上得点できること。
イ）上級（英語）：英検１級の合格、TOEICで８割以上得点できること。
ウ）中級（独語・仏語）：独検・仏検の４～３級の合格。
エ）上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）２級～準１級の合格。
オ）中級（スペイン語・韓国語）：西検・ハン検の３級の合格。

〔第14表の注意事項〕

① 同一名称の科目を反復履修・重複履修できる。
② 本コースはグレードを問わず履修することができるので、履修に際しては、上記の到達目標を参考にすること。
③ 2020年度に「ディプロム・コース中級（スペイン語）a・b」および「ディプロム・コース中級（韓国語）a・b」が新設された。

3 エクステンシヴ・リーディング

第15表　特選外国語（エクステンシヴ・リーディング）配当表

授　業　科　目	配当年次	単位
英語エクステンシヴ・リーディングA	1～4	1
英語エクステンシヴ・リーディングB	1～4	1

〔第15表の注意事項〕

同一名称の科目を反復履修・重複履修できる。

5 キャリア科目

① キャリア科目は、1．キャリアデザイン科目群、2．社会調査士資格科目群からなる。
② 4単位を上限に「自由選択」に算入することができる。
③ 本年度休講科目は「文芸学部　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 キャリアデザイン科目群

第16表のとおり、キャリアデザイン科目群を開講する。当該分野の設置に当たっての理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

第16表　キャリア科目（キャリアデザイン科目群）配当表

授　業　科　目	配当年次	単位
☆キャリア・ベーシックⅠ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅡ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅢ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅠ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅡ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅢ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅣ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅤ	1～4	2

授　業　科　目	配当年次	単位
★キャリア・プラクティスⅥ	1～4	2
★キャリア・エクスペリエンス	1～4	2
ワーク・キャリアⅠ	2～4	2
ワーク・キャリアⅡ	2～4	2
ワーク・キャリアⅢ	2～4	2
ライフ・キャリアⅠ	2～4	2
ライフ・キャリアⅡ	2～4	2
ライフ・キャリアⅢ	2～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第16表の注意事項〕

① 2025年度に科目が一新され、以下の科目は廃講となり、**第16表**の科目が新設された。**☆の付いた科目から2単位、★の付いた科目から2単位、計4単位を上限に卒業要件単位に算入することができる。**なお、上限には修得済の旧授業科目も含まれるため注意すること。

旧授業科目	
☆キャリア形成Ⅰ～Ⅳ	職業選択
★プロジェクト演習	キャリア・プランニング・プログラムⅠ・Ⅱ
★成城インターンシップ	時事英語Ⅰ・Ⅱ
業界企業分析	時事問題研究

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

② キャリアデザイン科目群のうち、卒業要件単位に算入できない授業科目の履修については、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が設けられている。【履修規定Ⅲ-2学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数】を参照すること。
③ キャリアデザイン科目群は、特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること Ⅴ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
④ 2025年度に新設された以下の授業科目については、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
キャリア・ベーシックⅠ	キャリア形成Ⅰ
キャリア・ベーシックⅡ	キャリア形成Ⅱ
キャリア・プラクティスⅠ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅢ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅣ	キャリア形成Ⅳ

⑤「キャリア・エクスペリエンス」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。
⑥「キャリア・エクスペリエンス」は反復履修できるが、**反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。なお、2024年度以前に「成城インターンシップ」の単位を修得している場合、「キャリア・エクスペリエンス」を履修することもできるが、卒業要件単位に算入することはできない。**

2 社会調査士資格科目群

第17表のとおり社会調査士資格科目群を開講する。

第17表　キャリア科目（社会調査士資格科目群）配当表

授　業　科　目	配当年次	単位	備考
統計学	2～4	4	前期開講

〔第17表の注意事項〕
社会調査士資格を取得するためには、上記科目以外にも単位の修得が必要な科目があるが、詳細については、【社会調査士資格】の項に記載されている。

Ⅲ-2 学科科目履修方法

A 国文学科

第18表　国文学科授業科目配当表

授業科目		年次（単位）	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
必修	素読Ⅰ	(2)	2				2
	素読Ⅱ	(2)	2				2
	素読Ⅲ	(2)	2				2
	素読Ⅳ	(2)	2				2
	近代文入門	(2)	2				2
	国文学史総合講座	(2)	2				2
	国語史概説Ⅰ	(2)	2				2
	国語史概説Ⅱ	(2)	2				2
	漢文学概説Ⅰ	(2)		2			2
	漢文学概説Ⅱ	(2)		2			2
	ゼミナール(3)	(4)			4		4
	ゼミナール(4)	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
	必修合計		16	4	4	12	36
選択	会読 古代国文学会読Ⅰ	(2)		8	4		12
	古代国文学会読Ⅱ	(2)					
	中古国文学会読Ⅰ	(2)					
	中古国文学会読Ⅱ	(2)					
	中世国文学会読Ⅰ	(2)					
	中世国文学会読Ⅱ	(2)					
	近世国文学会読Ⅰ	(2)					
	近世国文学会読Ⅱ	(2)					
	近代国文学会読Ⅰ	(2)					
	近代国文学会読Ⅱ	(2)					
	近代国文学会読Ⅲ	(2)					
	近代国文学会読Ⅳ	(2)					
	漢文学会読Ⅰ	(2)					
	漢文学会読Ⅱ	(2)					
	国語学会読Ⅰ	(2)					
	国語学会読Ⅱ	(2)					
	古文	(2)					
	漢文	(2)					
	書道Ⅰ	(2)					
	書道Ⅱ	(2)					
	講義 古代国文学講義Ⅰ	(2)			12		12
	古代国文学講義Ⅱ	(2)					
	中古国文学講義Ⅰ	(2)					
	中古国文学講義Ⅱ	(2)					
	中世国文学講義Ⅰ	(2)					
	中世国文学講義Ⅱ	(2)					
	近世国文学講義Ⅰ	(2)					
	近世国文学講義Ⅱ	(2)					
	近代国文学講義Ⅰ	(2)					
	近代国文学講義Ⅱ	(2)					
	漢文学講義Ⅰ	(2)					
	漢文学講義Ⅱ	(2)					
	国語学講義Ⅰ	(2)					
	国語学講義Ⅱ	(2)					
	国語国文学講義Ⅰ	(2)					
	国語国文学講義Ⅱ	(2)					
	国語国文学講義Ⅲ	(2)					
	国語国文学講義Ⅳ	(2)					
	国語国文学講義Ⅴ	(2)					
	国語国文学講義Ⅵ	(2)					
	国語国文学講義Ⅶ	(2)					
	国語国文学講義Ⅷ	(2)					
	国語国文学講義Ⅸ	(2)					
	国語国文学講義Ⅹ	(2)					
自由	国語国文学実習Ⅰ	(1)	〔8〕				
	国語国文学実習Ⅱ	(1)					
	国語国文学実習Ⅲ	(1)					
	国語国文学実習Ⅳ	(1)					
	国語国文学実習Ⅴ	(1)					
	国語国文学実習Ⅵ	(1)					
	国語国文学実習Ⅶ	(1)					
	国語国文学実習Ⅷ	(1)					
選択・自由合計							24
総計							60

注）本年度休講科目は「文芸学部　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 履修科目登録上限単位数

① 各年次において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
② 授業期間外（春季休業期間中または夏季休業期間中）に実施される授業科目の単位は、「履修科目登録上限単位数」に算入されない。
※ 今年度対象：国際交流科目群「海外短期語学研修」区分およびスポーツ・ウエルネス実技科目群「集中コース」に含まれる授業科目
③ キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群のうち、卒業要件として認められない科目は、前年度（1年次生は前期）のGPAが2.5以上の成績優秀者と認められた場合、特例措置として、各年次において①の単位数を3単位まで超えて履修することが認められる場合がある。
なお、本特例措置の適用を受けた者については、学部より履修指導およびフォローアップ面接の場が設けられる。
※ 教職課程、学芸員課程における特例措置概要については、該当ページを参照すること。
※ 本措置と、教職課程、学芸員課程における特例措置の複数の適用を受けた場合、超過可能単位数は積算できない。

2 必修科目

①「素読Ⅰ～Ⅳ」と「近代文入門」は、国文学科１年次生のみクラス分けを行う。指定クラスは、LiveCampusUの履修登録画面で各自確認すること。
② ゼミナールは、3･4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。
③「ゼミナール（4）」および「卒業論文」を履修するには、「ゼミナール（3）」を修得していることが条件となる。

3 選択科目

① 選択に当たっては、一つの分野にかたよらず、幅広く学修することが望ましい。
②「近代国文学会読」のⅠとⅢ、ⅡとⅣは同時に履修することはできない。
③ 会読科目は年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は、卒業要件単位に算入することはできない。
④ 会読科目は、可能な限り志望するゼミナールを視野に入れて選択すること。
⑤ 会読科目は、２年次で８単位以上、３年次で４単位以上履修することが望ましい。
⑥ 会読科目は、留学などの特別な理由がない限り、ⅠとⅡ、ⅢとⅣを通年で履修することを原則とする。
⑦ 講義科目のうち国語国文学講義Ⅰ～Ⅹは、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修し修得した単位は、卒業要件単位に算入することはできない。
⑧ 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、規定単位数を超えて修得した場合、16単位を上限に「自由選択」に算入することができる。

4 自由科目

① 自由科目については、授業の特性上、人数制限が行われる。登録方法については、【授業に関すること Ⅴ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
②「自由選択」に算入することができる。

5 進級基準

【2023年度以降入学者】
2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は、3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1．共通科目	WRDⅠ	2単位	計18単位
	WRDⅡ	2単位	
2．学科科目	素読Ⅰ	2単位	
	素読Ⅱ	2単位	
	素読Ⅲ	2単位	
	素読Ⅳ	2単位	
	近代文入門	2単位	
	国文学史総合講座 国語史概説Ⅰ・Ⅱ 漢文学概説Ⅰ・Ⅱ	左の授業科目群から 4単位	

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**26単位以上**修得していなければ、各年次の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

【2022年度以前入学者】

① **2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。**この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は、3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1．共通科目	WRD Ⅰ	2単位	計12単位
	WRD Ⅱ	2単位	
2．学科科目	素読 Ⅰ	2単位	
	素読 Ⅱ	2単位	
	素読 Ⅲ	2単位	
	素読 Ⅳ	2単位	

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**26単位以上**修得していなければ、各年次の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

② **3年次から4年次へ進級するためには、3年次終了までに、次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。**この基準に満たない者は3年次原級とし、原級者は4年次に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1．必修　ゼミナール（3）	4単位	計36単位
2．選択　会読科目のうち4科目	8単位	
3．卒業に必要な単位	24単位	（前項①の単位［12単位］は含まない）

6 ゼミナール

ゼミナールは、おおむね時代別、主題別に編成され、古代、中古、中世、近世、近代、国語学、漢文学の7つの分野からなる。ゼミナールの主な目的は、卒業論文制作に備え、研究法の修得、文学史的基礎知識の学習、解釈・考証・調査等の手続きを学ぶことにあるので、学生は卒業論文のテーマにふさわしい指導を受けられるゼミナールを選ぶこと。テーマによっては、必ずしも各々の時代や分野にとらわれない選択も可能である。**ただし、2年次に志望するゼミナールの分野の会読もしくは講義を1科目以上履修しておくことが望ましい。**

B 英文学科

第19表　英文学科授業科目配当表

授業科目		年次（単位）	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
必修	英語学基礎ゼミナール	(4)	4				4
	英語文学基礎ゼミナール	(4)	4				4
	英語文化基礎ゼミナール	(4)	4				4
	ゼミナール(3)	(4)			4		4
	ゼミナール(4)	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
	必修合計		12		4	12	28
選択	アカデミック・ベイシックス科目	英語学アカデミック・ベイシックスⅠa (2)		12			20
		英語学アカデミック・ベイシックスⅠb (2)					
		英語学アカデミック・ベイシックスⅡa (2)					
		英語学アカデミック・ベイシックスⅡb (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックスⅠa (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックスⅠb (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックスⅡa (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックスⅡb (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックスⅢa (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックスⅢb (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックスⅣa (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックスⅣb (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックスⅤa (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックスⅤb (2)					
		英語文化アカデミック・ベイシックスⅠa (2)					
		英語文化アカデミック・ベイシックスⅠb (2)					
		英語文化アカデミック・ベイシックスⅡa (2)					
		英語文化アカデミック・ベイシックスⅡb (2)					
		英語文化アカデミック・ベイシックスⅢa (2)					
		英語文化アカデミック・ベイシックスⅢb (2)					
	アカデミック・プラクティス科目	英語学アカデミック・プラクティスⅠa (2)			8		
		英語学アカデミック・プラクティスⅠb (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティスⅠa (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティスⅠb (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティスⅡa (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティスⅡb (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティスⅢa (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティスⅢb (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティスⅣa (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティスⅣb (2)					
		英語文化アカデミック・プラクティスⅠa (2)					
		英語文化アカデミック・プラクティスⅠb (2)					
		英語文化アカデミック・プラクティスⅡa (2)					
		英語文化アカデミック・プラクティスⅡb (2)					
		英語文化アカデミック・プラクティスⅢa (2)					
		英語文化アカデミック・プラクティスⅢb (2)					
	クリエイティヴ・プラクティス科目	英語学クリエイティヴ・プラクティスA (2)		4			4
		英語学クリエイティヴ・プラクティスB (2)					
		英語文学クリエイティヴ・プラクティスA (2)					
		英語文学クリエイティヴ・プラクティスB (2)					
		英語文化クリエイティヴ・プラクティスA (2)					
		英語文化クリエイティヴ・プラクティスB (2)					
	一般講義科目	英語学概論	(4)		4		4
		英語文学史	(4)				
	特殊講義科目	英語学特殊講義A	(2)			4	4
		英語学特殊講義B	(2)				
		英語文学特殊講義A	(2)				
		英語文学特殊講義B	(2)				
		英語文化特殊講義A	(2)				
		英語文化特殊講義B	(2)				
自由	英語コミュニケーションⅠ		(2)		〔6〕		
	英語コミュニケーションⅡ		(2)				
	英語コミュニケーションⅢa		(1)				
	英語コミュニケーションⅢb		(1)				
	選択・自由合計						32
総計							60

注）本年度休講科目は「文芸学部　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 履修科目登録上限単位数

① 各年次において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
② 授業期間外（春季休業期間中または夏季休業期間中）に実施される授業科目の単位は、「履修科目登録上限単位数」に算入されない。
※ 今年度対象：国際交流科目群「海外短期語学研修」区分およびスポーツ・ウエルネス実技科目群「集中コース」に含まれる授業科目
③ キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群のうち、卒業要件として認められない科目は、前年度（1年次生は前期）のGPAが2.5以上の成績優秀者と認められた場合、特例措置として、各年次において①の単位数を3単位まで超えて履修することが認められる場合がある。
なお、本特例措置の適用を受けた者については、学部より履修指導およびフォローアップ面接の場が設けられる。
※ 教職課程、学芸員課程における特例措置概要については、該当ページを参照すること。
※ 本措置と、教職課程、学芸員課程における特例措置の複数の適用を受けた場合、超過可能単位数は積算できない。

2 必修科目

① 1年次では次の3科目が必修である。
- 英語学基礎ゼミナール
- 英語文学基礎ゼミナール
- 英語文化基礎ゼミナール

上記3科目は、英文学科1年次生のみクラス分けを行う。指定クラスは、LiveCampusUの履修登録画面で各自確認すること。
② ゼミナールは、3･4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。
③「ゼミナール（4）」および「卒業論文」を履修するには、「ゼミナール（3）」を修得していることが条件となる。

3 選択科目

① アカデミック・ベイシックス科目の履修について
2年次では12単位を上限として履修すること。
② 選択科目は年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
③ アカデミック・ベイシックス科目、アカデミック・プラクティス科目、クリエイティヴ・プラクティス科目については、授業の特性上、人数制限が行われる。登録方法は、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
④ 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、規定単位数を超えて単位を修得した場合、16単位を上限に「自由選択」に算入することができる。

4 自由科目

①「自由選択」に算入することができる。
② 教員免許の取得を希望する者は、この6単位を必修とする。教員免許の取得に係る教職課程の履修については【教職課程】をよく読むこと。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1．共通科目	WRDⅠ		2単位
	WRDⅡ		2単位
	英語		6単位
2．学科科目	必修	英語学基礎ゼミナール	4単位
		英語文学基礎ゼミナール	4単位
		英語文化基礎ゼミナール	4単位
		計	22単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**28単位以上**修得していなければ、各年次の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

6 ゼミナール

ゼミナールは、おおまかに分けると英語学、英語文学、英語文化の三本柱で構成されている。それぞれの分野は、時代･主題別にさらに細かく多岐に分かれている。ゼミナールにおいては、卒業論文の完成にむけての指導が行われるが、その指導法はゼミナール担当者によって異なる。各ゼミナールの定員は年度により多少の増減はあるが、原則として10名。希望者数が定員を超えた場合、TOEICのスコア等を用いて選考が行われる。

7 TOEIC

本学科では、下記学生にTOEICを義務付けている。

〈対象学生と受験回数〉

① 英文学科を主専攻とする者：1年次から3年次の各年次で年2回ずつ、3年次終了までに最低6回受験すること※。

② 英文学科を副専攻とする者：3年次終了時までに最低4回受験すること※。

※ ただし、英文学科を主専攻あるいは副専攻とする者がTOEIC 730点以上を取得した場合、残りの受験回数は免除となる。

〈実施日〉

TOEIC IPテスト(※)は、年2回（7月・12月）学内で実施される。

※ TOEIC IPテストとは、団体で受験できるTOEICテストのことである。TOEIC IPテストとTOEIC®公開テストには受験料、申込方法、開催時期等の違いがある。

〈諸注意〉

- 各自が受験回数を常に把握すること。
- 止むを得ずTOEIC IPテストを受験できない者は、学外で年に10回開催されるTOEIC®公開テストを受験し、そのスコアのコピーを共用研究室（3号館3階）に提出すること、もしくは所定のオンライン提出フォームでスコアのコピーを提出することにより、受験回数にカウントされる。
- 自身の英語の上達度合いを把握するため、またTOEICのスコアはゼミ選考等で重要な資料となるため、所定の回数を必ず受験すること。

※ TOEICに関する質問は文芸学部共用研究室に確認すること。

8 外国語科目（英語）の履修について

① 必修である英語「中級総合」（飛び級の場合、「上級」）4単位のうち、「中級」〈Academic Writing〉（飛び級の場合、「上級」〈Academic Writing〉）を少なくとも1単位分履修し、単位を修得することが望ましい。

②「英語科教育法」受講者は、3年次終了までに、「上級」〈Academic Writing〉を履修し、単位を修得することが望ましい。

9　早期卒業制度

英文学科3年次生で、下記の応募資格および卒業資格の認定基準を満たした者には、3年次終了時に大学の卒業資格が与えられる。

〈応募資格〉

① 4月1日時点で大学に2年間以上在籍し、現在3年次に在学し、修得した卒業要件となる全科目の中で「優」以上の成績が2年次終了時に全体の80%以上であること。また、卒業要件単位126単位中84単位以上修得していること。
なお、休学期間は在籍年数に含めない。

② 3年次終了時までに卒業に必要な単位を修得見込であること。
なお、「ゼミナール（4)」および「卒業論文」は以下のように取扱う。

- 「ゼミナール（4)」（4単位）
  「ゼミナール（4)」は、早期卒業制度申請者用のものを履修すること。
- 「卒業論文」（8単位）
  3年次の12月に「卒業論文」を提出すること（「卒業論文」の提出要領は、4年次の提出要領に従う)。

〈出願手続〉

手続き日程は巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
なお、「早期卒業制度申請書」は、教授会で審議の上、正式に受理される。

〈卒業資格の認定基準〉

① 3年次終了時までに卒業に必要な単位を修得し、その修得した全科目の中で「優」以上の成績が全体の80%以上であること。

② 3年次に「卒業論文」を提出していること。

〈合格発表〉

「早期卒業制度」合格者は、教授会の審議の上決定し、3月上旬に、掲示等にて発表する。

※ 本制度を申請した者が、本制度に基づく履修の継続を希望しない場合は、後期開講日までに取り消しを願い出ることができる。その場合は、取り消しの理由を明確にし、「早期卒業制度辞退願」（A4判、書式自由）を教務部に速やかに提出すること。

C 芸術学科

第20表　芸術学科授業科目配当表

授業科目		年次（単位）	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
必修	美学・芸術学入門a	(2)	2				2
	美学・芸術学入門b	(2)	2				2
	美術史入門a	(2)	2				2
	美術史入門b	(2)	2				2
	芸術学基礎演習	(2)	2				2
	美術史基礎演習	(2)	2				2
	芸術学・美術史実習a	(1)		1			1
	芸術学・美術史実習b	(1)		1			1
	ゼミナール	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
	必修合計		12	2		12	26
選択 演習科目	原典演習a	(2)		12			12
	原典演習b	(2)					
	同時代芸術演習a	(2)					
	同時代芸術演習b	(2)					
	美学演習a	(2)					
	美学演習b	(2)					
	音楽学演習a	(2)					
	音楽学演習b	(2)					
	演劇学演習a	(2)					
	演劇学演習b	(2)					
	映画学演習a	(2)					
	映画学演習b	(2)					
	日本美術史演習a	(2)					
	日本美術史演習b	(2)					
	東洋美術史演習a	(2)					
	東洋美術史演習b	(2)					
	西洋美術史演習Ⅰa	(2)					
	西洋美術史演習Ⅰb	(2)					
	西洋美術史演習Ⅱa	(2)					
	西洋美術史演習Ⅱb	(2)					
選択 講義科目	美学一般講義a	(2)		16			16
	美学一般講義b	(2)					
	音楽学一般講義a	(2)					
	音楽学一般講義b	(2)					
	演劇学一般講義a	(2)					
	演劇学一般講義b	(2)					
	映画学一般講義a	(2)					
	映画学一般講義b	(2)					
	日本美術史一般講義a	(2)					
	日本美術史一般講義b	(2)					
	東洋美術史一般講義a	(2)					
	東洋美術史一般講義b	(2)					
	西洋美術史一般講義Ⅰa	(2)					
	西洋美術史一般講義Ⅰb	(2)					
	西洋美術史一般講義Ⅱa	(2)					
	西洋美術史一般講義Ⅱb	(2)					
選択 特殊講義科目	美学特殊講義Ⅰ	(2)		4			4
	美学特殊講義Ⅱ	(2)					
	芸術学特殊講義Ⅰ	(2)					
	芸術学特殊講義Ⅱ	(2)					
	芸術学特殊講義Ⅲ	(2)					
	芸術学特殊講義Ⅳ	(2)					
	芸術学特殊講義Ⅴ	(2)					
	美術史特殊講義Ⅰ	(2)					
	美術史特殊講義Ⅱ	(2)					
	美術史特殊講義Ⅲ	(2)					
	美術史特殊講義Ⅳ	(2)					
	美術史特殊講義Ⅴ	(2)					
	選択合計						32
総計							58

注）本年度休講科目は「文芸学部　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

芸術学科は、美学・芸術学および美術史を総合的に学び、さらに各専門分野に分かれて研究するカリキュラムを立てているので、受講科目の選択に当たっては一つの分野にかたよらず、幅広く学修することが望ましい。

1 履修科目登録上限単位数

① 各年次において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
② 授業期間外（春季休業期間中または夏季休業期間中）に実施される授業科目の単位は、「履修科目登録上限単位数」に算入されない。
※ 今年度対象：国際交流科目群「海外短期語学研修」区分およびスポーツ・ウエルネス実技科目群「集中コース」に含まれる授業科目
③ キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群のうち、卒業要件として認められない科目は、前年度（1年次生は前期）のGPAが2.5以上の成績優秀者と認められた場合、特例措置として、各年次において①の単位数を3単位まで超えて履修することが認められる場合がある。
なお、本特例措置の適用を受けた者については、学部より履修指導およびフォローアップ面接の場が設けられる。
※ 学芸員課程における特例措置概要については、該当ページを参照すること。
※ 本措置と、学芸員課程における特例措置の複数の適用を受けた場合、超過可能単位数は積算できない。

2 必修科目

①「芸術学基礎演習」および「美術史基礎演習」は、芸術学科1年次生のみクラス分けを行う。指定クラスは、LiveCampusUの履修登録画面で各自確認すること。
② 2年次の必修授業「芸術学・美術史実習」では京都奈良研修旅行ほか見学の実費が別途必要となる。

3 選択科目

① 演習科目および特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
② 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、規定単位数を超えて修得した場合、16単位を上限に「自由選択」に算入することができる。

4 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1．共通科目	
WRDⅠ	2単位
WRDⅡ	2単位
2．学科科目	
必修	
美学・芸術学入門a	2単位
美学・芸術学入門b	2単位
美術史入門a	2単位
美術史入門b	2単位
芸術学基礎演習	2単位
美術史基礎演習	2単位
計	16単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**26単位以上**修得していなければ、各年次の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

5 ゼミナール

ゼミナールは、美学、音楽学、演劇学、映画学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史Ⅰ、西洋美術史Ⅱの8つに分かれ、主として卒業論文の個別的な指導が行われる。

D 文化史学科

第21表　文化史学科授業科目配当表

授業科目		年次（単位）	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
必修	ゼミナール(3)	(4)			4		4
	ゼミナール(4)	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
	必修合計				4	12	16
選択	概論科目	文化史概論Ⅰa (2)	4				4
		文化史概論Ⅰb (2)					
		文化史概論Ⅱa (2)					
		文化史概論Ⅱb (2)					
		文化史概論Ⅲa (2)					
		文化史概論Ⅲb (2)					
	演習科目	文化史基礎演習Ⅰ (4)	8				8
		文化史基礎演習Ⅱ (4)					
		文化史基礎演習Ⅲ (4)					
		文化史演習Ⅰa (2)		4	4		8
		文化史演習Ⅰb (2)					
		文化史演習Ⅱa (2)					
		文化史演習Ⅱb (2)					
		文化史演習Ⅲa (2)					
		文化史演習Ⅲb (2)					
		文化史演習Ⅳa (2)					
		文化史演習Ⅳb (2)					
		文化史演習Ⅴa (2)					
		文化史演習Ⅴb (2)					
		文化史演習Ⅵa (2)					
		文化史演習Ⅵb (2)					
	実習科目	文化史実習Ⅰ (2)		2			2
		文化史実習Ⅱ (2)					
		文化史実習Ⅲ (2)					
	講義科目	文化史特殊講義Ⅰa (2)		12	12		24
		文化史特殊講義Ⅰb (2)					
		文化史特殊講義Ⅱa (2)					
		文化史特殊講義Ⅱb (2)					
		文化史特殊講義Ⅲa (2)					
		文化史特殊講義Ⅲb (2)					
		文化史特殊講義Ⅳa (2)					
		文化史特殊講義Ⅳb (2)					
		歴史学特殊講義Ⅰa (2)					
		歴史学特殊講義Ⅰb (2)					
		歴史学特殊講義Ⅱa (2)					
		歴史学特殊講義Ⅱb (2)					
		歴史学特殊講義Ⅲa (2)					
		歴史学特殊講義Ⅲb (2)					
		民俗学特殊講義Ⅰa (2)					
		民俗学特殊講義Ⅰb (2)					
		民俗学特殊講義Ⅱa (2)					
		民俗学特殊講義Ⅱb (2)					
		民俗学特殊講義Ⅲa (2)					
		民俗学特殊講義Ⅲb (2)					
		文化人類学特殊講義Ⅰa (2)					
		文化人類学特殊講義Ⅰb (2)					
		文化人類学特殊講義Ⅱa (2)					
		文化人類学特殊講義Ⅱb (2)					
		文化人類学特殊講義Ⅲa (2)					
		文化人類学特殊講義Ⅲb (2)					
自由	日本文化史a	(2)		〔8〕			
	日本文化史b	(2)					
	東洋文化史a	(2)					
	東洋文化史b	(2)					
	西洋文化史a	(2)					
	西洋文化史b	(2)					
	日本史概説a	(2)					
	日本史概説b	(2)					
	人文地理学a	(2)					
	人文地理学b	(2)					
	地理学講義a	(2)					
	地理学講義b	(2)					
	地誌学a	(2)					
	地誌学b	(2)					
	考古学a	(2)					
	考古学b	(2)					
教職関連随意科目	政治学原論(2年)	(4)	卒業要件単位とは認められず、余剰単位の取扱いとなる。				–
	国際関係論(2年)	(4)					
	経済原論(3年)	(4)					
	憲法(2年)	(4)					
	外国史概説A(2年)	(2)					
	外国史概説B(2年)	(2)					
	国際法(3・4年)	(4)					
	選択・自由・随意合計						46
総計							62

注1）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。
注2）本年度休講科目は「文芸学部　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 履修科目登録上限単位数

① 各年次において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
② 授業期間外（春季休業期間中または夏季休業期間中）に実施される授業科目の単位は、「履修科目登録上限単位数」に算入されない。
※ 今年度対象：国際交流科目群「海外短期語学研修」区分およびスポーツ・ウエルネス実技科目群「集中コース」に含まれる授業科目
③ キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群のうち、卒業要件として認められない科目は、前年度（1年次生は前期）のGPAが2.5以上の成績優秀者と認められた場合、特例措置として、各年次において①の単位数を3単位まで超えて履修することが認められる場合がある。
なお、本特例措置の適用を受けた者については、学部より履修指導およびフォローアップ面接の場が設けられる。
※ 教職課程、学芸員課程における特例措置概要については、該当ページを参照すること。
※ 本措置と、教職課程、学芸員課程における特例措置の複数の適用を受けた場合、超過可能単位数は積算できない。

2 必修科目

① ゼミナールは、3･4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。
②「ゼミナール（4）」および「卒業論文」を履修するには、「ゼミナール（3）」を修得していることが条件となる。

3 選択科目

① 2年次および3年次で、演習科目はそれぞれ4単位、講義科目はそれぞれ12単位以上履修すること。また、これらの科目は、a（前期）・b（後期）を続けて履修することが望ましい。
② 基礎演習科目を除く演習科目および講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
③ 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、規定単位数を超えて修得した場合、16単位を上限に「自由選択」に算入することができる。
④「文化史実習」は、実習地への交通費や、現地滞在をともなう実習では宿泊費などの実費がかかる場合がある。

4 自由科目

① 8単位を上限に「自由選択」に算入することができる。また、これらの科目は、a（前期）・b（後期）を続けて履修することが望ましい。なお、上限は他学科生にも適用される。
② 下記教科の教員免許の取得を希望する者は、次に示す授業科目が必修となる。
社　会　科…日本史概説a・b、地理学講義a・b、地誌学a・b
地理歴史科…日本史概説a・b、地理学講義a・b、地誌学a・b、人文地理学a・b

5 教職関連随意科目

教職関連随意科目は、教職課程を登録した者が「『教科に関する専門的事項』に該当する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者、また他学科の学生もそれぞれ随意科目としてこれらの科目を履修することができる。
ただし、教職課程登録の如何を問わず、また学科を問わず、修得した単位は卒業要件単位としては認められない（余剰単位の取扱いとなる）。
なお、教員免許の取得に係る教職課程の履修については【教職課程】を参照すること。
また、教職関連随意科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については、【教職課程 Ⅱ 教職課程科目の履修 6 履修科目登録上限単位数の特例措置】を参照すること。

6 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1．共通科目	WRDⅠ	2単位
	WRDⅡ	2単位
2．学科科目	文化史概論Ⅰa・b～Ⅲa・b　のうち	4単位
	文化史基礎演習Ⅰ～Ⅲ　のうち	8単位
	計	16単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**30単位以上**修得していなければ、各年次の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

7 ゼミナール

どのゼミナールを選択するかは、ひとえに学生諸君の学問的関心による。本学科のゼミナールの構成は歴史学、民俗学、文化人類学とバラエティに富んでいる。2年次に、ゼミナールを選択するためのガイダンスが開催されるので、ゼミナールの選択に際しては、それぞれの担当者の専門領域等を確認して決めること。

E マスコミュニケーション学科

第22表　マスコミュニケーション学科授業科目配当表

授業科目			年次（単位）	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
必修		マスコミデータ解析実習Ⅰ	(2)	2				2
		マスコミデータ解析実習Ⅱ	(2)	2				2
		マスコミ基礎演習Ⅰ	(2)		2			2
		マスコミ基礎演習Ⅱ	(2)		2			2
		マスコミ演習a	(2)			2		2
		マスコミ演習b	(2)			2		2
		ゼミナール	(4)				4	4
		卒業論文	(8)				8	8
	必修合計			4	4	4	12	24
選択	実習科目	マスコミ実習Ⅰ	(1)			2		2
		マスコミ実習Ⅱ	(1)					
		マスコミ実習Ⅲ	(1)					
		マスコミ実習Ⅳ	(1)					
		マスコミ実習Ⅴ	(2)					
		マスコミ実習Ⅵ	(2)					
	講義科目 Ⅰ群	マスコミ原論	(2)	10				10
		マスコミ史	(2)					
		ジャーナリズム論	(2)					
		リスクコミュニケーション論	(2)					
		社会心理学	(2)					
		広告心理学	(2)					
		マスコミ研究法	(2)					
	講義科目 Ⅱ群	マスコミ講義Ⅰ	(2)			26		26
		マスコミ講義Ⅱ	(2)					
		マスコミ講義Ⅲ	(2)					
		マスコミ講義Ⅳ	(2)					
		マスコミ講義Ⅴ	(2)					
		マスコミ講義Ⅵ	(2)					
		マスコミ講義Ⅶ	(2)					
		マスコミ講義Ⅷ	(2)					
		マスコミ講義Ⅸ	(2)					
		コミュニケーション講義Ⅰ	(2)					
		コミュニケーション講義Ⅱ	(2)					
		コミュニケーション講義Ⅲ	(2)					
		コミュニケーション講義Ⅳ	(2)					
		コミュニケーション講義Ⅴ	(2)					
		コミュニケーション講義Ⅵ	(2)					
		コミュニケーション講義Ⅶ	(2)					
		コミュニケーション講義Ⅷ	(2)					
		コミュニケーション講義Ⅸ	(2)					
		マスコミ特殊講義Ⅰ	(2)					
		マスコミ特殊講義Ⅱ	(2)					
		マスコミ特殊講義Ⅲ	(2)					
		マスコミ特殊講義Ⅳ	(2)					
		マスコミ特殊講義Ⅴ	(2)					
		マスコミ特殊講義Ⅵ	(2)					
自由		映像コミュニケーション	(2)			〔2〕		
	選択・自由合計							38
総計								62

注）本年度休講科目は「文芸学部　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 履修科目登録上限単位数

① 各年次において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
② 授業期間外（春季休業期間中または夏季休業期間中）に実施される授業科目の単位は、「履修科目登録上限単位数」に算入されない。
※ 今年度対象：国際交流科目群「海外短期語学研修」区分およびスポーツ・ウエルネス実技科目群「集中コース」に含まれる授業科目
③ キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群のうち、卒業要件として認められない科目は、前年度（1年次生は前期）のGPAが2.5以上の成績優秀者と認められた場合、特例措置として、各年次において①の単位数を3単位まで超えて履修することが認められる場合がある。
なお、本特例措置の適用を受けた者については、学部より履修指導およびフォローアップ面接の場が設けられる。
※ 学芸員課程における特例措置概要については、該当ページを参照すること。
※ 本措置と、学芸員課程における特例措置の複数の適用を受けた場合、超過可能単位数は積算できない。

2 必修科目

①「マスコミデータ解析実習Ⅰ・Ⅱ」は、いずれも講義と実習からなる週2回の授業である。Ⅰ・Ⅱとも実習は、クラスを分けて開講する。
なお、マスコミュニケーション学科の学生（再履修者含む）のみ事前登録を行う。指定クラスは、LiveCampusUの履修登録画面で各自確認すること。他学科の学生が履修を希望する場合は、履修登録期間内に【履修科目登録・訂正申請書】を教務部まで提出すること。
②「マスコミ基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「マスコミ演習a・b」および「ゼミナール」はそれぞれ履修前年度の後期に小論文を提出し、それをもとに学科で所属を決定する。小論文の枚数・締切期日等は別途掲示する。

3 選択科目

① 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、規定単位数を超えて修得した場合、16単位を上限に「自由選択」に算入することができる。
②「マスコミ実習」については、「Ⅰ～Ⅵ」のうち最低2単位を修得しなければならない。なお、使用機材等の関係上、人数制限が行われる。登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
③「マスコミ実習Ⅴ」および「マスコミ実習Ⅵ」をマスコミュニケーション学科以外の学生が履修する場合は、「マスコミデータ解析実習Ⅰ・Ⅱ」を修得していることが条件となる。詳しくは当該科目のシラバスを参照のこと。
④ 講義科目のうち、講義科目Ⅰ群の規定単位数を超えて修得した単位は、講義科目Ⅱ群に算入することができる。
⑤ **講義科目のうち特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。**

4 自由科目

① **「自由選択」に算入することができる。**
②「映像コミュニケーション」は、授業の特性上、人数制限が行われる。登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1．共通科目	WRDⅠ	2単位
	WRDⅡ	2単位
2．学科科目	マスコミデータ解析実習Ⅰ	2単位
	マスコミデータ解析実習Ⅱ	2単位
3．上記8単位の他、卒業要件単位に算入される単位		32単位
	計	40単位

6 ゼミナール履修条件 【2023年度以降入学者】

ゼミナールを履修するには、下記の単位を修得していなければならない。

マスコミ基礎演習Ⅰ	2単位
マスコミ基礎演習Ⅱ	2単位
マスコミ演習aまたはマスコミ演習b	2単位
計	6単位

F ヨーロッパ文化学科

第23表　ヨーロッパ文化学科授業科目配当表

授業科目			年次（単位）	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
必修		ヨーロッパの文化	(4)	4				4
		ヨーロッパ文化実習Ⅰ	(1)	1				1
		ヨーロッパ文化実習Ⅱa	(1)		1			1
		ヨーロッパ文化実習Ⅱb	(1)		1			1
		独（仏）文法実習a	(1)		1			1
		独（仏）文法実習b	(1)		1			1
		ゼミナール(3)	(4)			4		4
		ゼミナール(4)	(4)				4	4
		卒業論文	(8)				8	8
	必修合計			5	4	4	12	25
選択	演習科目	言語学演習a	(2)			16		16
		言語学演習b	(2)					
		ヨーロッパの思想演習Ⅰa（独）	(2)					
		ヨーロッパの思想演習Ⅰb（独）	(2)					
		ヨーロッパの思想演習Ⅱa（仏）	(2)					
		ヨーロッパの思想演習Ⅱb（仏）	(2)					
		ヨーロッパの歴史演習Ⅰa（独）	(2)					
		ヨーロッパの歴史演習Ⅰb（独）	(2)					
		ヨーロッパの歴史演習Ⅱa（仏）	(2)					
		ヨーロッパの歴史演習Ⅱb（仏）	(2)					
		独語独文学演習a	(2)					
		独語独文学演習b	(2)					
		比較文化演習a	(2)					
		比較文化演習b	(2)					
		現代ドイツ事情演習a	(2)					
		現代ドイツ事情演習b	(2)					
		仏語仏文学演習a	(2)					
		仏語仏文学演習b	(2)					
		現代フランス事情演習a	(2)					
		現代フランス事情演習b	(2)					
		広域芸術論演習a	(2)					
		広域芸術論演習b	(2)					
	実習科目	独語コミュニケーションⅠ	(2)		4			4
		独語コミュニケーションⅡ	(2)					
		独語コミュニケーションⅢ	(2)					
		独語コミュニケーションⅣ	(2)					
		仏語コミュニケーションⅠ	(2)					
		仏語コミュニケーションⅡ	(2)					
		仏語コミュニケーションⅢ	(2)					
		仏語コミュニケーションⅣ	(2)					
	講義科目	ヨーロッパの思想講義Ⅰ（独）	(2)	4				4
		ヨーロッパの思想講義Ⅱ（仏）	(2)					
		ヨーロッパの歴史講義Ⅰ（独）	(2)					
		ヨーロッパの歴史講義Ⅱ（仏）	(2)					
		ヨーロッパの文学講義Ⅰ（独）	(2)					
		ヨーロッパの文学講義Ⅱ（仏）	(2)					
		広域芸術論講義	(2)					
	特殊講義科目	ヨーロッパの文化特殊講義a	(2)			8		8
		ヨーロッパの文化特殊講義b	(2)					
		西洋古典特殊講義a	(2)					
		西洋古典特殊講義b	(2)					
		言語学特殊講義Ⅰ（独）	(2)					
		言語学特殊講義Ⅱ（仏）	(2)					
		ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ（独）	(2)					
		ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ（仏）	(2)					
		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）	(2)					
		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ（仏）	(2)					
		ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ（独）	(2)					
		ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ（仏）	(2)					
		広域芸術論特殊講義	(2)					
自由		哲学講義a	(2)		〔8〕			
		哲学講義b	(2)					
		宗教学講義a	(2)					
		宗教学講義b	(2)					
		倫理学講義a	(2)					
		倫理学講義b	(2)					
		哲学史特殊講義a	(2)					
		哲学史特殊講義b	(2)					
	選択・自由合計							32
総計								57

注）本年度休講科目は「文芸学部　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 履修科目登録上限単位数

① 各年次において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。

※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
また、2年次前期に「独語（中級総合）」または「仏語（中級総合）」を履修する者は、後期に「独語（中級総合）」（2単位）または「仏語（中級総合）」（2単位）を履修できるよう、前期履修登録時に履修可能な単位数を47単位に設定してある。

② 授業期間外（春季休業期間中または夏季休業期間中）に実施される授業科目の単位は、「履修科目登録上限単位数」に算入されない。

※ 今年度対象：国際交流科目群「海外短期語学研修」区分およびスポーツ・ウエルネス実技科目群「集中コース」に含まれる授業科目

③ キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群のうち、卒業要件として認められない科目は、前年度（1年次生は前期）のGPAが2.5以上の成績優秀者と認められた場合、特例措置として、各年次において①の単位数を3単位まで超えて履修することが認められる場合がある。
なお、本特例措置の適用を受けた者については、学部より履修指導およびフォローアップ面接の場が設けられる。

※ 教職課程、学芸員課程における特例措置概要については、該当ページを参照すること。

※ 本措置と、教職課程、学芸員課程における特例措置の複数の適用を受けた場合、超過可能単位数は積算できない。

2 必修科目

①「ヨーロッパ文化実習Ⅰ」はヨーロッパ文化学科1年次生のみ、「ヨーロッパ文化実習Ⅱa・b」はヨーロッパ文化学科2年次生のみクラス分けを行う。指定クラスは、LiveCampusUの履修登録画面で各自確認すること。

②「独（仏）文法実習a・b」は学科科目としての単位であり、外国語科目の単位ではないが、学部共通外国語で履修している外国語と同一の外国語の文法実習を履修することになっており、ヨーロッパ文化学科生はクラス分けを行う。指定クラスは、LiveCampusUの履修登録画面で各自確認すること。

③ 1年次に独（仏）語を中級Ⅰ以上のグレードからスタートした者（既修者）は、1年次で2年次配当の「独（仏）文法実習a・b」と「独（仏）語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修することができる。

④ ゼミナールは、3･4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。

3 選択科目

① **選択科目の反復履修について**
演習科目および特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。

② 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、規定単位数を超えて修得した場合、16単位を上限に「自由選択」に算入することができる。

③ 実習科目については、授業の特性上、人数制限が行われる。登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

④ 2020年度をもって、「広域芸術論演習Ⅰa・Ⅰb」および「広域芸術論演習Ⅱa・Ⅱb」は廃講となった。修得済みの単位は、卒業要件単位に算入される。

⑤ 2021年度に、「広域芸術論演習a・b」が新設された。2020年度までに「広域芸術論演習Ⅰa・Ⅰb」および「広域芸術論演習Ⅱa・Ⅱb」の単位修得をしている場合でも、履修および卒業要件単位への算入が認められる。

⑥ 2021年度に「広域芸術論講義」および「広域芸術論特殊講義」が新設された。

⑦ 2022年度をもって、「ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa・Ⅰb（独）」および「ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa・Ⅱb（仏）」は廃講となった。修得済みの単位は、卒業要件単位に算入される。

⑧ 2023年度に「言語学特殊講義Ⅰ（独）」および「言語学特殊講義Ⅱ（仏）」が新設された。2022年度までに、「ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa・Ⅰb（独）」および「ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa・Ⅱb（仏）」の単位修得をしている場合でも、履修および卒業要件単位への算入が認められる。

⑨ 2024年度に「ヨーロッパの文化特殊講義a・b」が新設された。

⑩ 2023年度をもって、「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa・Ⅰb（独）」および「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa・Ⅱb（仏）」は廃講となった。修得済みの単位は、卒業要件単位に算入される。

⑪ 2024年度に「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）・Ⅱ（仏）」が新設された。2023年度までに、「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa・Ⅰb（独）」および「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa・Ⅱb（仏）」の単位修得をしている場合でも、履修および卒業要件単位への算入が認められる。

4 自由科目

8単位を上限に「自由選択」に算入することができる。なお、上限は他学科生にも適用される。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1．共通科目	
WRD Ⅰ	2単位
WRD Ⅱ	2単位
2．学科科目	
必修	
ヨーロッパの文化	4単位
ヨーロッパ文化実習Ⅰ	1単位
計	9単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**26単位以上**修得していなければ、各年次の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

6 演習科目履修基準

演習科目を履修するには、進級基準を満たすことの他に、さらに下記の単位を修得していなければならない。この基準に満たない者は、3年次前期には原則としていかなる演習科目も履修することはできないが、3年次前期の成績確定により基準を満たした場合、後期には3科目6単位まで履修してもよい。なお、基準を満たしていない場合においても、4年次には演習科目8科目16単位を履修してもよい。（ただし、この基準は、ヨーロッパ文化学科の学生および副専攻としてヨーロッパ文化学科を選択する学生にのみ適用される）。
なお、他学科の学生で演習科目の履修を希望する者は、履修登録期間内に【履修科目登録・訂正申請書】を教務部まで提出すること。

学部共通外国語（独語または仏語）（初級＝6単位）、中級総合（中級Ⅰ＝2単位）	8単位
1、2年次配当の「講義科目」	4単位
計	12単位

※ 独語または仏語を中級Ⅰ以上のグレードから開始した者は、自らの開始グレード以上の独語または仏語を8単位修得していなければならない。

7 2年次における演習科目の特別履修

学部共通外国語（独語または仏語）を中級Ⅰまたは上級のグレードから開始した者は、**1年次に下記の科目の全てを修得した場合**、2年次からヨーロッパ文化学科の演習科目を履修することができる（履修を希望する者は、履修登録期間内に【履修科目登録・訂正申請書】を教務部まで提出すること）。

WRD Ⅰ	2単位
WRD Ⅱ	2単位
独語または仏語	6単位
ヨーロッパの文化	4単位
ヨーロッパ文化実習Ⅰ	1単位
1、2年次配当の「講義科目」	4単位
計	19単位

8 ゼミナール履修条件

ゼミナール（4）を履修するには、下記の単位を全て修得していなければならない。

（独語または仏語）	初級	6単位
	中級Ⅰ（中級総合）	2単位
	中級Ⅱ（中級総合）	2単位
（独語または仏語）	コミュニケーションⅠ～Ⅳのうち	2単位
独または仏文法実習a・b		2単位
ヨーロッパ文化実習Ⅱa・Ⅱb		2単位
ゼミナール（3）		4単位
	計	20単位

※ 独語または仏語を中級Ⅰ以上のグレードから開始した者は、独語または仏語を10単位修得していなければならない。

9 ゼミナール

本学科ではドイツ・フランス語圏の文学、思想・哲学、歴史、芸術、言語学、文化事情、現代社会事情、またそれらの源泉となっているギリシャ・ローマの古典文化にいたるまで、広汎な研究領域に関わるゼミナールを開講している。ゼミナールへの配属は、2年次後期提出の登録申込書に記入してもらう各自の研究関心・研究主題に基づいて、学科で決定する。
これに関しては、毎年度後期にゼミナール登録のためのガイダンス（通例は「ヨーロッパ文化実習Ⅱ」の授業を利用して行う）を開講するので、翌年度に3年次ゼミナールを履修する学生は、掲示に注意し、必ず出席すること。

Ⅲ-3 文芸学部共通ゼミナール

文芸学部では、文芸学部共通ゼミナール（以下、共通ゼミナールと表記）を開設する。
共通ゼミナールとは、文芸学部の各学科に所属する教員以外の教員が担当し、文芸学部の4年次生向けに開設されたゼミナールのことである。
卒業論文を執筆する学生は、所属学科のゼミナールを履修して担当教員の指導を受けることが原則であるが、卒業論文のテーマが所属学科のゼミナールよりも共通ゼミナールの方がふさわしいと本人が判断した場合、4年次に共通ゼミナールの履修を希望することができる。共通ゼミナールの履修の可否は、希望するゼミナールの担当教員との面接後に決定・通知される。
なお、卒業論文の執筆概要、スケジュール、審査の基準等は、所属学科に従うものとする。卒業は3年次の所属学科となる。
共通ゼミナールの履修を希望する場合の手続き等については、10月にLiveCampusUでも周知するが、概略は以下のとおりである。

＜共通ゼミナール履修希望の申し出期限＞
3年次　1月末

＜申し出先＞
国文学科、英文学科、文化史学科、ヨーロッパ文化学科に所属する学生：履修中の3年次ゼミナール担当教員
芸術学科、マスコミュニケーション学科に所属する学生：所属学科の学科主任（文芸学部共用研究室にて確認のこと）

＜手続き＞
① LiveCampusUによる案内を確認の上、上記申し出先の教員に期限までに希望を伝える。
② 共通ゼミナール教員との面接日程を決定し、面接を受ける。
③ 共通ゼミナールの履修が認められた場合は、文芸学部共用研究室にて仮登録申請書を受け取り、必要事項を記入の上、提出する。

※ 履修が認められた場合の履修登録は、翌年度の４月に教務部が行うので、各自LiveCampusUの履修登録画面で確認すること。

全学共通教育科目

Ⅰ 全学共通教育の理念 …… 88

Ⅱ 全学共通教育科目における
各種プログラム認定・修了要件 …… 91

Ⅰ 全学共通教育の理念

成城大学は、個性を尊重し、創造力に富む感性豊かな学生を育成するという建学の理念を掲げてきた。これらの理念に今日的な意味を与え、良質な教育を供給し、学生諸君の自主的活動の促進をはかるために、学部毎の専門科目と併行して、教養教育を中心とした全学共通教育カリキュラムを導入している。全学共通教育の具体的な教育目標は以下のとおりである。

（1）多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる
（2）批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う
（3）主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う
上記の理念に基づき、以下A～Fの科目群を開設している。各学部カリキュラムの位置づけは、以下の通り。

学　　部	分　　野
経済	自由設計科目
文芸	共通科目
法	基礎部門
社会イノベーション	総合教養科目、学部共通科目または一般共通科目

A リテラシー科目群

リテラシー科目群は、全学共通教育の理念に基づき、大学における学習および社会生活において必要なコミュニケーションをとる能力を身につけるための科目群である。具体的には、大学における様々な学習の基礎となる知識の理解力、創造的な思考力、的確な判断力を培うための科目、国際化する社会の中で、国際的なレベルでのコミュニケーションに対応する能力を養うための科目、高度情報社会の中で、情報を的確に処理し、主体的に情報を創造し発信する能力を身につけるための科目などによって構成されている。なお、リテラシー科目群は、以下のとおり３つの分野に分かれる。

1 WRD

高等学校までの勉学は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉学は自分で問題の所在を明らかにし、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。
「WRD」（ワードと読む）とは、「Write書く、Read読む、Debate議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近は、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。
WRD科目の開設科目は、p.51に示されている。

2 外国語科目

外国語科目は、学生の国際的コミュニケーション能力を高めるために、各学部設置の外国語科目に加えて設置されるものである。
大学入学以前に既習の英語については、聴く・話す・読む・書くの技能向上を目指すクラス、卒業後に必要となるビジネス英語を集中的に学ぶクラス、多読による読解力養成を目的とするクラスがある。
その他の外国語は、初歩文法を学ぶクラスから、高度なコミュニケーション能力を養成するクラスまで段階を追ったクラス編成となっている。ディプロム・コースは各外国語の資格認定試験突破を目標に授業が展開される。
外国語科目の開設科目は、p.64 **第13表**およびp.65 **第14表**に示されている。

3 IT科目

IT科目は、主としてパソコンを用いて、様々なデータを処理する手法とその応用を学ぶ科目である。基礎的なパソコンの操作方法はもちろん、全学共通教育の理念に基づいて、パソコンを用いてコミュニケーション能力（情報受信発信能力）やプレゼンテーション能力（表現能力）を身につけることを目的とする。
具体的には、ワープロソフトを用いた文書作成方法や、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを活用した情報収集と整理など、パソコンの基本的な活用の手法を学ぶ科目、その応用科目として、パソコンを用いて統計学的なデータ処理を行う手法を学ぶ科目、パソコンを用いて画像や映像を加工・編集したり、ウェブページを制作することを通じて、情報

の整理や表現の手法を学ぶ科目が設置されている。
また、「図書館活用法」では、近年の情報を巡る環境や情報媒体の変化に対応した図書館利用リテラシー能力の修得を目指す。
IT科目の開設科目は、p.57 **第5表**に示されている。

B 教養科目群

教養科目群は、「現代社会において生活を営む市民として必要な教養を身につける」ことを目標に設置される。近年、学問は専門という名のもとに細分化しており、これらを統括的に捉える眼を養うために、現代社会の多様なあり方を積極的に学び、思考訓練をすることはきわめて重要である。現代における「教養」を志向するのが成城大学の教養科目群である。

1 総合科目

総合科目は、特定の主題に関する諸現象を、学際的・総合的に分析・把握する能力を養うとともに、教養科目・専門科目を問わず、学習の動機づけを行う講義である。コーディネーターである教員が、学生の自発的な学習を支援するよう、講義の方向づけを行う。
総合科目の開設科目は、p.52 **第2表**に示されている。

2 成城学

成城学は、成城学園に関するもの、成城という地域の歴史や地理に関するもの、成城の民俗誌に関するもの、成城の自然（史・誌）に関する内容で構成される。成城学には、講義形式を中心とするものと、学生参加型の授業形式のもの（成城フィールド・スタディー）とがある。
成城学の開設科目は、p.52 **第2表**に示されている。

3 系列科目

系列科目は、８つの学問分野による分類の下に、各分野を概観し基礎知識を提供する「基幹科目」と各分野の最新の話題や特殊事項の研究を志向する「展開科目」から構成されており、各科目間は重層構造を持っている。学問分野という視点、時間（歴史）と空間（地域）という視点や、関心のある主題という視点など、受講生の様々な関心や興味に合わせた組み合わせで受講することによって、幅広い教養の獲得だけにとどまらず、所属学部の専門的研究を補う広い視野を確保できるよう工夫がなされている。また、教養科目群のコンセプトである現代における「教養」を志向すべく、現代に特化した内容を中心とした科目が配置されている。
系列科目の開設科目は、p.52～53 **第2表**に示されている。

《系列の概要》

系列名	概要
現代社会論系列	複雑化する現代社会の事象に目を向け、それらの諸相を解析する能力を身につける新しい学問領域の科目で構成される。
社会構造論系列	政治や経済など、社会の構成と機能を理解する上で、必要な学問の枠組みを学ぶ科目で構成される。
思想・人間論系列	人間のあり方・世界のあり方について、先人がどのような問いをたて、どのような解を得てきたか、彼らの思考の筋道を辿り、現代人の新たな考察への手がかりを得られる科目で構成される。
表現文化論系列	人間生活の根幹をなす多種多様な表現の基底にある歴史的背景・生活環境を視野に入れ、さらに現代における複雑化した表現の諸相を考察する科目で構成される。
歴史文化論系列	過去と対話することによって、現代に至る人間の営みを照射し、受講生が歴史を自ずから再構成する方法を身につけることができる科目で構成される。
地域空間論系列	国際化する社会を理解するための方法や、地理的空間を科学的に考えるための知識と、世界各地域の社会や文化の諸相について学ぶ科目によって構成される。
数理・自然科学系列	科学技術文明を生きる者として数理の感覚を身につける科目、自然や社会、芸術に隠された数学的秩序を探る科目、さらに、現代科学技術文明を形成する科学の方法・発展過程をあとづけ、その功罪を考察する科目と、身近な現象・自然環境を科学的視点からとらえる科目で構成される。
心身論系列	人間の身体機能や精神構造、さらに人間相互のかかわりを理解するための知識と、心身の健康を維持するための知識を学ぶ科目で構成される。

C キャリアデザイン科目群

キャリアデザイン科目群は基本コンセプトを「働く×学ぶ×貢献する×生きる」とし、学生は自らのライフ・キャリア（≒人生）を創造していく。全16科目は「自己と他者」、「他者と社会」、「現場と体験」、「仕事と社会」、「人生の役割」に分類され、学生は講義・演習・実習を通してアクティブに学びあう。開設科目は、p.66 **第16表**に示されている。
Seijo Career Programのサーティフィケートの認定要件については、p.91 **第1表**に示されている。なお、**成城大学就業力育成・認定プログラムのディプロマ（2024年度以前入学者対象）の認定要件については、過年度分の履修の手引を確認すること。**

D 国際交流科目群

国際交流科目群は、グローバル化の進む社会への対応力を身につけるための科目群である。「留学対策科目」では、留学時に必要とされるレベルの英語の基礎技能（IELTS等試験対策を含む）を、「英語等による地域研究科目」では、世界の地域事情について、「英語等による日本事情関係科目」では、日本の政治・経済・社会・文化等について、「英語等による特定のテーマを扱った科目」では、グローバルな話題性のあるテーマについて、それぞれ英語で留学生と共に学ぶことができる。特に、就学中に留学・海外就業体験を希望する者は、*「成城国際教育プログラム（SIEP）」に参加し準備することが推奨される。
*詳細・登録方法等については、年度初めに実施される説明会に参加するほか、国際センターに直接問い合わせること。
国際交流科目群の開設科目は、p.54 **第3表**に示されている。
成城国際教育プログラム（SIEP）の修了要件については、p.92 **第2表**に示されている。

E データサイエンス科目群

商品開発、マーケティング、サービス産業における集客力の向上などのビジネスのみならず、医療、災害への危機管理など様々な領域で、発生・収集したデータを理解し、それを有効に活用できる人材が求められている。データサイエンス科目群は、ビッグデータなどの多種多様な情報を効果的に活用するための知識と技能を学習する科目群である。学習する内容は、文理融合的で実践的・実務的なものとなっており、履修者は、この科目群を系統的に学ぶことで、さらに視野を広げ、卒業後どのような分野に進んでも活かせるデータ分析力を身につけることができる。
データサイエンス科目群の開設科目は、p.55 **第4表**に示されている。
データサイエンス基礎力育成・認定プログラムのディプロマ取得要件については、p.92 **第3表**に示されている。

F スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は全学共通教育科目として位置づけ、以下の教育目標の下に設置されるものである。
（1）「ウエルネス」とは、身体的健康、精神的健康、そして他者や自然との良好な関係を築くという意味での社会的健康からなる新しい健康概念である。この科目では「ウエルネス」へのアプローチとして、身体的、精神的健康状態を維持・増進するために必要な科学的知識の理解を深めるとともに、様々なスポーツや運動などの身体活動、身体表現を通して自己や他者や自然と向き合い、また共に生きていくための能力を養う。
（2）グローバルな文化現象であるスポーツの成り立ち、歴史、現代的意味や社会的価値について様々な理論的知識を学ぶ。また、実際にスポーツ・運動を実践しながら、他者や自然との良好なコミュニケーションに必要な知識、スキルを獲得する。
（3）運動やスポーツを主体的に楽しみ、生涯にわたって豊かな「スポーツライフ」と「ウエルネスライフ」をマネジメントするための基盤を形成する。

1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目

スポーツ・ウエルネス講義・演習科目とは、講義、スポーツや身体運動、身体表現の実践、健康状態を知るための測定などを融合した演習形式での授業である。「スポーツ・スタディーズ」では、スポーツ文化やスポーツ社会に関する多様な学問的知識を獲得していく。「ウエルネス・スタディーズ」では、基礎的な健康科学の諸理論を学ぶ。「身体表現・スタディーズ」では、スポーツや武道、ダンスを身体を媒体とした表現行為として学ぶ。
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の開設科目は、p.53 **第2表**に示されている。

2 スポーツ・ウエルネス実技科目

スポーツ・ウエルネス実技科目とは、実際にスポーツや運動の実践をとおして、身体的・精神的な健康の維持・増進を図る授業である。スポーツや運動の基礎的なスキル、方法、ルール、マナーを学びながら、スポーツの楽しさにふれ、人間の営為にとって欠かすことのできないアナログな身体コミュニケーションの重要性を理解し、年次、学部、年齢、ジェンダー、国籍を超えたクラス編成の中で、他者との友好的な関係を作るための本質的なスキルを獲得し、共生社会の一員となるための基礎的な姿勢を身につけることができる。また、生涯にわたって豊かなスポーツ文化を享受するための知識、スキル、方法を獲得することができる。
スポーツ・ウエルネス実技科目の開設科目は、p.57 **第6表**に示されている。

Ⅱ 全学共通教育科目における各種プログラム認定・修了要件

全学共通教育科目のうち、キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群では、各科目群の理念（p.90）に基づいて系統的な学びを促すとともに、独自の認定・修了要件を設けたプログラムを用意している。プログラム登録等の詳細については、各センターにて４月に開催するガイダンスに出席するか、直接問い合わせること。また、以下の科目の中には**卒業要件に含まれない科目もある**ため、主体的に中長期的な履修計画を立て、修得を進めていくことが肝要である。

第１表　Seijo Career Program（SCP）

サーティフィケート ベーシック 取得要件	サーティフィケート アドバンス 取得要件	授　業　科　目	配当年次	単位
２単位以上	２単位以上	キャリア・ベーシックⅠ	１～４	２
		キャリア・ベーシックⅡ	１～４	２
		キャリア・ベーシックⅢ	１～４	２
２単位以上	２単位以上	キャリア・プラクティスⅠ	１～４	２
		キャリア・プラクティスⅡ	１～４	２
		キャリア・プラクティスⅢ	１～４	２
		キャリア・プラクティスⅣ	１～４	２
		キャリア・プラクティスⅤ	１～４	２
		キャリア・プラクティスⅥ	１～４	２
		キャリア・エクスペリエンス	１～４	２
	２単位以上	ワーク・キャリアⅠ	２～４	２
		ワーク・キャリアⅡ	２～４	２
		ワーク・キャリアⅢ	２～４	２
	２単位以上	ライフ・キャリアⅠ	２～４	２
		ライフ・キャリアⅡ	２～４	２
		ライフ・キャリアⅢ	２～４	２

注１）2025年度にプログラムが一新された。（「成城大学就業力育成・認定プログラム」については過年度の履修の手引を確認すること。）

注２）2024年度以前に以下の旧授業科目の単位を修得している場合、「Seijo Career Program」においてのみ新授業科目の単位として認定する。また、「成城大学就業力育成・認定プログラム」においても新授業科目の単位を修得した場合、対応する旧授業科目の単位を修得したものとして認定する。詳細はキャリアセンターに確認すること。

旧授業科目	新授業科目
キャリア形成Ⅰ	キャリア・ベーシックⅠ
キャリア形成Ⅱ	キャリア・ベーシックⅡ
キャリア形成Ⅳ	キャリア・プラクティスⅣ
プロジェクト演習	キャリア・プラクティスⅠ
	キャリア・プラクティスⅢ

注３）キャリアセンターでは、Seijo Career Programを補完し、さらに学びを深めるための「正課外プログラム」を用意しているので、積極的な受講が望まれる（ただし正課外プログラムの開講状況については適宜キャリアセンターに確認すること）。

第２表　成城国際教育プログラム（SIEP）

修了要件	科目区分・授業科目	配当年次
コア科目（必須）	留学準備演習	1～4
選択科目（8単位以上）	留学対策科目〔Academic Skills〕	1～4/ 2～4
	英語等による地域研究科目：Area Studies〔European Studies, North American Studies, Asian Studies〕	1～4
	英語等による日本事情関係科目〔Japan Studies〕	1～4
	英語等による特定のテーマを扱った科目〔Special Topics〕	1～4
	海外短期語学研修（春季/夏季）	（春季）＊（注1）
		（夏季）1～4
	キャリア・エクスペリエンス（注2）	1～4
	成城インターンシップ（注2）	1～4
	OCA（注2）	社2～4

注１）配当年次＊印の科目は、１～３年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位が授与される。
注２）海外実施プログラムのみ対象

第３表　データサイエンス基礎力育成・認定プログラム【2022年度以降入学者用】

	リテラシーレベル・ディプロマ取得要件	応用基礎ディプロマ取得要件	アドバンスド・ディプロマ取得要件	授業科目	配当年次	単位
リテラシー科目	○	○	○	データサイエンス概論	1～4	2
	○	○	○	データサイエンス基礎	1～4	2
応用基礎科目		○	○	データアナリティクス基礎	2～4	2
		○	○	機械学習基礎	2～4	2
アドバンスド科目			この中から２科目４単位選択必修（注1）	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2
				データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2～4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅰ	2～4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅱ	2～4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅲ	2～4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅳ	2～4	2

注１）アドバンスド・ディプロマの取得希望者は「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」から１科目以上を修得することが望ましい。
注２）2022～2023年度入学者のみ、上記指定科目以外の一部の科目についてディプロマ取得要件に算入する制度がある。詳細は、データサイエンス教育研究センターに確認すること。

第３表　データサイエンス基礎力育成・認定プログラム【2021年度以前入学者用】

	DS基礎力ディプロマ取得要件	EMSディプロマ取得要件	授業科目	配当年次	単位
基礎科目	○	○	データサイエンス概論	1～4	2
	○	○	データサイエンス基礎（旧：データサイエンス入門Ⅰ）	1～4	2
	○	○	データアナリティクス基礎（旧：データサイエンス入門Ⅱ）	2～4	2
		○	データアナリティクス応用（旧：データサイエンス応用）	2～4	2
発展科目	○	○	機械学習基礎（旧：データサイエンス・スキルアップ・プログラム）	2～4	2
		○	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2

注）2021年度から、上記指定科目以外の一部の科目についてディプロマ取得要件に算入する制度が導入された。詳細は、データサイエンス教育研究センターに確認すること。

教職課程

Ⅰ 教職課程 …… 94
1）本学教職課程の理念
2）本学で取得できる免許の種類と教科
3）免許取得の条件

Ⅱ 教職課程科目の履修 …… 97
A. 科目番号（科目ナンバリング） …… 97
B.「教科及び教職に関する科目」の履修 …… 98
1）「教科及び教職に関する科目」の単位修得方法
2）免許法に規定する科目と本学開設の授業科目
3）「教科及び教職に関する科目」と配当年次
4）履修上の注意
5）教育実習および教職実践演習を履修するための条件
6）履修科目登録上限単位数の特例措置
C.「教科に関する専門的事項」に該当する科目の履修 …… 101
1）「教科に関する専門的事項」に該当する科目の単位修得方法

Ⅲ 教職課程の説明会・ガイダンス …… 105
1）教職課程ガイダンス（1年次）
2）教職課程登録説明会（1年次）
3）教育実習校開拓ガイダンス（2年次）
4）教育実習事前ガイダンス（3年次）
5）教育実習直前ガイダンス（4年次）
6）介護等体験

Ⅳ 教育職員免許状の申請等 …… 106
A. 教育職員免許状取得見込証明書の発行 …… 106
B. 教育職員免許状の申請手続・免許状の交付 …… 106

Ⅰ 教職課程

1 本学教職課程の理念

本学では、成城学園創立の精神に則り個性の暢達を主眼として広く専門の学芸を研究教授し、広角の視野と高度の教養を具え、かつ、豊かな個性を持つ社会の先導者を育成すると共に、文化の発展に貢献することを目的としている。
個性尊重の基本理念に基づき、各学科では少人数制教育により学生の学びをサポートしているが、教職課程においては教科に関する専門知識に加え、教育に対する理論的・実践的・歴史的理解を深めることで、教育者としての視点を獲得し、さらには使命感を持って教育の現場で実践的に指導し得る教員の育成を目指している。
成城学園は、幼稚園から大学院までをワンキャンパスに擁する総合学園であり、学園（成城小学校）創立時（1917年）の４つの希望理想「個性尊重の教育」、「自然と親しむ教育」、「心情の教育」、「科学的研究を基とする教育」と、旧制七年制高等学校開設時（1926年）に掲げられた「真善美」の教育理念は、全学園に一貫して受け継がれ、実践されている。
本学の教職課程においては、学園各学校間のネットワークを活かし、同じ理念の下、それをまさに日々実践している成城学園中学校高等学校の現役教員による指導を取り入れることで、教員を目指す学生が、教育の現場の感覚を吸収し、実践力を養うだけでなく、学園創立者澤柳政太郎が理想として掲げた「成城教育」を自らの理想としても受容し、継承していくことを期待している。

2 本学で取得できる免許の種類と教科

本学では教育職員免許取得希望者のために、教職課程を開設している。この課程において取得できる免許の種類と教科は**第１表**のとおりである。

第１表　本学で取得できる免許の種類と教科

学　部	学　科	中学校教諭一種免許	高等学校教諭一種免許
文芸学部	国文学科	国語	国語
	※英文学科	英語	英語
	文化史学科	社会	地理歴史 公民
	ヨーロッパ文化学科	ドイツ語 フランス語	ドイツ語 フランス語
経済学部	経済学科	社会	地理歴史 公民
	経営学科	社会	地理歴史 公民
法学部	法律学科	社会	地理歴史 公民

※早期卒業を希望する場合は、３年間で教員免許取得に必要な単位を修得することはできない。教員免許を取得するには、卒業後、科目等履修制度などを利用し、必要単位を充足しなければならない。詳細については、教務部に相談すること。

第２表　入学から免許状取得まで（モデルケース）

※下記科目の他に、「教科に関する科目」および「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」又は「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」にあたる本学開設科目を早期に修得すること。

学年	時期	教職課程全般	介護等体験	教育実習	教職に関する科目
1年次	4月	★教職課程ガイダンス資料を確認（WebClassにて資料掲載） 対象：教職課程登録希望者			**教育原論Ⅰ・Ⅱ（必修）**（各2単位） **教師論（必修）**（2単位） **教育史（必修）**（2単位）
	9月	★特例措置申請（Googleフォーム）			
	10月		★介護等体験登録説明会 対象：中学校免許状取得希望者		
	3月	★教職課程登録説明会 対象：教職課程登録希望者 （課程登録費￥33,000）	★介護等体験次年度参加意向調査（Googleフォーム） 対象：登録者で、次年度体験実施予定者		

学年	時期	教職課程全般	介護等体験	教育実習	教職に関する科目
2年次	4～7月		★介護等体験事前ガイダンス 対象：前年度登録者で、当年度体験実施予定者 ★介護等体験直前ガイダンス 対象：前年度登録者で、当年度体験実施予定者		**教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）**（必修）（2単位） **特別活動の指導法（総合的な学習の時間の指導法を含む）**（必修）（2単位） **特別支援教育概論**（必修）（2単位） **教科教育法A**（必修）（2単位または4単位） **教育心理学**（2単位） **青年心理学**（2単位） いずれか1科目選択必修
	8月～		介護等体験 特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の計7日間		
	12月			★教育実習校開拓ガイダンス 対象：各学部2年生の課程登録者 4年次での教育実習の受入可否を出身校に各自で確認する	
	1～3月			教育実習校の開拓	
3年次	4月			教育実習準備 各教科教育法により模擬授業を経験し、その他来年度の教育実習に備えて事前準備をする	**教科教育法B**（必修）（4単位） 道徳教育の指導法（必修）（2単位） 生徒指導論（教育相談、進路指導及びキャリア教育を含む）（必修）（4単位）
	12月			★教育実習事前ガイダンス 各学部3年生で、4年次に教育実習に行くにあたっての諸注意・準備等を説明する	
4年次	4月			★教育実習直前ガイダンス 対象：各学部4年生で、当年度教育実習予定者 教育実習に向けての事前指導、事務手続き・実習校への持参書類等の説明をする	教職実践演習（必修）（2単位） 教育実習（高）（3単位） 教育実習（中・高）（5単位） いずれか1科目選択必修 ※教育実習および教職実践演習を履修するためには、前年度終了までに上記**太字科目**に合格し、**計20単位（教科教育法A・B　4単位を含む）**を修得している必要がある。
	5月～			教育実習（各自日程が異なる） 前年度依頼した実習校での教育実習（2週間から4週間）	
	11月	教職免許状授与申請手続き 対象：各学部4年生で、免許状授与希望者 （申請料1科目￥3,300）			
	3月23日	免許状授与 規定の単位数を取得した後、学位記授与式（卒業式）当日に教務部にて授与			

★は説明会およびガイダンス、事前指導等　（必修）

3　免許取得の条件

中学校・高等学校教諭の免許を取得するためには、以下の事柄が必要である。

① 基礎資格として学士の学位を有すること（学部を卒業すること）。
② 「教科及び教職に関する科目」（p.98以降参照）の本学での最低必要単位数を充足させること。
③ 「教科及び教職に関する科目」以外に必要な科目（**第３表**）の本学での最低必要単位数を充足させること。なお、当該科目については早期修得が望ましい。

第３表　教科及び教職に関する科目以外に必要な科目と単位数

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目・最低修得単位数		本学開設の授業科目	本学での最低必要単位数
科　　目	単位数		
日本国憲法	2	法学（含む日本国憲法）a 法学（含む日本国憲法）b	4
体　　育	2	スポーツ・ウエルネス実技科目	2
外国語 コミュニケーション	2	英語リスニング＆スピーキング（初級）a・b 英語リスニング＆スピーキング（中級）a・b 英語リスニング＆スピーキング（上級）a・b 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 独語コミュニケーションⅠ 独語コミュニケーションⅡ 独語コミュニケーションⅢ 独語コミュニケーションⅣ 仏語コミュニケーションⅠ 仏語コミュニケーションⅡ 仏語コミュニケーションⅢ 仏語コミュニケーションⅣ	2
情報機器の操作	「情報機器の操作」又は「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」いずれか2単位	コンピュータ・リテラシーＡ１ コンピュータ・リテラシーＡ２ コンピュータ・リテラシーＢ コンピュータ・リテラシーＣ コンピュータ・リテラシーＤ コンピュータ・リテラシーＥ	「情報機器の操作」又は「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」いずれか2単位
数理、データ活用及び人工知能に関する科目		データサイエンス概論 データサイエンス基礎	

※2022年度より、「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」が追加された。
当該科目は2022年度以降に単位修得したものが対象となる。

④ 中学校免許取得希望者は特別支援学校で２日間、社会福祉施設で５日間、合計７日間の介護等体験を行わなければならない（高等学校免許には不要。ただし、教職に就くためには、中学校・高等学校両方の免許を取得することが望ましい）。

Ⅱ 教職課程科目の履修

A 科目番号（科目ナンバリング）

［例］「教育史」

QTT _ B 1 0 _ 1 _ 1 1 0 1

①教育課程　②分野・区分・領域　③配当年次　④科目の位置づけ　⑤科目の性質　⑥識別番号

教職課程の専門科目に該当し、教育職員免許法施行規則の第３欄教育の基礎的理解に関する科目のうち教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に対応する科目であること、１年次から履修することができ、必修科目であり、免許教科に関わらず共通の科目であることを意味している。なお、他の分野・区分・領域等については以下分類表を参照のこと。
※教科に関する専門的事項に該当する科目（書道を除く）については、各学科の科目番号（科目ナンバリング）を参照のこと。

①教育課程

Ｑ Ｔ Ｔ	教職課程

②分野・区分・領域

分野		区分		領域	
A	教科及び教科の指導法に関する科目	1	教科に関する専門事項のうち「書道」のみ	0	－
		2	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	0	－
B	教育の基礎的理解に関する科目	1	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	0	－
		2	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	0	－
		3	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	0	－
		4	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	0	－
		5	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	0	－
		6	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	0	－
C	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	1	道徳の理論及び指導法	0	－
		2	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	0	－
		3	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	0	－
		4	生徒指導の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	0	－
D	教育実践に関する科目	1	教育実習	0	－
		2	教職実践演習	0	－

＊領域の分類が存在しない科目群については、０を便宜上付している。

③配当年次

1	１年次から履修できる科目
2	２年次から履修できる科目
3	３年次から履修できる科目
4	４年次から履修できる科目

④科目の位置づけ

1	必修科目
2	選択必修科目

⑤科目の性質

1	免許教科共通科目
2	免許教科特定科目

⑥識別番号

各科目に適宜固有の番号を割り当てている。特段の意味を有しない。

B 「教科及び教職に関する科目」の履修

1 「教科及び教職に関する科目」の単位修得方法

免許法に規定する中学校、高等学校教諭の免許の授与を受ける場合の「教科及び教職に関する科目」の単位の修得方法は、教育職員免許法施行規則により定められている。
これに対応する本学開設の授業科目は**第４表**のとおりである。

2 免許法に規定する科目と本学開設の授業科目

第４表　免許法に規定する科目と本学開設の授業科目

	教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			本学開設の授業科目
	教科及び教職に関する科目	左項の各科目に含めることが必要な科目	修得単位数	授業科目名
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	• 教科に関する専門的事項	ー	該当ページ参照
		• 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中８ 高４	教科教育法
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育史
		• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教師論
		• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）
		• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学
				青年心理学
		• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論
		• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳の理論及び指導法	中10 高８	道徳教育の指導法
		• 総合的な学習の時間の指導法 • 特別活動の指導法		特別活動の指導法（総合的な学習の時間の指導法を含む）
		• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）
		• 生徒指導の理論及び方法 • 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒指導論（教育相談、進路指導及びキャリア教育を含む）
第五欄	教育実践に関する科目	• 教育実習	中５ 高３	教育実習（中・高） 教育実習（高）
		• 教職実践演習	２	教職実践演習（中・高）

3 「教科及び教職に関する科目」と配当年次

第５表 「教科及び教職に関する科目」と配当年次

	授業科目	配当年次	単位	備考
必修	教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）	1	2	
	教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）	1	2	
	教育史	1	2	
	教師論	1	2	
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	2	2	
	特別活動の指導法（総合的な学習の時間の指導法を含む）	2	2	
	特別支援教育概論	2	2	
	教科教育法Ａ	2	4	
	教科教育法Ｂ	3	4	
	生徒指導論（教育相談、進路指導及びキャリア教育を含む）	3	4	
	道徳教育の指導法	3	2	
	教職実践演習（中・高）	4	2	
選択必修	教育心理学	2	2	いずれか１科目必修
	青年心理学	2	2	
	教育実習（高）	4	3	いずれか１科目必修
	教育実習（中・高）	4	5	

上記のほか「教科に関する専門的事項」に該当する科目がある。p.101以降参照のこと

4 履修上の注意

①「教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）」および「教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）」は、半期で同時に履修しても、どちらから先に履修しても、また、異なる担当者の科目を履修しても構わない。

② **第５表**に掲げる科目（「教育原論Ⅰ」・「教育原論Ⅱ」・「教育史」・「教師論」を除く）を履修するには、教職課程登録が必要となる。登録者は、配当年次に従い履修すること。これにより、**第６表**の「教育実習および教職実践演習を履修するための条件」も充足される。なお、「教科及び教職に関する科目」の修得単位は、「教科に関する専門的事項」に該当する科目の一部を除き卒業および進級に必要な単位数に算入することはできない。

③「教科教育法」は、取得を希望する免許ごとに履修しなければならない。

④「社会科・地理歴史科教育法Ａ・Ｂ」、「社会科・公民科教育法Ａ・Ｂ」、「道徳教育の指導法」、「生徒指導論（教育相談、進路指導及びキャリア教育を含む）」、「教職実践演習」は２コマずつ開講するが、履修登録の際は学科指定があるので注意すること。

⑤「教育実習」は、２・３年次で修得した教科教育法と同一教科の実習を履修すること。
なお、本学部で履修できる各教科教育法と教育実習の種類は下記のとおりである。

国　　語：国語科教育法Ａ・Ｂ、　国語科教育実習（国文学科のみ）
英　　語：英語科教育法Ａ・Ｂ、　英語科教育実習（英文学科のみ）
ドイツ語：独語科教育法Ａ・Ｂ、　独語科教育実習（ヨーロッパ文化学科のみ）
フランス語：仏語科教育法Ａ・Ｂ、　仏語科教育実習（ヨーロッパ文化学科のみ）
社　　会：社会科・地理歴史科教育法Ａ、
　　社会科・公民科教育法Ａ
　　社会科・地理歴史科教育法Ｂ
　　もしくは社会科・公民科教育法Ｂ
公　　民：社会科・公民科教育法Ａ、
　　社会科・公民科教育法Ｂ
地理歴史：社会科・地理歴史科教育法Ａ、
　　社会科・地理歴史科教育法Ｂ
社会系教育実習（文化史学科のみ）

⑥「教科に関する専門的事項」に該当する科目については、免許の校種や教科により、必修・選択必修の別、および、修得すべき単位数が異なる。詳細はp.101以降を参照のこと。

⑦ 以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

変更年度	新授業科目	旧授業科目
2023年度	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	教育方法学

5 教育実習および教職実践演習を履修するための条件

４年次で「教育実習」および「教職実践演習」を履修するためには、３年次終了までに**第６表**の「教育実習」および「教職実践演習」を履修するための条件に定める科目の単位を修得していなければならない。
なお、この条件を満たさないと、４年次に教育実習を行うことができず、４年間で教育職員免許状を取得することができなくなるので注意すること。
また、「教職実践演習」は、「教育実習」を履修する年度よりも前に履修することはできない。

第６表　「教育実習」および「教職実践演習」を履修するための条件

①教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）（２単位）	②教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）（２単位）
③教師論（２単位）	④教育史（２単位）
⑤特別活動の指導法（２単位）	
⑥教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）（２単位）	
⑦教育心理学または青年心理学（２単位）	⑧特別支援教育概論（２単位）
⑨教科教育法ＡまたはＢ（４単位）	計20単位

6 履修科目登録上限単位数の特例措置

「教科及び教職に関する科目」のうち卒業要件とならない科目は、下記のとおり年次ごとに定められている履修科目登録超過可能単位数まで、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定 Ⅲ - 2 学科科目履修方法　各学科の１履修科目登録上限単位数】を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
なお、超過する単位数が不適正であり、是正の指示があった場合はそれに従うこと。

【2022年度以降入学者】

- １年次に、教職課程ガイダンスに出席してその内容を修得したのち、所定の申請手続を行うとともに、**１年次前期末GPAが2.5以上の学生は**、「教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）」、「教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）」、「教育史」、「教師論」の８単位について、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
- ２年次以降に、教職課程に登録している学生のうち、直近の年度GPAが2.5以上の場合、他の授業科目と合わせて76単位を上限として、履修科目登録上限単位数を超えて、「教科及び教職に関する科目」のうち卒業要件とならない科目を履修登録することができる。
- ２年次以降に特例措置を受けている者のうち、前期末GPAが2.5未満の学生については、改善を促す働きかけを教職課程担当教職員より行う。また、直近の年度GPAが2.5未満の学生に対しては教職課程担当教職員が面談を行い、教職課程継続への意思確認を行うとともに、今後の単位修得状況改善計画書を提出させ、その内容について教職課程担当教職員にて検討を行い、妥当と判断された場合に特例措置の適用を認める。

【2021年度以前入学者】

- １年次に、教職課程ガイダンスに出席してその内容を修得したのち、所定の申請手続を行った学生は、「教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）」、「教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）」、「教育史」、「教師論」の８単位について、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
- ２年次以降に、教職課程に登録している学生は、他の授業科目と合わせて76単位を上限として、履修科目登録上限単位数を超えて、「教科及び教職に関する科目」のうち卒業要件とならない科目を履修登録することができる。

C 「教科に関する専門的事項」に該当する科目の履修

1 「教科に関する専門的事項」に該当する科目の単位修得方法

免許法施行規則に定められた「教科及び教職に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」に該当する科目の単位修得方法については、**第７表**以降を参照のこと。

第７表 「教科に関する専門的事項」に該当する科目と最低必要単位数（国語）

国 文 学 科

系列	免許法による規定		配当年次				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1 年	2 年	3 年	4 年		
1	国 語 学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	1以上	○国語史概説Ⅰ ○国語史概説Ⅱ	○国語国文学講義Ⅰ ○国語国文学講義Ⅱ			8	全体で26単位
2	国 文 学（国文学史を含む。）	1以上	○素読Ⅰ ○素読Ⅱ ○素読Ⅲ ○素読Ⅳ ○国文学史総合講座	△古文			【中学校】10 【高等学校】12	
3	漢 文 学	1以上		○漢文学概説Ⅰ ○漢文学概説Ⅱ △漢文			【中学校】4 【高等学校】6	
4	書 道（書写を中心とする。）	1以上				○※書道	【中学校のみ】4	

注１）**○印の科目は必修である。**
注２）**△印の科目は、高等学校の免許取得においてのみ必修である。**
注３）※「書道」は中学校の免許取得においてのみ必修であり、また卒業要件単位には加算されない。
注４）網掛けの科目は、一般的包括的内容を含む科目である。

第８表 「教科に関する専門的事項」に該当する科目と最低必要単位数（英語）

英 文 学 科

系列	免許法による規定		配当年次				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1 年	2 年	3 年	4 年		
1	英 語 学	1以上	○英語学基礎ゼミナール	○英語学概論			8	全体で26単位
2	英 語 文 学	1以上	○英語文学基礎ゼミナール	○英語文学史			8	
3	英語コミュニケーション	1以上		○英語コミュニケーションⅠ ○英語コミュニケーションⅡ ○英語コミュニケーションⅢａ ○英語コミュニケーションⅢｂ			6	
4	異文化理解	1以上	○英語文化基礎ゼミナール				4	

注１）**○印の科目は必修である。**
注２）網掛けの科目は、一般的包括的内容を含む科目である。

第９表　「教科に関する専門的事項」に該当する科目と最低必要単位数（社会）

文　化　史　学　科

系列	免許法による規定		配当年次				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	１年	２年	３年	４年		
1	日本史・外国史	１以上	文化史基礎演習Ⅰ	○　日本史概説ａ ○　日本史概説ｂ ○※外国史概説A ○※外国史概説B			8	全体で32単位以上
2	地理学（地誌を含む。）	１以上	文化史基礎演習Ⅱ	○地理学講義ａ ○地理学講義ｂ ○地誌学ａ ○地誌学ｂ 人文地理学ａ 人文地理学ｂ			8	
3	「法律学、政治学」	１以上		○※憲法 ※政治学原論 ※国際関係論	○※国際法		8	
4	「社会学、経済学」	１以上	文化史概論Ⅲａ 文化史概論Ⅲｂ 文化史基礎演習Ⅲ	文化史特殊講義Ⅳａ 文化史特殊講義Ⅳｂ	○※経済原論		4	
5	「哲学、倫理学、宗教学」	１以上		★｛哲学講義ａ 哲学講義ｂ｝ ★｛宗教学講義ａ 宗教学講義ｂ｝ ★｛倫理学講義ａ 倫理学講義ｂ｝			4	

注１）**○印の科目は必修である。また、★印の科目は、同一科目「ａ・ｂ」一組が選択必修である。**
注２）※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には加算されない。
注３）網掛けの科目は、一般的包括的内容を含む科目である。

第10表　「教科に関する専門的事項」に該当する科目と最低必要単位数（地理歴史）

文　化　史　学　科

系列	免許法による規定		配当年次				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	１年	２年	３年	４年		
1	日　本　史	１以上	○文化史基礎演習Ⅰ	○日本史概説ａ ○日本史概説ｂ			8	全体で28単位
2	外　国　史	１以上		○※外国史概説A ○※外国史概説B			4	
3	人文地理学・自然地理学	１以上	○文化史基礎演習Ⅱ	○人文地理学ａ ○人文地理学ｂ ○地理学講義ａ ○地理学講義ｂ			12	
4	地　　誌	１以上		○地誌学ａ ○地誌学ｂ			4	

注１）**○印の科目は必修である。**
注２）※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には加算されない。
注３）網掛けの科目は、一般的包括的内容を含む科目である。

第11表 「教科に関する専門的事項」に該当する科目と最低必要単位数（公民）

文 化 史 学 科

系列	免許法による規定		配当年次				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1 年	2 年	3 年	4 年		
1	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	1以上		○※憲法 ※政治学原論 ※国際関係論	○※国際法		8	全体で28単位以上
2	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	1以上	○文化史概論Ⅲa ○文化史概論Ⅲb ○文化史基礎演習Ⅲ	○文化史特殊講義Ⅳa ○文化史特殊講義Ⅳb	○※経済原論		16	
3	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	1以上		★{哲学講義a / 哲学講義b} ★{宗教学講義a / 宗教学講義b} ★{倫理学講義a / 倫理学講義b}			4	

注1）**○印の科目は必修である。また、★印の科目は、同一科目「a・b」一組が選択必修である。**
注2）※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には加算されない。
注3）網掛けの科目は、一般的包括的内容を含む科目である。

第12表 「教科に関する専門的事項」に該当する科目と最低必要単位数（ドイツ語）

ヨーロッパ文化学科

系列	免許法による規定		配当年次				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1 年	2 年	3 年	4 年		
1	独 語 学	1以上		○独文法実習a ○独文法実習b			2	全体で【中学校】22単位以上【高校】26単位以上（中学校・高等学校双方の免許を希望する場合は26単位以上）
2	独 文 学	1以上			○独語独文学演習a ○独語独文学演習b		4	
3	独語コミュニケーション	1以上		○独語コミュニケーションⅠ ○独語コミュニケーションⅡ ○独語コミュニケーションⅢ ○独語コミュニケーションⅣ			8	
4	異文化理解	1以上			○比較文化演習a ○比較文化演習b ○現代ドイツ事情演習a ○現代ドイツ事情演習b △{ヨーロッパの思想演習Ⅰa / ヨーロッパの思想演習Ⅰb} △{ヨーロッパの歴史演習Ⅰa / ヨーロッパの歴史演習Ⅰb}		【中学校】8 【高等学校】12	

注1）**○印の科目は必修である。また、△印の科目は高等学校の免許取得においてのみ、同一科目「a・b」一組が選択必修である。**
注2）学部共通外国語（独語または仏語）を中級Ⅰまたは上級のグレードから開始した者は、1年次から「独文法実習a・b」、「独語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修できる。
また、2年次から3年次配当の演習科目を履修できる場合がある。詳細は【履修規定 Ⅲ-2 学科科目履修方法 F. ヨーロッパ文化学科】頁（p.82）を参照のこと。
注3）網掛けの科目は、一般的包括的内容を含む科目である。

第13表 「教科に関する専門的事項」に該当する科目と最低必要単位数（フランス語）

ヨーロッパ文化学科

系列	免許法による規定		配当年次				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	仏語学	1以上		○仏文法実習a ○仏文法実習b			2	全体で【中学校】22単位以上【高校】26単位以上（中学校・高等学校双方の免許を希望する場合は26単位以上）
2	仏文学	1以上			○仏語仏文学演習a ○仏語仏文学演習b		4	
3	仏語コミュニケーション	1以上		○仏語コミュニケーションⅠ ○仏語コミュニケーションⅡ ○仏語コミュニケーションⅢ ○仏語コミュニケーションⅣ			8	
4	異文化理解	1以上			○現代フランス事情演習a ○現代フランス事情演習b ○広域芸術論演習a ○広域芸術論演習b △{ヨーロッパの思想演習Ⅱa ヨーロッパの思想演習Ⅱb} △{ヨーロッパの歴史演習Ⅱa ヨーロッパの歴史演習Ⅱb}		【中学校】8 【高等学校】12	

注1）**○印の科目は必修、★印の科目は、同一科目「a・b」一組が選択必修である。**
また、△印の科目は高等学校の免許取得においてのみ、同一科目「a・b」一組が選択必修である。
注2）学部共通外国語（独語または仏語）を中級Ⅰまたは上級のグレードから開始した者は、1年次から「仏文法実習a・b」、「仏語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修できる。
また、2年次から3年次配当の演習科目を履修できる場合がある。詳細は【履修規定Ⅲ-2 学科科目履修方法 F. ヨーロッパ文化学科】頁（p.82）を参照のこと。
注3）2020年度をもって「広域芸術論演習Ⅰa・Ⅰb」および「広域芸術論演習Ⅱa・Ⅱb」は廃講となった。2020年度までに「Ⅰa・Ⅰb」「Ⅱa・Ⅱb」をセットで修得済みの場合は、「広域芸術論演習a・b」を修得したものとみなす。
注4）網掛けの科目は、一般的包括的内容を含む科目である。

Ⅲ 教職課程の説明会・ガイダンス

教職課程に取り組むに当たっては、以下の説明会・ガイダンス等に必ず出席すること。**なお、説明会・ガイダンス等に出席する際は、学生証を必ず持参すること（出席確認を行う）。**
日程の詳細は巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。場所等についてはLiveCampusU等で案内する。

1 教職課程ガイダンス（対象：1年次生）

教職課程の登録は２年次に行われるが、登録を検討している１年次生を対象として、教職課程の概要、１年次に履修できる科目等に関する説明をオンデマンド方式で行う。なお、このガイダンスを受講し、説明された内容を修得することが、１年次において履修登録上限単位数の特別措置を受けるための条件の１つとなる。教育職員免許取得を希望している学生は、必ず受講すること。

2 教職課程登録説明会（対象：１年次生）

教育職員免許の取得を希望する学生は、２年次に進級する直前に開催される教職課程登録説明会に出席し、教職課程の登録手続きを行わなければならない。**この登録手続きを怠ると、教職課程科目の履修ができず、教育職員免許を取得することができない。**

〈教職課程費〉
※ 課程登録に当たっては、教職課程費（33,000円）を所定の期間に納入しなくてはならない。一度納入した教職課程費は、いかなる事情があっても返還しない。また、課程登録後やむを得ず辞退する場合は、すみやかに教務部で辞退の手続きをすること。

3 教育実習校開拓ガイダンス（対象：２年次生）

４年次に教育実習をするためには、学生自ら実習校を開拓しなければならない。そのために２年次後期に出身校等に教育実習の依頼をし、受け入れの可否を確認することとなる。このとき内諾を得た場合は、その旨を大学（教務部）に報告すること。大学より実習校に依頼状を送付し、その返事として実習校から「受入承諾書」が大学宛に届いて、はじめて４年次の実習が可能となる。
また、３年次の４月初旬には、内諾を得た教育実習校と再度連絡をとり、あらためて挨拶をし、書類等必要事項の確認をする。その結果を教務部に報告し、今後の手続きを進めていくこととなる。
４年次に教育実習を希望する者は、必ず出席すること。

4 教育実習事前ガイダンス（対象：3年次生）

一般的に教育実習は、４年次の４～６月に実施することになる（実習校によっては、秋になることもある）。３年次で学習した教科教育法が理論的なアプローチとすれば、教育実習は、文字どおり実践的なアプローチといえよう。教育実習は、通年授業の中で２～４週間、大学を離れて中学校または高等学校という教育現場で行われる授業であり、本学では事前および事後の指導が教科教育法および教育実習担当者により綿密に行われている。
本ガイダンスでは、講師から教育実習への心構えや諸注意について、また、本年度に実習を経験した学生からの体験談・アドバイス等を講演してもらうので、翌年度の教育実習に向けての準備に役立てて欲しい。翌年度に教育実習を予定している者は必ず出席すること。

5 教育実習直前ガイダンス（対象：4年次生）

講師による教育実習全般の諸注意、教育実習日誌の記入方法等についての指導、および教務部から教育実習日程等の連絡、教育実習日誌配付等の事務連絡を行う。本年度の教育実習予定者は、必ず出席すること。

6 介護等体験

「介護等体験特例法」（平成９年法律第90号）および「介護等体験特例法施行規則」（平成９年文部省令第40号）の施行により、中学校教育職員免許の取得を希望する学生は、入学から卒業までの間に社会福祉施設（高齢者福祉施設や生活訓練施設等）で５日間、特別支援学校で２日間、合計７日間介護・介助を行うことが義務付けられている。
これに伴い本学では、下記のとおり説明会・ガイダンスを開催する。

① 介護等体験登録説明会
対　象　翌年度介護等体験希望者

② 介護等体験事前ガイダンス
対　象　前年度登録手続きを済ませて、本年度体験を予定している者

③ 介護等体験直前ガイダンス
対　象　前年度登録手続きを済ませて、本年度体験を予定している者

Ⅳ 教育職員免許状の申請等

A 教育職員免許状取得見込証明書の発行（４年次）

教員採用試験等に必要な標記証明書は、教務部にて発行する。

B 教育職員免許状の申請手続・免許状の交付（４年次）

3月卒業見込みの４年次生は、本学をとおして東京都教育委員会にて教員免許取得に必要な単位数の審査を受けることができる。この審査に合格した者については、学位記授与式（卒業式）当日に免許状が交付される。
免許取得に必要な単位を修得し、3月に卒業確定した者については、LiveCampusUで卒業確定者発表と同時に免許取得者の発表を行う。
本件に関する関連事項の手続きとおおよその日程は下記のとおりである。詳細は、LiveCampusU等にて別途案内する。
なお、この手続きを怠ると個人申請することになるので注意すること。

免許状記載項目等の確認手続（４年次の11月）

また、秋（9月）卒業する学生については、卒業後に個人申請にて免許状を取得する必要がある。そのため、学位記授与日当日に免許状が交付されない。詳しくは教務部教職課程担当に確認すること。

免許取得後における教育職員免許状授与証明書の発行、免許状の書き換え、再交付等の申請は、免許状授与権者である東京都教育委員会に各人が行うこと。問い合わせ先は、下記のとおりである。

東京都教育庁人事部選考課 免許担当
〒163-8001　新宿区西新宿2 - 8 - 1　第二本庁舎14階
TEL：03-5320-6788　メールアドレス：S9000017@section.metro.tokyo.jp

学芸員課程

Ⅰ 学芸員資格 …… 108
1）博物館と学芸員
2）学芸員資格取得の条件
3）学芸員資格証明書の交付

Ⅱ 学芸員課程の説明会・ガイダンス …… 109
1）学芸員課程登録説明会（1年次）
2）博物館実習先開拓ガイダンス（2年次）
3）博物館実習直前ガイダンス（3年次）

Ⅲ 学芸員課程科目の履修 …… 110
A. 科目番号（科目ナンバリング）…… 110
B.「必修科目」の履修 …… 111
1）必修科目
2）履修上の注意
3）履修科目登録上限単位数の特例措置
4）「博物館資料論」・「博物館資料保存論」の履修
5）「博物館実習」の履修
C.「選択科目」の履修 …… 113
1）選択科目
2）履修上の注意

Ⅰ 学芸員資格

1 博物館と学芸員

「博物館」とは、博物館法第２条の定義によれば、「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」であり、美術館、資料館、郷土館、動物園、水族館等も含んでいる。
このような「博物館」は、博物館相当施設まで加えると国公私立あわせて全国に1,000以上あり、図書館や公民館などとともに社会教育上欠かせない施設となっている。また、我が国の学術や文化の向上発展にも重要な役割を果たしている。
「学芸員」とは、これらの博物館・美術館等に勤務し、博物館資料の収集や保管・展示、および調査研究、さらにはそれらに関連する事業を担当する専門職員のことである。
博物館には、博物館法第４条第３項、および第４項に規定されている「学芸員」を置くことが義務付けられている。
博物館に学芸員として勤務するためには、学芸員の資格が必要である。
学芸員資格を取得するには、文部科学省の行う試験に合格するという方法もあるが、大学における学芸員の養成課程を履修して取得する方法が一般的である。
本学では、正規の授業を受講しながら、同時に学芸員課程として規定されている単位を修得すれば、学芸員の資格が取得できるように、学芸員課程を設置している。

2 学芸員資格取得の条件

本学では、博物館法第５条第１項の規定に従い、その養成を目的として**第１表**（必修科目）および**第２表**（選択科目）に示す授業科目を開設している。
学芸員となる資格を取得するにあたっては、必要な登録手続きを行い、学芸員課程として規定されている単位数を修得し、学士の学位を取得することが条件となっている。

3 学芸員資格証明書の交付

本課程に登録し、所定の単位を修得（修得見込みを含む）した卒業年次生は、単位認定の審査を受けることとなる。
審査の結果、単位認定がなされた者は、卒業確定者発表の際、その旨をLiveCampusU等で掲示し、学位記授与式当日（秋（９月）卒業者は学位記授与日）に教務部で学芸員資格証明書を交付する。

Ⅱ 学芸員課程の説明会・ガイダンス

学芸員課程に取り組むにあたっては、以下の説明会・ガイダンス等に必ず出席すること。**なお、説明会・ガイダンス等に出席する際は、学生証を必ず持参すること（出席確認を行う）。**
日程の詳細は巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。場所等についてはLiveCampusU等で案内する。

1 学芸員課程登録説明会（1年次）

対　象　文芸学部１年次生

学芸員資格取得のために学芸員課程必修科目の履修を希望する学生は、２年次に進級する直前に開催される「学芸員課程登録説明会」に出席し、指示に従って登録手続きを完了させなければならない。また、学芸員課程必修科目担当教員から博物館学芸員としての心構えや現状と将来などについての講演が行われるので、課程登録希望者は、必ず出席すること。

〈学芸員課程費〉
※登録費として5,000円を所定の期間に納付しなければならない（納付方法については説明会当日に説明を行う）。一度納付した登録費は、いかなる事情があっても返還しない。また、課程登録後、やむを得ず辞退する場合は、必ず教務部まで申し出ること。
なお、「博物館実習」履修年度には、別途実習費として10,000円が必要となる。詳細は後述する「博物館実習先開拓ガイダンス」にて説明する。

2 博物館実習先開拓ガイダンス（2年次）

対　象　翌年度「博物館実習」科目履修予定者
※前年度までに、２年次配当の学芸員課程必修科目16単位のうち、「博物館概論」および「博物館教育論」を含む８単位を修得見込みであること。

博物館実習をするためには、学生自ら実習館園を開拓しなければならない。そのため、実習をする前年度後期から希望する館園先を調査・決定し、応募要項に従って手続きを進める必要がある。
本ガイダンスでは、講師による博物館実習の意義、博物館実習開拓における心構え、博物館実習で学ぶべきこと等の講演と、教務部による実習館園への連絡方法、応募手順、選考方法等についての説明を行う予定である。対象者（翌年度「博物館実習」科目履修予定者）は必ず出席すること。

〈博物館実習費〉
※実習館園が決定した学生は、実習費として10,000円を所定の期間に納付しなければならない（納付方法についてはガイダンス当日に説明を行う）。一度納付した実習費は、いかなる事情があっても返還しない。

3 博物館実習直前ガイダンス（3年次）

対　象　本年度「博物館実習」科目履修者

本ガイダンスは授業の一環であり、博物館実習に関する事前指導のひとつである。講師からは博物館実習に臨む際に必要な心構えや全般の諸注意、教務部からは実習日誌の記入方法、実習に関する事務連絡を行う。本年度の博物館実習予定者は、必ず出席すること。

※直前ガイダンスのほか、別途「マナー講座」を開催予定であるので、あわせて出席すること。詳細はLiveCampusU等で案内する。

Ⅲ 学芸員課程科目の履修

A 科目番号（科目ナンバリング）

［例］「博物館実習（美術史）」

QCC _ J 1 0 _ 3 _ 2 0 9 2

①教育課程　②分野・区分・領域　③配当年次　④科目の位置づけ　⑤識別番号

学芸員課程の専門科目に該当し、博物館法施行規則に定める博物館実習に関する科目に対応する科目であること、３年次から履修することができる選択必修科目であり、美術史を扱った博物館実習科目であることを意味している。なお、他の分野・区分・領域等については以下分類表を参照のこと。
※選択科目に該当する科目については、各学科の科目番号（科目ナンバリング）を参照のこと。

①教育課程

Ｑ Ｃ Ｃ	学芸員課程

②分野・区分・領域

分野		区分		領域	
A	生涯学習概論	0	－	0	－
B	博物館概論	0	－	0	－
C	博物館経営論	0	－	0	－
D	博物館資料論	0	－	0	－
E	博物館資料保存論	0	－	0	－
F	博物館展示論	0	－	0	－
G	博物館教育論	0	－	0	－
H	博物館情報・メディア論	0	－	0	－
J	博物館実習	1	美術史	0	－
		2	民俗学	0	－
		3	考古学	0	－

＊領域の分類が存在しない科目群については、０を便宜上付している。

③配当年次

1	１年次から履修できる科目
2	２年次から履修できる科目
3	３年次から履修できる科目
4	４年次から履修できる科目

④科目の位置づけ

1	必修科目
2	選択必修科目

⑤識別番号

各科目に適宜固有の番号を割り当てている。特段の意味を有しない。

B 「必修科目」の履修

1 必修科目

第１表右欄の「本学開設の授業科目」に従い、**19単位**を修得すること。

第１表　必修科目

博物館法施行規則に基づく科目		本学開設の授業科目			
科目名	単位数	授業科目名	単位数	配当年次	備考
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2年	半期科目
博物館概論	2	博物館概論	2	2年	
博物館経営論	2	博物館経営論	2	2年	
博物館資料論	2	博物館資料論	2	2年	
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	2年	
博物館展示論	2	博物館展示論	2	2年	
博物館教育論	2	博物館教育論	2	2年	
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	2年	
博物館実習	3	博物館実習（美術史）	3	3年	通年科目 １科目を必修とする
		博物館実習（民俗学）			
		博物館実習（考古学）			

2 履修上の注意

第１表に示す必修科目は、進級および卒業に必要な単位には算入されない。
なお、学芸員課程登録の手続きをした者のみが履修できる。

3 履修科目登録上限単位数の特例措置

学芸員課程に登録した学生は、下記のとおり履修科目登録超過可能単位数まで、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定Ⅲ-２学科科目履修方法　各学科の１履修科目登録上限単位数】を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
なお、超過する単位数が不適正であり、是正の指示があった場合はそれに従うこと。

【2022年度以降入学者】
学芸員課程に登録した学生のうち、直近の年度GPAが2.5以上の場合、16単位まで、履修科目登録上限単位数を超えて当該課程の科目を履修登録することができる。
２年次以降に特例措置を受けている者のうち、前期末GPAが2.5未満の学生については、改善を促す働きかけを学芸員課程担当教職員より行う。また、直近の年度GPAが2.5未満の学生に対しては学芸員課程担当教職員が面談を行い、学芸員課程継続への意思確認を行うとともに、今後の単位修得状況改善計画書を提出させ、その内容について学芸員課程担当教職員にて検討を行い、妥当と判断された場合に特例措置の適用を認める。

【2021年度以前入学者】
学芸員課程に登録した学生は、各年次16単位まで、履修科目登録上限単位数を超えて当該課程の科目を履修登録することができる。

4 「博物館資料論」・「博物館資料保存論」の履修

この科目はセットで履修することになっている。また、機材を使用する実習を含む授業であるため、履修者数に定員を設け抽選登録を必要とする。ついてはLiveCampusU上にて抽選登録期間中に履修登録手続きをする必要があるので十分注意すること。
なお、「博物館資料論」「博物館資料保存論」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の科目の履修を希望する場合は、抽選登録期間締切日までに教務部に申し出ること。

抽選登録期間　巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

定　　員　各科目とも原則として、15名（予定）
（応募者多数の場合は自動抽選となる。※卒業年次生を優先することになる。）

5 「博物館実習」の履修

① 法定基準にある「博物館実習」について、本学では、美術史、民俗学、考古学の３分野にわたって開設する。その中から１科目を修得すること。

② この科目は、美術館や博物館等での実習を含む授業であり、担当教員等の引率による実地研修もあるため、履修者数に定員を設け抽選登録を必要とする。ついては、LiveCampusU上にて抽選登録期間中に履修登録手続きをする必要があるので十分注意すること。

抽選登録期間	巻頭の『文芸学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
定　　員	各科目とも原則として、20名 （応募者多数の場合は自動抽選となる。※卒業年次生を優先することになる。）
対　　象	文芸学部３・４年次生

③ 実習先の開拓については履修する前年度後期に行う「博物館実習先開拓ガイダンス」にて説明する。ガイダンスの詳細はLiveCampusU等で案内する。

④ **「博物館実習」を履修するには、前年度までに２年次配当の学芸員課程必修科目16単位のうち、「博物館概論」および「博物館教育論」を含む８単位を修得しなければならない。**

C 「選択科目」の履修

1 選択科目

第２表に示す系列（A～D）から**２系列以上にわたって８単位（１つの系列について最低４単位）以上**を修得すること。

第２表　選択科目

系列		単位数	本学開設の授業科目 授業科目名	単位数	配当年次
A	文化史	4	文化史概論Ⅰａ	2	1年
			文化史概論Ⅰｂ	2	
			文化史概論Ⅱａ	2	1年
			文化史概論Ⅱｂ	2	
			文化史概論Ⅲａ	2	1年
			文化史概論Ⅲｂ	2	
			日本文化史ａ	2	2年
			日本文化史ｂ	2	
			東洋文化史ａ	2	2年
			東洋文化史ｂ	2	
			西洋文化史ａ	2	2年
			西洋文化史ｂ	2	
			文化史特殊講義Ⅰａ	2	2年
			文化史特殊講義Ⅰｂ	2	
			文化史特殊講義Ⅱａ	2	2年
			文化史特殊講義Ⅱｂ	2	
			文化史特殊講義Ⅲａ	2	2年
			文化史特殊講義Ⅲｂ	2	
			文化史特殊講義Ⅳａ	2	2年
			文化史特殊講義Ⅳｂ	2	
B	美術史	4	美術史入門ａ	2	1年
			美術史入門ｂ	2	
			日本美術史一般講義ａ	2	2年
			日本美術史一般講義ｂ	2	
			東洋美術史一般講義ａ	2	2年
			東洋美術史一般講義ｂ	2	
			西洋美術史一般講義Ⅰａ	2	2年
			西洋美術史一般講義Ⅰｂ	2	
			西洋美術史一般講義Ⅱａ	2	2年
			西洋美術史一般講義Ⅱｂ	2	
			美術史特殊講義Ⅰ	2	2年
			美術史特殊講義Ⅱ	2	2年
			美術史特殊講義Ⅲ	2	2年
			美術史特殊講義Ⅳ	2	2年
			美術史特殊講義Ⅴ	2	2年
C	考古学	4	考　古　学ａ	2	2年
			考　古　学ｂ	2	
D	民俗学	4	民俗学特殊講義Ⅰａ	2	2年
			民俗学特殊講義Ⅰｂ	2	
			民俗学特殊講義Ⅱａ	2	2年
			民俗学特殊講義Ⅱｂ	2	
			民俗学特殊講義Ⅲａ	2	2年
			民俗学特殊講義Ⅲｂ	2	

2 履修上の注意

第２表の科目は、各自の所属する学科および科目を開設する学科の履修規定に従い、進級および卒業に必要な単位に算入される。
また、教職課程における教科に関する科目と重複している場合、学芸員と教職双方の課程における必要単位に算入される。

社会調査士資格

1　社会調査士とは

一般社団法人 社会調査協会（以下、「社会調査協会」という）が認定する資格である。社会調査に関する基礎的な知識・技能、相応の応用力を身につけた者に認められる。具体的には、標準カリキュラムとして認定された科目を履修していくことで取得が可能となる。

2　資格取得の条件

社会調査士の資格を取得するためには、下記の表のA～Gに対応する授業科目の単位を修得し、学士の学位を取得することが条件となっている。なお、対応する科目は、年度ごとに社会調査協会の認定を得る必要がある。

※ 2024年度以前開講の認定科目については、社会調査協会のホームページを参照すること。

【2025年度開講の認定科目一覧】（予定）

科目区分		本学部での開設科目				本学部での最低必要単位・科目数
		1　年	2　年	3　年	4　年	
A	社会調査の基本的事項に関する科目	マスコミ研究法②				2
B	調査設計と実施方法に関する科目	マスコミデータ解析実習Ⅰ②				2
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目	マスコミデータ解析実習Ⅱ②（CとD）※1				2
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	マスコミデータ解析実習Ⅱ②（CとD）※1				2
		コンピューター・リテラシーB②				
			統計学④			
E	多変量解析の方法に関する科目	コンピューター・リテラシーC②				E・F いずれか 2
			コミュニケーション講義Ⅲ②			
F	質的な調査と分析の方法に関する科目			マスコミ演習a②（森暢平）		
G	社会調査を実際に経験し学習する科目			マスコミ実習Ⅴ② マスコミ実習Ⅵ②		いずれか 1科目

（注）○で囲まれた数字は、当該科目の単位数をあらわす。
※1　「マスコミデータ解析実習Ⅱ」の単位を修得した場合、2単位でCとDを満たすことができる。

3　資格の認定

社会調査士資格は、社会調査協会により認定される。申請手続きの詳細については、社会調査協会のホームページを参照すること。

4　ガイダンス

「マスコミ実習Ⅴ」と「マスコミ実習Ⅵ」については、前年度の12月あるいは1月にガイダンスを行う。履修を考えている学生は掲示に注意してかならず出席すること。

5　登録上の注意

「マスコミ実習Ⅴ」および「マスコミ実習Ⅵ」は、特別な履修登録手続きを必要とする科目である。詳細については掲示を確認すること。また、当該科目を履修するためには、「マスコミデータ解析実習Ⅰ・Ⅱ」の修得が条件となる。詳細はシラバスを参照のこと。

6　問い合わせ

〔一般社団法人　社会調査協会事務局〕
〒113-0033　東京都文京区本郷5-25-18　メゾン鈴博3F
TEL：03-6273-9784
FAX：03-5684-0374
ホームページ：http://jasr.or.jp/

（学内問い合わせ先）文芸学部共用研究室

学則・その他

成城大学学則
成城大学学位規則

大学ホームページ
【成城大学について／大学概要／学則】
https://www.seijo.ac.jp/about/outline/policies/

キャンパスマップ

大学ホームページ
【成城大学について／キャンパスマップ】
https://www.seijo.ac.jp/about/map/

成城大学 文芸学部
履修の手引

2025年4月発行

〒157-8511　東京都世田谷区成城6－1－20
成城大学 教務部
TEL. 03-3482-9045

文芸学部
（2025年3月1日）

授業科目の新設・名称変更・廃講　一覧表

授業科目の新設

新設年度	授　業　科　目　名		備　　考
2025年度	キャリア・ベーシックⅠ～Ⅲ キャリア・エクスペリエンス ワーク・キャリアⅠ～Ⅲ	キャリア・プラクティスⅠ～Ⅵ ライフ・キャリアⅠ～Ⅲ	共通科目　選択科目　キャリア科目
	ラグビー（A）	ラグビー（B）	共通科目　選択科目　教養科目
2024年度	ヨーロッパの文化特殊講義a ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）	ヨーロッパの文化特殊講義b ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ（仏）	ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化学科：学科科目　選択科目　特殊講義科目 国文・英文・芸術・文化史・ﾏｽｺﾐ：自由選択
	Japan Studies ⅨA	Japan Studies ⅨB	共通科目　選択科目　教養科目
	海外短期語学研修(スペイン語･春季)	海外短期語学研修(スペイン語･夏季)	共通科目　選択科目　教養科目
	日本語(初級1)Ⅰ～Ⅱ 日本語(中級)Ⅰ～Ⅳ	日本語(初級2)Ⅰ～Ⅲ	共通科目　選択科目　教養科目
2023年度	Special Topics ⅤA	Special Topics ⅤB	共通科目　選択科目　教養科目
	言語学特殊講義Ⅰ（独）	言語学特殊講義Ⅱ（仏）	ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化学科：学科科目　選択科目　講義科目 国文・英文・芸術・文化史・ﾏｽｺﾐ：自由選択
2022年度	ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ･ﾜｰｸﾌﾛｰ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	データサイエンス特殊講義Ⅰ～Ⅳ	2022年度以降入学者のみ履修可 共通科目　選択科目　教養科目
	機械学習応用		
	数理科学基礎a・b	数理科学応用a・b	共通科目　選択科目　教養科目
2021年度	広域芸術論演習a	広域芸術論演習b	ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化学科：学科科目　選択科目　演習科目 国文・英文・芸術・文化史・ﾏｽｺﾐ：自由選択
	広域芸術論講義		ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化学科：学科科目　選択科目　講義科目 国文・英文・芸術・文化史・ﾏｽｺﾐ：自由選択
	広域芸術論特殊講義		ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化学科：学科科目　選択科目　特殊講義科目 国文・英文・芸術・文化史・ﾏｽｺﾐ：自由選択
	日本語（初級）ⅠA・ⅠB 日本語（初級）ⅡA・ⅡB	日本語（初級）ⅢA・ⅢB 日本語（初級）ⅣA・ⅣB	共通科目　選択科目　教養科目
2020年度	韓国語会話選択a・b ディプロム・コース中級（スペイン語）a・b	ディプロム・コース中級（韓国語）a・b	共通科目　選択科目　外国語科目　特選外国語
2019年度	日本語（初級）ⅠA・ⅠB 日本語（上級）ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB	日本語（中級）ⅠA・ⅠB～ⅣA・ⅣB	共通科目　選択科目　教養科目
	成城インターンシップ		共通科目　選択科目　キャリア科目
2018年度	Special Topics ⅣA・ⅣB		共通科目　選択科目　教養科目
	海外短期語学研修（英語・春季） 海外短期語学研修（英語・夏季） 海外短期語学研修（独語・春季） 海外短期語学研修（仏語・春季） 海外短期語学研修（中国語・夏季） 海外短期語学研修（英語・就業体験準備）		共通科目　選択科目　教養科目
	英語リスニング＆スピーキング（初級）a・b 英語リスニング＆スピーキング（中級）a・b 英語リスニング＆スピーキング（上級）a・b 英語リーディング＆ライティング（初級）a・b 英語リーディング＆ライティング（中級）a・b 英語リーディング＆ライティング（上級）a・b 英会話選択a・b ビジネス英語a・b 英文多読a・b Academic Communication a・b 独会話選択a・b 独語選択（初級）Ⅰa・Ⅰb 独語選択（初級）Ⅱa・Ⅱb 独語選択（中級）a・b 仏会話選択a・b 仏語選択（初級）Ⅰa・Ⅰb	仏語選択（初級）Ⅱa・Ⅱb 仏語選択（中級）a・b スペイン語選択（初級）a・b スペイン語選択（中級・ディプロム）a・b 中国語選択（初級）Ⅰa・Ⅰb 中国語選択（初級）Ⅱa・Ⅱb 中国語選択（中級）a・b 韓国語選択（初級）a・b 韓国語選択（中級・ディプロム）a・b	共通科目　外国語科目　特選外国語

授業科目の名称変更

変更年度	新授業科目名	旧授業科目名	備考
2022年度	データサイエンス基礎	データサイエンス入門Ⅰ	共通科目　選択科目　教養科目
	データアナリティクス基礎	データサイエンス入門Ⅱ	
	データアナリティクス応用	データサイエンス応用	
	機械学習基礎	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	
2018年度	ディプロム・コース中級（英語）a	ディプロム・コース中級（英語）A	共通科目　外国語科目　特選外国語
	ディプロム・コース上級（英語）b	ディプロム・コース上級（英語）B	
	ディプロム・コース中級（独語）a	ディプロム・コース中級（独語）A	
	ディプロム・コース中級（独語）b	ディプロム・コース中級（独語）B	
	ディプロム・コース上級（独語）a	ディプロム・コース上級（独語）A	
	ディプロム・コース上級（独語）b	ディプロム・コース上級（独語）B	
	ディプロム・コース中級（仏語）a	ディプロム・コース中級（仏語）A	
	ディプロム・コース中級（仏語）b	ディプロム・コース中級（仏語）B	
	ディプロム・コース上級（仏語）a	ディプロム・コース上級（仏語）A	
	ディプロム・コース上級（仏語）b	ディプロム・コース上級（仏語）B	

※旧名称の科目の単位を修得している場合は、新名称の科目を履修することができない。

授業科目の廃講

廃講年度	授業科目名		備考
2024年度	キャリア形成Ⅰ～Ⅳ		共通科目　選択科目　キャリア科目
	プロジェクト演習		
	成城インターンシップ		
	業界企業分析		
	職業選択		
	キャリア・プランニング・プログラムⅠ	キャリア・プランニング・プログラムⅡ	
	時事英語Ⅰ	時事英語Ⅱ	
	時事問題研究		
2023年度	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa(独)	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰb(独)	ﾖｰﾛｯﾊ文化学科：学科科目　選択科目　特殊講義科目 国文・英文・芸術・文化史・ﾏｽｺﾐ：自由選択
	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa(仏)	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱb(仏)	
	Oceanian Studies A	Oceanian Studies B	共通科目　選択科目　教養科目
	日本語(初級)ⅠA・ⅠB～ⅣA・ⅣB	日本語(中級)ⅠA・ⅠB～ⅣA・ⅣB	共通科目　選択科目　教養科目
	日本語(上級)ⅤA・ⅤB		
2022年度	Academic Skills ⅥA	Academic Skills ⅥB	共通科目　選択科目　教養科目
	ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa(独)	ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa(仏)	ﾖｰﾛｯﾊ文化学科：学科科目　選択科目　講義科目 国文・英文・芸術・文化史・ﾏｽｺﾐ：自由選択
	ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰb(独)	ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱb(仏)	
2021年度	数理科学Ⅰa～Ⅱb		共通科目　選択科目　教養科目
2020年度	広域芸術論演習Ⅰa	広域芸術論演習Ⅱa	ﾖｰﾛｯﾊ文化学科：学科科目　選択科目　演習科目 国文・英文・芸術・文化史・ﾏｽｺﾐ：自由選択
	広域芸術論演習Ⅰb	広域芸術論演習Ⅱb	
	日本語（初級）ⅠA・ⅠB		共通科目　選択科目　教養科目
2019年度	Academic Communication a・b スペイン語選択（中級・ディプロム）a・b	韓国語選択（中級・ディプロム）a・b	共通科目　選択科目　外国語科目　特選外国語
2018年度	日本語A・B		共通科目　選択科目　教養科目

※修得した単位は各分野・区分の単位として認められる。
※廃講年度は、その科目が最後に開講された年度を示す。